

宮の前遺跡

緊急発掘調査報告書

1994

上田市教育委員会
上小地方事務所

宮 の 前 遺 跡

緊急発掘調査報告書

1 9 9 4

上田市教育委員会
上小地方事務所

例 言

- 1 本書は、長野県上田市大字別所温泉字宮の前における平成4・5年度宮の前遺跡発掘調査報告書である。
- 2 調査は、県営ほ場整備事業別所地区の実施に先立ち、上小地方事務所の委託を受け行った。
- 3 調査は、上田市（上田市教育委員会社会教育課）が国庫補助事業として直営で実施した。
- 4 調査は、発掘調査から遺物整理・報告書刊行まで含めて1992年（平成4年）6月1日から1995年（平成7年）3月24日まで実施した。
- 5 遺構の実測は尾見智志・清水彰・池田市郎・甲田五男・春日智恵が行い、一部を縮写真測図研究所に委託した。トレースは井澤光子・丸田由紀子・山本万里が行った。
- 6 遺物整理・復元作業は尾見智志・宮川祐一郎・山口幸雄・池田市郎・甲田五男・西沢勝・井澤光子・丸田由紀子・山本万里・久保きぬ子・唐沢恵美子が行った。
- 7 遺物の実測は尾見智志が行った。トレースは井澤光子・丸田由紀子・山本万里が行った。
- 8 本文の執筆は尾見智志が行った。遺物の観察も尾見が行った。
- 9 版組は尾見智志・井澤光子・丸田由紀子・山本万里・市村みつ子が行った。
- 10 遺構・遺物の写真撮影は尾見智志が行った。
- 11 調査に係る基準点測量は山崎みずす測量設計に委託した。
- 12 調査に係る資料は上田市立信濃国分寺資料館に保管してある。
- 13 本書の編集刊行は事務局（上田市教育委員会社会教育課）が行った。
- 14 本書が上梓されるまでには、非常に多くの方々や諸機関のご理解・ご協力を賜った。以下ご芳名を記して深く感謝の意を表したい。（順不同、敬称略）

黒坂周平、長野県教育委員会文化課、上小地方事務所土地改良第一課、別所地区ほ場整備事業実行委員会、地元自治会、南条旅館、上田市農村整備課、赤塩一巳、塩入秀敏、児玉卓文、坂井美嗣、上島久和、中屋克彦、青木一男、臼居直之、野村一寿

- 15 本調査に係る事務局の体制は次のとおりである。

教 育 長	内藤尚
教 育 次 長	小沢良行（平成6年3月31日退任）
”	荒井鉄雄（平成6年4月25日着任）
社会教育課長	須藤清彬（平成6年4月25日退任）
”	松沢征太郎（平成6年4月25日着任）
文 化 係 長	中村博美（平成5年9月30日退任）
”	岡田洋一（平成5年10月1日着任）
文 化 係	中沢徳士
”	尾見智志

- # 塩崎幸夫
- # 久保田敦子
- # 清水彰 (平成5年4月1日着任)

16 発掘・整理作業に参加、協力していただいた方々(順不同、敬称略)

関茂樹、宮川祐一郎、山口幸雄、甲田五男、池田市郎、林さち子、竹内勇、鎌田久一、三輪邦時、北沢竹人、深草今朝広、増沢さだ子、上原九子、竹内ふくじ、赤羽古、竹内松子、西谷知子、山岸忠、前山紀子、伊藤里美、原章展、荒井かざ子、清水関二、井澤光子、西沢勝、滝沢芳枝、小山倍子、野田三雄、成沢伯、宮沢浅人、春日智恵、塩沢むつき、池田育子、塩川美代子、荒井陽太、宮崎喜美子、久保きぬ子、唐沢美恵子、丸田由紀子、山本万里

17 今回の発掘調査により、様々な遺構・遺物が検出された。遺構については、主なもののみを掲載した。また、遺物についても主要なもののみを掲載した。

＜ 目 次 ＞

第一章 調査の経過

第一節 調査に至る経過	1
第二節 調査の経過	2
第三節 調査日誌抄	2
第四節 報告書抄録	3

第二章 遺跡の環境

第一節 自然的環境	4
第二節 歴史的環境	4
第三節 基本層序	7

第三章 遺跡の調査

第一節 遺跡の概要	8
第二節 遺 構	11
第三節 遺 物	77
第四節 まとめ	119

写真図版	127
------------	-----

凡 例

[遺 構]

- 各遺構の略称は次のとおりである。
SB…竪穴住居跡・竪穴状遺構 ST…掘立柱建物跡 SK…土坑 SD…溝状遺構
- 遺構実測図は原則として原図1/20、縮尺1/4である。
- 遺構が時代の新しい遺構、あるいは攪乱等によって破壊を受けプランが明確でない場合は古い遺構を破線で示した。
- 遺構の主軸方位は、国家座標の北とのなす角度で示した。
- 焼土は網点のスクリーントーンで示した。
- 遺構写真図版の縮小は任意である。

[遺 物]

- 土器は縮尺1/4を原則とした。石器等は1/3を原則とした。例外はスケールで示した。
- 土器の実測方法は4分割法を用い、右側に断面及び内面を、左側に外面を記録した。
- 赤色処理のある遺物はスクリーントーン  で示した。
- 黒色処理のある遺物はスクリーントーン  で示した。
- 遺物番号は実測図版番号及び写真図版番号と一致している。
- 遺物写真図版の縮小は任意である。

[一 覧 表]

- 遺構一覧表の出土遺物番号は図版の遺物番号及び遺物一覧表の番号と対応する。
- 遺構一覧表の主軸方向は主に原則として北を基準としている。
- 土坑の一覧表は図示されている遺物が出土しているもののみを表示した。

住居名	平面形	主軸方向	カマド・炉の状況	出土土器番号	備 考

- 遺物一覧表の遺物番号は図版の遺物番号と遺構一覧表の出土遺物番号と対応する。

N0.	出土遺構	A器種B器形C文様D製作技法の特徴	a色調b胎土c焼成	残 率

- 石材については赤塩一巳氏に鑑定をお願いした。

第一章 調査の経過

第一節 調査に至る経過

平成3年度において上田市農政部農村整備課担当職員より「県営ほ場整備事業別所地区」の計画があるとの連絡を受けた。早速担当職員が過去の分布調査の結果と現地を確認したところ、事業地区内には「宮の前遺跡」が存在していることが判明した。平成3年9月1日には現地協議を行った。しかし、その範囲については過去の分布調査が遺物の表面採集によるものであったため、改めて試掘調査による範囲確認調査を行った。試掘調査の結果、字宮の前と字中曾根において弥生時代と奈良・平安時代の遺物と遺構が確認された。その結果をもとに保護協議を行い、下記の計画で発掘調査を実施することとした。

発掘調査計画書

発掘調査地	上田市大字別所温泉字宮の前及び字中曾根
遺跡名	宮の前遺跡
遺跡の状況	地目(水田)・破壊状況(一部破壊)
調査の目的及び概要	県営ほ場整備事業別所地区の施工に先立ち5,000㎡以上(雑草5,000㎡以上・雑草5,000㎡以上)を発掘調査して記録保存をはかる。 (遺跡における発掘作業は平成6年3月31日までに終了する。) (調査報告書は平成7年3月31日までに刊行するものとする。)
調査の作業日数	発掘作業100日 整理事業180日 合計280日
調査に要する費用	20,000,000円
調査報告書作製部数	300部
調査の主体者	上田市教育委員会
経費の負担割合	農政当局負担額(72.5%) 14,500,000円 文化財保護部局負担額(27.5%) 5,500,000円
備考	調査の結果、重要な遺構などが検出された時は、その保存について改めて協議するよう配慮する。

こうして平成4年6月1日には上田市は上小地方事務所と委託契約を結び調査に着手した。

第二節 調査の経過

(1)平成4年度の経過

本年度に係る発掘調査の総事業費は16,000,000円(農政部局負担額11,600,000円・文化財保護部局負担額4,400,000円)にて行われた。調査の結果、予想されたほど遺構が検出されなかったため総事業費は先のとおり減額された。発掘調査は6月1日から行われ、11月16日には終了した。12月21日からは整理作業を実施した。

(2)平成5年度の経過

本年度に係る発掘調査の総事業費は20,000,000円(農政部局負担額15,800,000円・文化財保護部局負担額4,200,000円)にて行われた。発掘調査は4月23日行われ、9月18日には終了した。当初は1ヶ月ほど早く調査が終了する予定であったが、近年稀に見る異常気象のため調査地区内に雨水が浸水し、長引いてしまった。9月20日からは整理作業・報告書作成作業を実施した。

(3)平成6年度の経過

本年度に係る報告書作成作業の総事業費は4,000,000円(農政部局負担額3,160,000円・文化財保護部局負担額840,000円)にて行われた。作業は、6月1日より行われた。平成7年3月24日には本書を刊行して調査を終了した。

第三節 調査日誌 (抄)

平成4年度

1992年(平成4年)

- 6月 1日 調査着手。機材搬入。表土剥ぎ。
- 6月 2日 テント設営。遺構検出作業を行う。
- 6月25日 基準点測量着手。
- 6月26日 グリット杭打ち開始。
- 6月30日 排水路を設置。
- 7月 8日 住居跡・土壌等堀上げ開始。
- 7月27日 溝跡にトレンチを入れる。
- 8月21日 1号溝跡堀上げ開始。
- 9月11日 4号溝跡堀上げ開始。
- 10月 1日 すばこ様調査。
- 11月 6日 調査地域内・遺構内の清掃をする。
- 11月11日 テント・機材撤収。
- 11月12日 平成5年度調査予定地域の試掘をする。
- 11月16日 航空写真撮影。
- 12月21日 現場作業棟にて遺物の洗浄・注記・接合を開始。

1993年(平成5年)

- 3月24日 平成4年度の作業を終了する。

平成5年度

1993年(平成5年)

- 4月23日 機材等の整備・準備。
- 4月26日 テント設営。表土剥ぎ。
- 5月6日 遺構検出作業を行う。
- 6月2日 遺構堀上げ開始。
- 8月11日 信濃国分寺資料館考古学教室発掘体験。
- 9月17日 調査地域内・遺構内の清掃をする。航空写真撮影。
- 9月18日 機材撤収。現地説明会を開く。
- 9月20日 現場作業棟にて遺物整理作業・報告書作成作業を開始。

1994年(平成6年)

- 3月25日 平成5年度の作業を終了する。

平成6年度

1994年(平成6年)

- 6月1日 現場作業棟にて報告書作成作業を開始。

1995年(平成7年)

- 3月24日 報告書刊行。

第四節 報告書抄録

書名(ふりがな)	宮の前遺跡発掘調査報告書 (みやのまえいせきほっくつちようさほうこくしよ)
シリーズ名	上田市文化財調査報告書
シリーズ番号	第51集
編著者名	尾見智志
編集機関	上田市教育委員会
所在地	〒386 長野県上田市天神二丁目4番74号
発行年月日	1995年 3月24日
所収遺跡名(ふりがな)	宮の前遺跡(みやのまえいせき)
所在地(しよざい)	上田市大字別所温泉宇宮の前(うみだしのあざべししよんせんあざみやのまえ)
コード(説明・遺跡番号)	20203・————
北緯・東経(°′″)	北緯36°21′9″・東経138°10′10″
調査期間	平成4年度 {1992.6/1~11/11} 平成5年度 {1993.4/26~9/18}
調査面積 m ²	10,000m ²
調査原因	県営ほ場整備事業に伴う事前調査

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宮の前遺跡	集落跡	弥生 奈良・平安	<small>最大柱礎径 52cm 最大柱礎高 61cm 土間地</small>	<small>弥生土器 土師器 石器・刀子</small>	

第二章 遺跡の環境

第一節 自然的環境

上田市の中央部を流れる千曲川を境として西方部は總称して川西地方という。この地域は更に浦野川流域と産川流域に分けられる。両者の間には川西丘陵山地と福田段丘台地がその境をなしている。この産川とその支流域によって形成された楕円形状の盆地を塩田平と呼んでいる。この盆地は、東に小牧山塊、西に男神岳・女神岳・大明神岳がピラミットあるいは帽子状に屹立している西部山地、南は富士山・独鈷山・富士岳とつらなる急峻な独鈷山脈、北は川西丘陵山地により囲まれている。河川はこの地形から産川を中心にして千曲川に流れ込んでいる。

塩田平は、産川を中軸として、その堆積物がもっとも広大であるが、これが為に湯川を西山麓に、尾根川を東山麓に押し、二河川の遺った堆積層と裾を合わせている。その縫合線を追開沢川と尻無川が流れている。これは湯川系の強粘土、産川系の砂質壤土、尾根川系の砂礫質壤土と、土質の境界線ともなっている。この堆積層の下に、青木層、別所層が堆積している。青木層は砂岩・礫岩層と、これに貫入したふん岩からなる。別所層はほとんど黑色頁岩（青木層、別所層の頁岩は泥岩と呼んでいるものもある。）からなり固結度も高く、このなかに径10cm内外の石灰岩質の結核を含んでいる。別所温泉は、別所層に貫入したふん岩の岩策が熱源である。

また、この地域は溜池が表徴するように、内陸性の気候を呈し、雨量が乏しく、年間降水量は1,000mm以下である。

宮の前遺跡のある別所地区は、塩田平の西端に位置し、温泉地としても有名である。西には男神岳、南には女神岳がそびえている。この二山の麓である別所地区は男神岳の山腹に源を発する湯川とその支流である腰巻川により押し出し地形を造っている。土質は、強粘土であり、以前にこの土を使って土瓦を焼いていたほどである。

第二節 歴史的環境

塩田平には遺跡が多く存在している。旧石器時代の遺跡は確認されていないが縄文時代から弥生時代・古墳時代、それ以後の遺跡も含め現在発見されている遺跡は200遺跡ほどある。

縄文時代の遺跡は、草創期のものと思われる有舌尖頭器が西前山から出土している。早期の遺跡として湯川最上流に塩水遺跡・比羅樹遺跡がある。塩水遺跡からは茅山式土器が出土している。前期は同じく湯川流域に堰口ノ一遺跡・北浦遺跡・産川中流域に神戸遺跡が知られている。堰口ノ一遺跡は発掘調査により諸磯C式期の住居跡が確認されている。また、手塚の五反田遺跡及

び富士山の上大郷遺跡からも諸磯C式期の土器が確認されている。中期になるとその遺跡数は急に増え、各河川の両岸に沿ったところに分布するようになる。新町の検田見遺跡は産川の段丘上に位置し、発掘調査により勝坂式期から加曾利B式期にかけての遺構・遺物が出土しており塩田平の当該期の代表的な遺跡である。後期になると遺跡も減少する。塩田平では、富士山の木皿遺跡・上大郷遺跡が知られている。上大郷遺跡では、堀の内式期の敷石住居跡をはじめ各種の遺構・遺物が出土している。晩期に至ってはその遺跡の存在は全く不明となっている。

弥生時代の遺跡は、前期・中期の遺跡はほとんど確認されていない。後期の後半になると遺跡数が爆発的に増加し塩田平全域に遺跡が分布するようになる。産川流域では杣木遺跡・西光坊遺跡が調査されている。追間沢川流域では和手遺跡が調査されている。東塩田地区では天神遺跡が調査されている。いずれも河川の自然堤防上に立地した集落跡である。出土土器は千曲川流域を中心に文化圏を形成している箱清水式土器である。

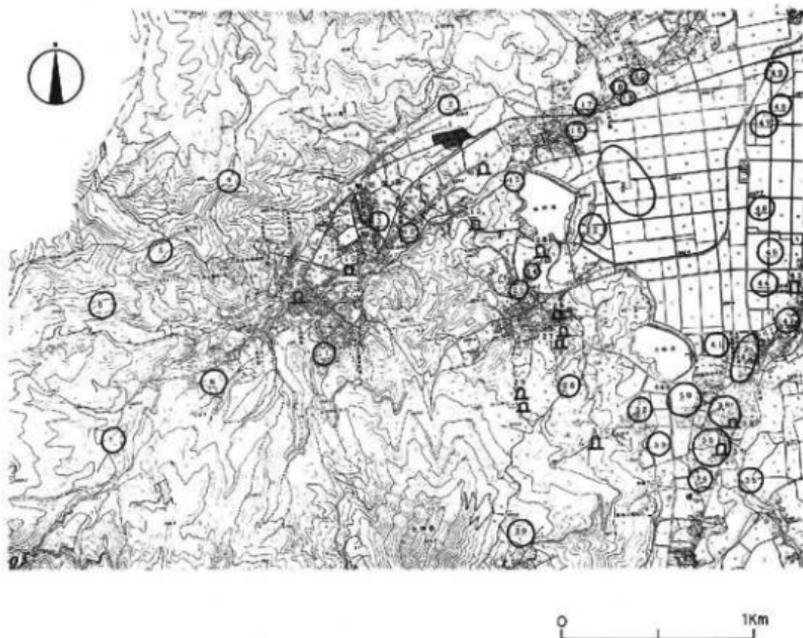
古墳時代の遺跡も数多く確認されている。古墳としては下之郷の他田塚古墳と塚穴原1号墳が調査されている。他田塚古墳は下之郷古墳群の内の1基である。調査の結果、6世紀後半に築造された円墳と考えられている。塚穴原1号墳も下之郷古墳群の内の1基である。円墳である。調査の結果、6世紀後半に築造された下之郷古墳群の盟主的古墳と考えられている。手塚には皇子塚古墳が存在する。円墳である。また、新町には塩田平最大規模の王子塚古墳が存在している。前方後円墳あるいは帆立貝式古墳と考えられている。

奈良・平安時代は上田・小県地方に信濃国府が設置されて信濃国分寺が造営されたこと。また、官道である東山道が整備されていたことにより繁栄していたことが推測される。塩田平においても多くの遺跡が確認されている。東塩田地区では天神遺跡が調査され、約25件の住居跡が確認されている。産川流域では杣木遺跡・西光坊遺跡が調査され、住居跡等が確認されている。保野の中井遺跡では調査の結果、掘立柱建物跡・井戸跡が確認されている。

中世以降は、城館跡・条里的遺構・神社・寺院などが文献資料とあいまって、質・量とも豊富に存在している。特に中世の繁栄は「信州の鎌倉」と言わしめるほどである。城館跡としては前山地区の塩田城跡が知られている。調査の結果、建物跡・敷石遺構等が検出され、土器・陶器・磁器・将棋の駒などが出土している。条里的遺構は各地で確認されている。神社は、下之郷の生島足島神社本殿・前山地区の塩野神社本殿などが知られている。寺院では富士山の西光寺の阿弥陀堂・前山地区の前山寺三重塔・中禅寺薬師堂・別所地区の安楽寺八角三重塔・常楽寺石造多宝塔などが知られている。国宝・重要文化財等の集中する地域となっている。

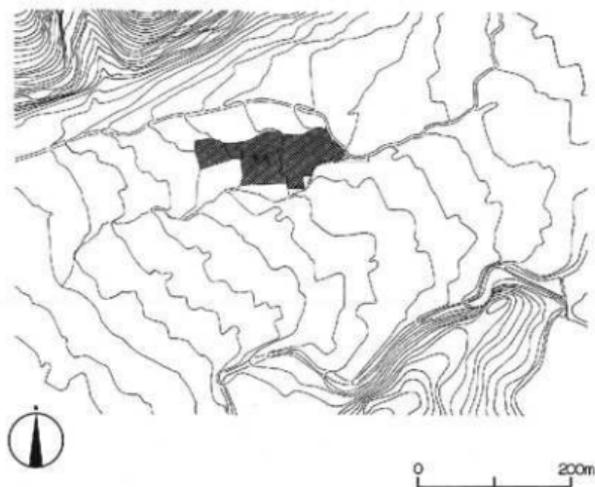
<参考文献>

- ・上田小県誌刊行会「上田小県誌（第四巻自然編）」1963
- ・上田市教育委員会「上田市の原始・古代文化」1977
- ・上田市立博物館「発掘された原始・古代」1992

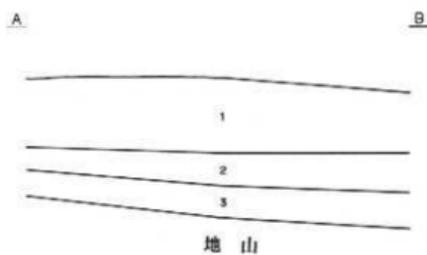


番号	遺跡名	時代	所在地	番号	遺跡名	時代	所在地
1	宮の北遺跡	弥生～平安	別所字宮の北	25	比叡	不明	山田字下打越
2	山崎御遺跡	平安	別所字山崎	27	上ノ山御古墳	古墳	山田字下打越
3	北野御遺跡	縄文	別所字北野	28	上打越遺跡	縄文	山田字上打越
4	北中遺跡	平安	別所字北中	29	上平古墳	古墳	山田字上平
5	伊賀遺跡	平安	別所字伊賀	30	穴平遺跡	奈良～平安	別所字穴平
6	北野遺跡	縄文	別所字北野	31	息子塚古墳	古墳	手塚字元子塚
7	馬水遺跡	縄文	別所字馬水	32	倉井遺跡	弥生	手塚字倉井
8	日影遺跡	平安	別所字日影	33	滝伏遺跡	平安	手塚字滝伏
9	上塚古墳	古墳	別所字東町	34	樋ノ口遺跡	縄文～平安	手塚字樋ノ口
10	河原野古墳	古墳	別所字河原野	35	友馬塚遺跡	古墳	山田字東馬塚
11	西大橋遺跡	古墳～平安	別所字大橋	36	京前庭村遺跡	縄文～平安	手塚字京前庭
12	穴下遺跡	縄文	別所字穴下	37	クサアケ塚古墳	古墳	手塚字横沢
13	北ノ沢古墳	古墳	山田字北ノ沢	38	立石遺跡	縄文～平安	手塚字立石
14	大塚古墳	古墳	別所字大塚	39	京前庭村古墳	古墳	手塚字京前庭
15	地田ノ遺跡	平安	八木沢字地田	40	塚ノノ一遺跡	縄文～平安	手塚字塚ノノ一
16	馬塚遺跡	弥生～平安	八木沢字馬塚	41	互反田遺跡	縄文～弥生	手塚字互反
17	砂塚遺跡	弥生～平安	八木沢字砂塚	42	玉字遺跡	弥生～平安	別所字玉字
18	渡田中遺跡	古墳～平安	八木沢字渡田中	43	玉字御古墳	古墳	別所字玉字
19	上丸正遺跡	縄文	八木沢字上丸正	44	塚ノノ二遺跡	縄文～平安	手塚字塚ノノ二
20	中丸正遺跡	縄文	八木沢字中丸正	45	岡手遺跡	平安	手塚字岡手
21	御田遺跡	平安	八木沢字御田	46	京長沼遺跡	縄文・平安	手塚字京長沼
22	原田遺跡	弥生～平安	山田字原田	47	加保遺跡	弥生～平安	手塚字加保
23	横山塚	不明	山田字竹ノ原	48	西洋遺跡	平安	十人字西洋
24	竹ノ原遺跡	縄文・平安	山田字竹ノ原	49	加保遺跡	平安～弥生	十人字加保
25	西村遺跡	平安	山田字西村	50	京前庭村遺跡	縄文～平安	手塚字京前庭

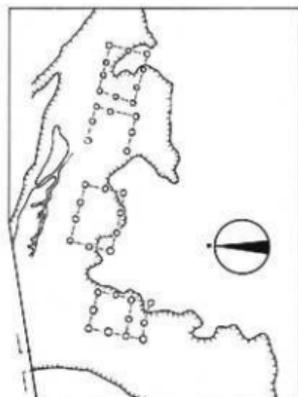
第1図 宮の前遺跡位置図



第2図 宮の前遺跡地形図



- 1 : 黄土
- 2 : 黄褐色土層 (粘土質)
- 3 : 灰褐色土層



第3図 層序模式図

第三章 遺跡の調査

第一節 遺跡の概要

宮の前遺跡は、塩田平の西端に位置しており、湯川とその支流である腰巻川によって押し出し地形を造っている。当該遺跡はこの河川間の微高地上に立地している。(第2図)遺跡の北側は腰巻川が流れており、南側は旧河川と思われる低地であり、現在は小河川が流れている。東側はこの二つの河川が合流している。このことから遺跡の範囲は自ずと限定されてくる。即ち、これらの河川に囲まれた範囲が宮の前遺跡である。トレンチ調査の結果もこれを裏付けるものとなっている。また、西側もトレンチ調査により調査範囲よりわずかに西方に広がる程度と思われる。

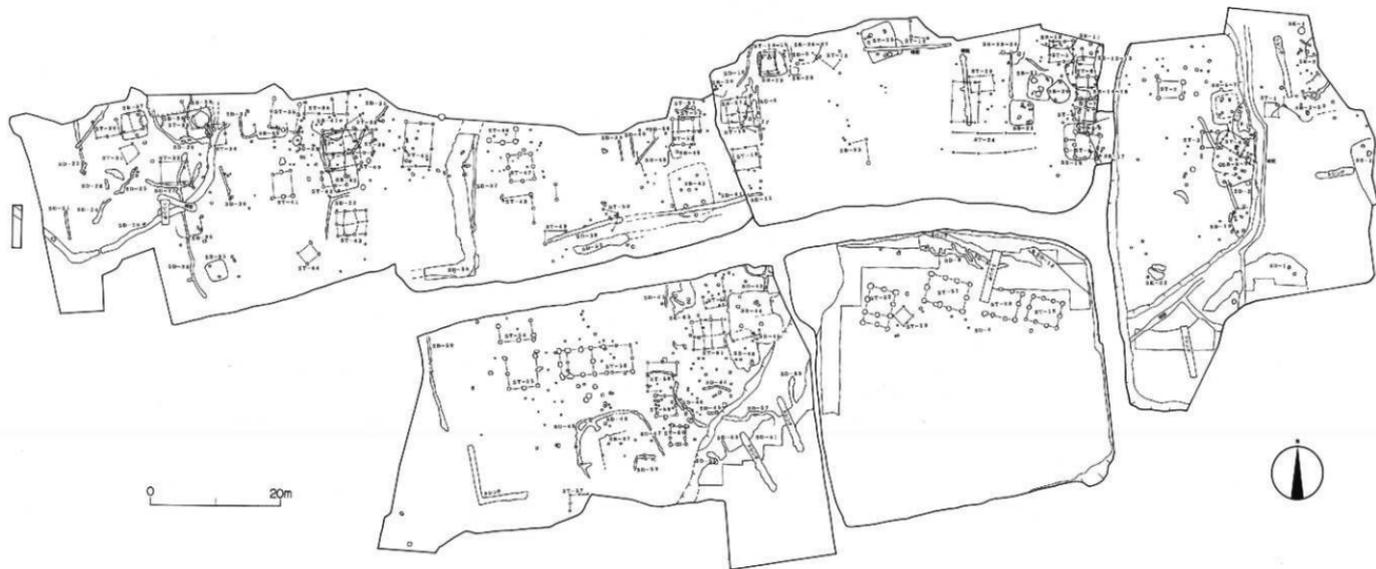
遺跡地の遺構までの土層は薄く、基本層序(第3図)は3つに別けられる。Ⅰ層は表土で現耕作土である。Ⅱ層は黄褐色土で粘土質の強い水田耕作土である。Ⅲ層は黒褐色土で遺物の包含層を形成している。調査地区は水田整地の為の削平が激しく、このⅢ層は僅かに残るのみで、Ⅱ層の下は地山となっていることが多かった。

調査地区(第4図)は、河川間の微高地の地区と河川跡と思われる低地の地区とに別けられる。微高地の調査地区は、戦前の水田の整地の為削平されており遺構(特に竪穴住居跡)の遺存状態は悪かった。しかし、竪穴住居跡内の遺物の出土位置はそのほとんどが床面上であった。調査地区南側の低地は、河川跡と考えられる。その全体を調査するには至らなかったが、何度かにわたり陸地になったり、河川になったりしていることがうかがえた。

主な遺構は竪穴住居跡52件・掘立柱建物跡61件・溝跡60条・その他土坑等があった。掘立柱建物跡についてはその数が増える可能性があり、溝跡は溝跡どうしがつながる可能性がある。特に掘立柱建物跡の数の多さは注目すべきものである。竪穴住居跡と掘立柱建物跡ともに調査地区全体に分布している。

遺跡の主な時代は出土遺物より、弥生時代後期後半から古墳時代初頭の時代と奈良時代から平安時代にかけての時代に別けることができる。遺構もほとんどがこの二つの時期のものと思われる。特に、掘立柱建物跡のほとんどは奈良時代から平安時代にかけての時代のもと思われる。溝跡は、その検出面より掘立柱建物跡と奈良時代から平安時代にかけての遺物が出土しており、その頃は、陸地化していたと思われる。河川跡の河床からは弥生時代後期後半から古墳時代初頭の遺物が出土している。この頃は河川が機能していたと思われる。その間の地層にも、柱穴などの生活の痕跡があるが時期は不明である。

また、縄文時代晩期の土坑1と土器1個体があった。近世の遺跡で地元では「すばこ様」として信仰されていた立石が調査地区内の水田の畦上に存在しており、発掘調査後に移転となった。



第4図 宮の前遺跡全体図

第二節 遺構

検出された遺構は、竪穴住居跡51件・掘立柱建物跡54棟・溝跡53条の他に土坑・ピット等が上げられる。

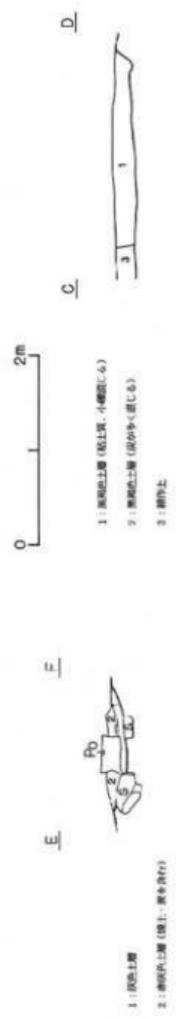
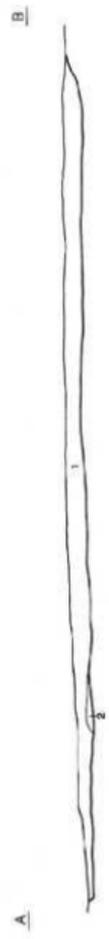
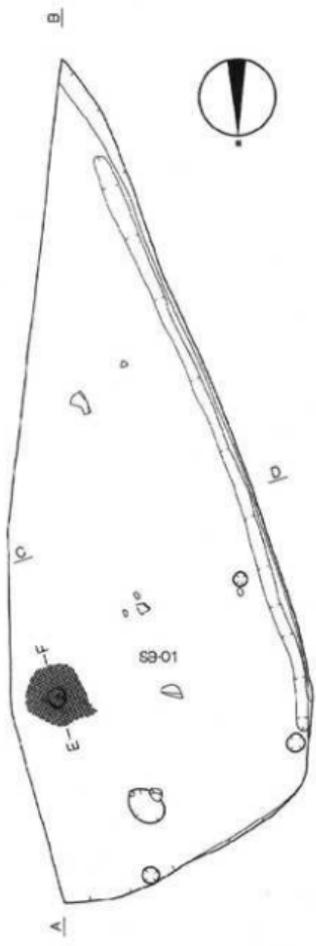
竪穴住居跡については、①弥生時代後期から古墳時代初頭と②奈良から平安時代の二時期に分けることができる。①の時代の主な住居跡は1, 10, 17, 18, 20, 25, 41, 43, 46号住である。平面形態は、1, 43, 46号住は隅丸長方形となり、18, 20, 25号住は隅丸方形である。炉はいずれも地床炉であり、1号住は炉胎土器を持つ。43号住には炉胎土器と共に炉緑石も持つ。②の時代の主な住居跡のうち、奈良時代の住居跡は8, 9, 22, 29, 35, 36, 37, 39, 40, 44, 45号住である。平安時代の住居跡は2, 7, 19, 26, 27, 28, 31号住である。出土土器より奈良時代から平安時代にかけての住居跡が中心となる。いずれもカマドを持つと思われる。

掘立柱建物跡は大型の建物から小型のものまで様々であるが、2間×3間の建物が多い。1間×1間、2間×2間の建物や総柱の建物も存在する。この建物の所属時期については19, 20, 21, 22号掘立柱建物跡の土層が比較的厚く、安定しており、その検出面からは平安時代の土器を中心として出土していることから、平安時代の掘立柱建物跡と考えられる。その他の掘立柱建物跡についてもほとんどがこの時期と思われる。掘立柱建物跡の方位については概ね東西か南北のどちらかであり、その中間の方角を向いている建物跡はほとんどない。なお、掘立柱建物跡の数は柱穴の集中する地区の見直しにより増加する可能性があることを断っておく。

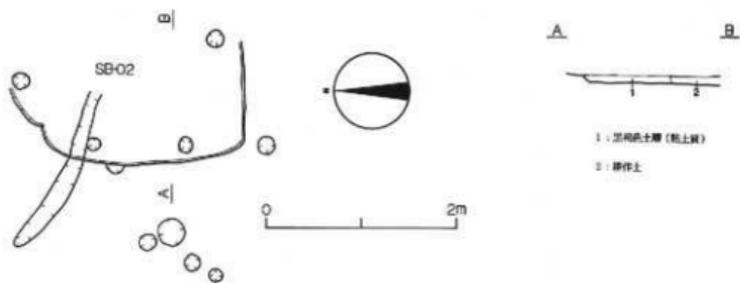
溝跡については、主なもののみについて説明する。1, 4, 51号溝跡は同一の河川跡と考えられる。奈良時代のころには陸地化していたと思われるが、弥生時代後期の頃は河川として機能していたと思われる。川岸跡には多量の土器が出土している。20号溝跡は方形に巡ると思われる溝跡である。幅は1m程で断面形はV字形となる。南西角付近には、溝を掘り残して橋としてある部分がある為、水路としてではなく区画の機能をもつものと思われる。平安時代の溝跡と思われる。36号溝跡は幅が2m程あり、断面形はV字形となる。当初は弥生時代後期に造られたと思われるが、奈良時代には半分ほど埋まった状態であったと思われる。また、27, 29, 32, 48号溝跡のように竪穴住居跡や掘立柱建物跡を囲むように巡る溝跡もある。

土坑には皿状のものと深く掘下げられたものがある。103号土坑などは皿状土坑の代表的なものである。ほとんどは平面形が円形で深く掘り下げられている。特に36, 115, 116, 176号土坑などは土坑の内部に土器が置かれていた。115号土坑から出土した土器は縄文時代晩期の水式期のものと思われる。

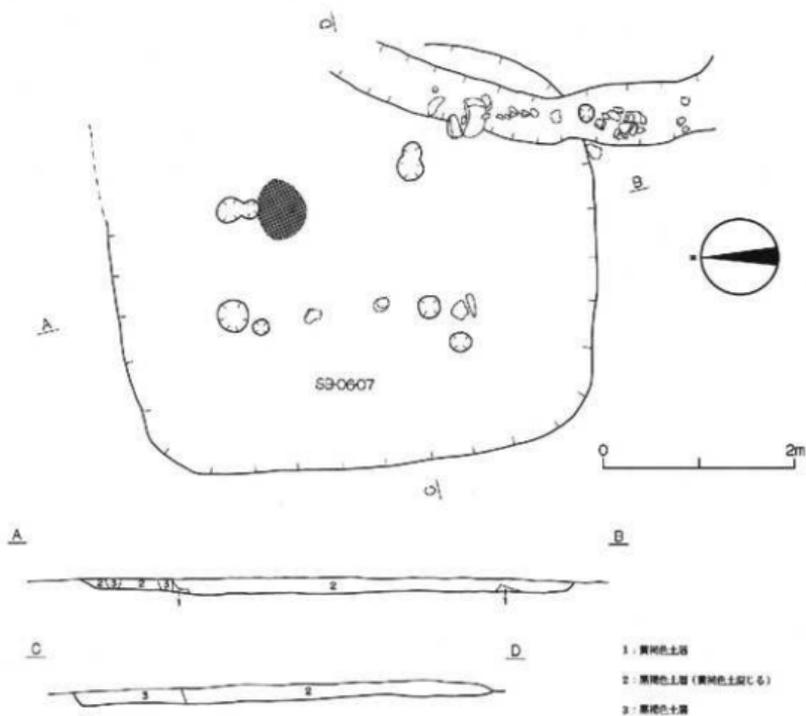
その他、8号竪穴住居跡の上層の水田の畦上には道祖神のような立石があり、地元では「スパコ的神様」・「スパコ道祖神」などと呼んで奉っていたようである。(第72図)これは、平安時代後期の書物から登場し始める病氣の名前である「寸白」と同一のものと思われる。



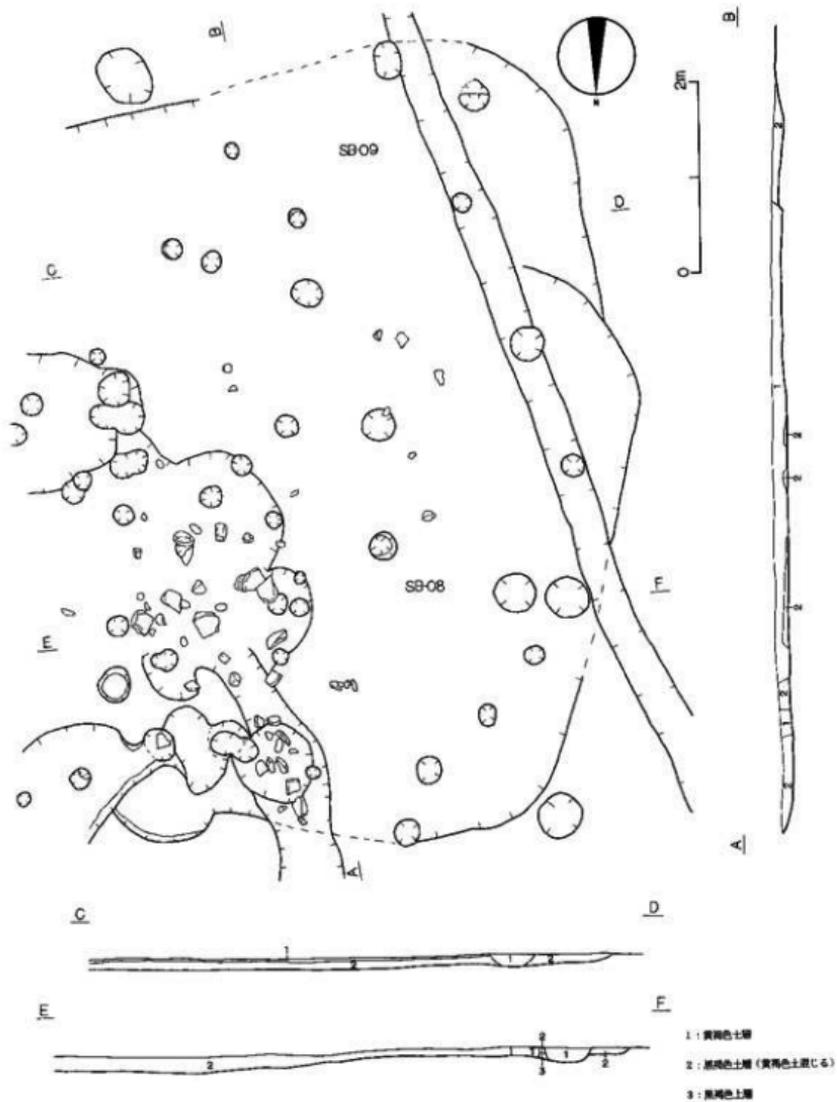
第5図 1号住居跡



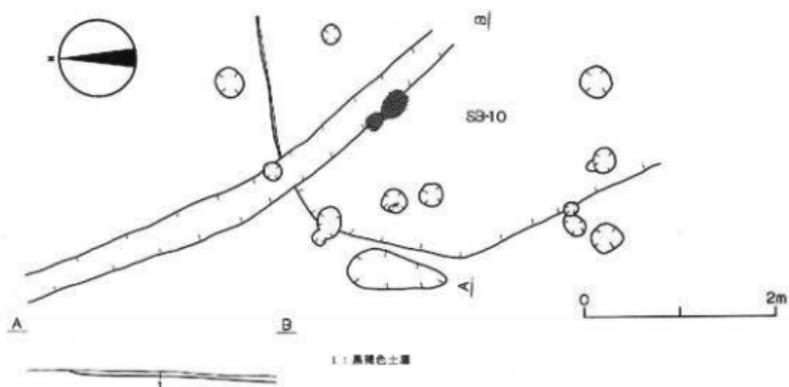
第6圖 2号住居跡



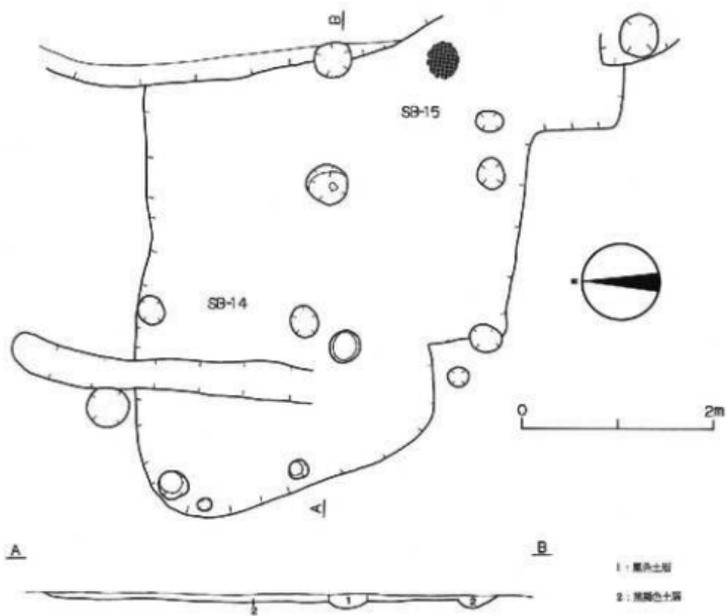
第7圖 6・7号住居跡



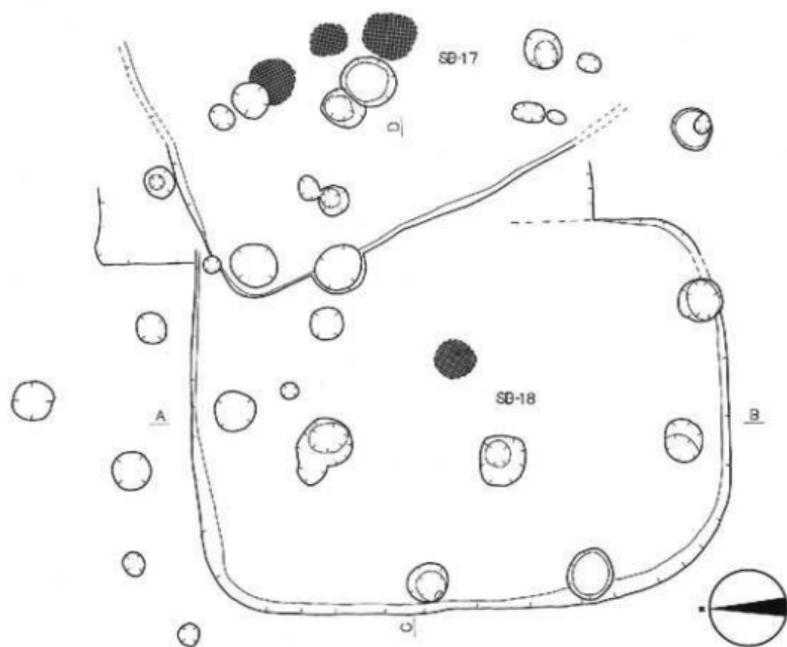
第8圖 8・9号住居跡



第9図 10号住居跡



第10図 14・15号住居跡

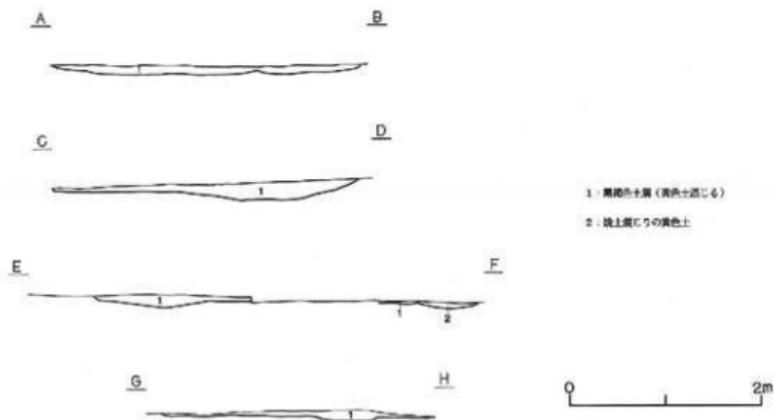
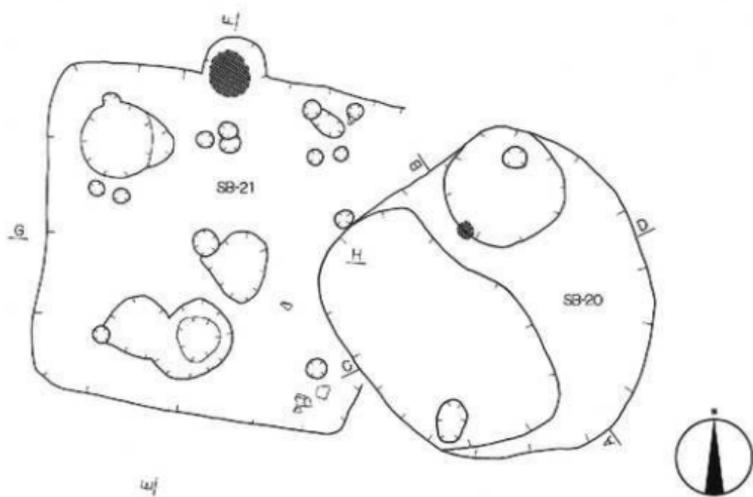


1: 黑褐色土層 (黄褐色土を含む)

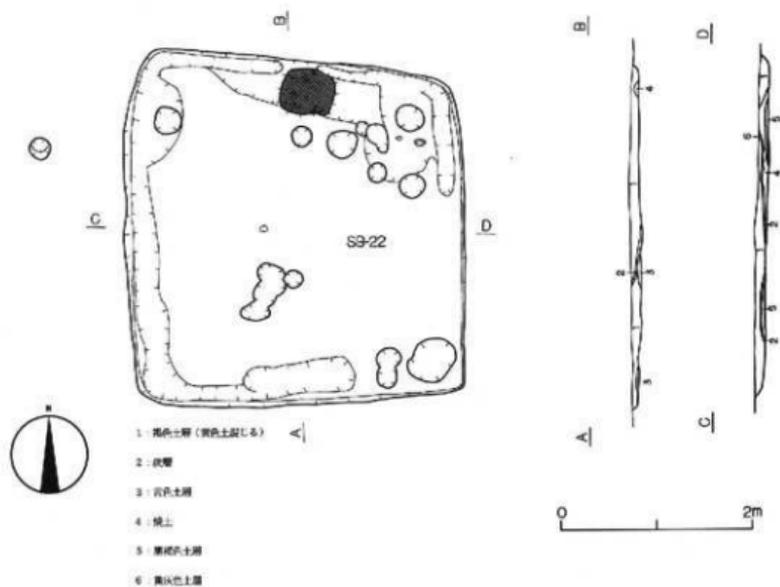
2: 黄褐色土層



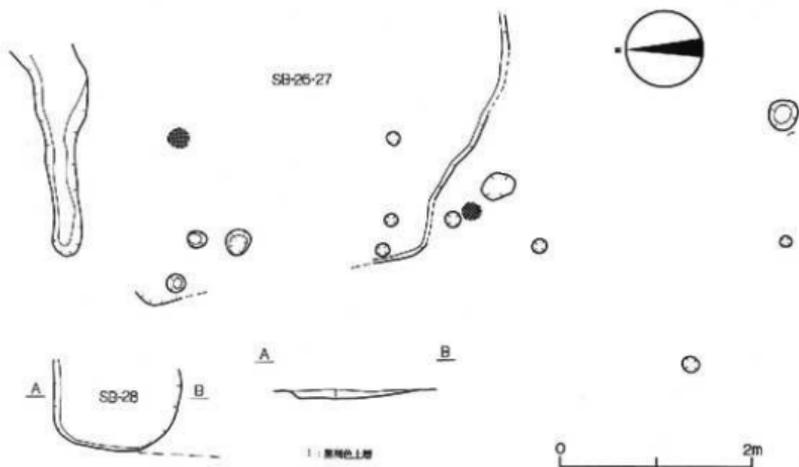
第11图 18号住居跡



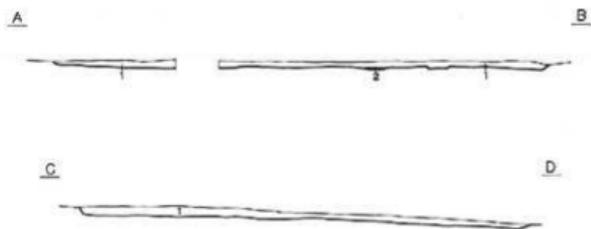
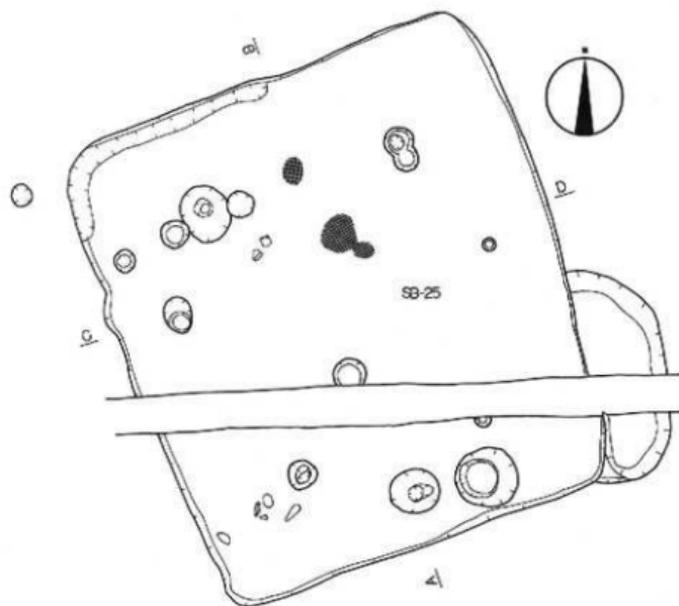
第12図 20・21号住居跡



第13図 22号住居跡



第14図 26・27・28号住居跡

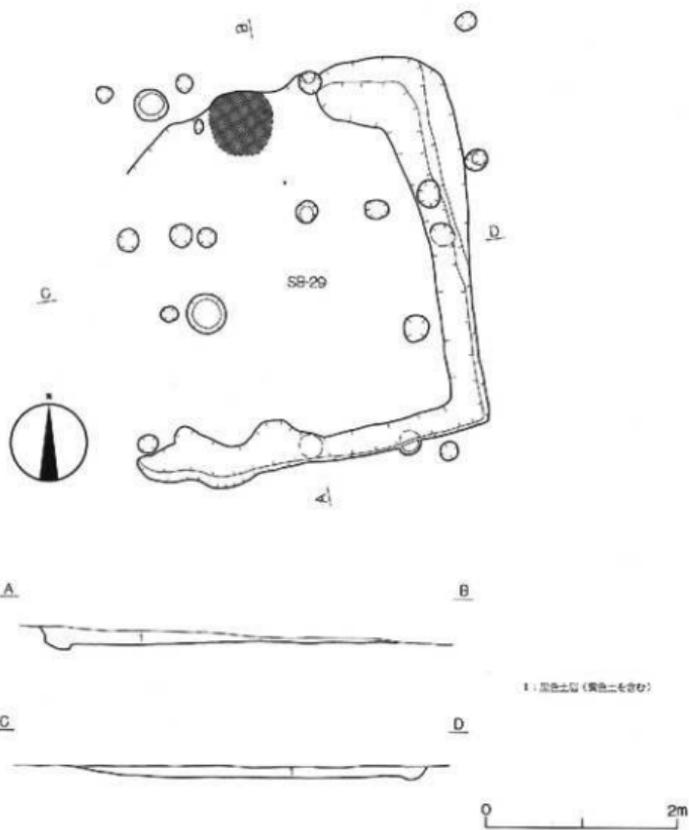


1: 黄褐色土層 (黄土土粒を含有)

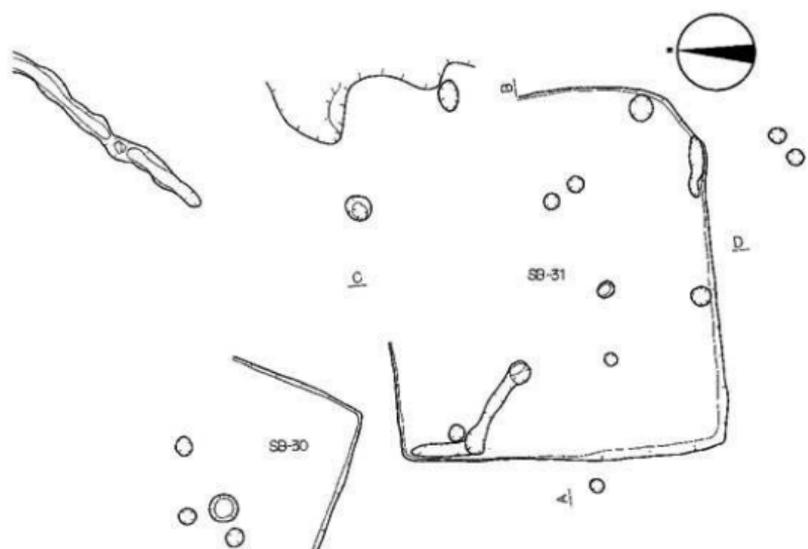
2: 緑土



第15圖 25号住居跡



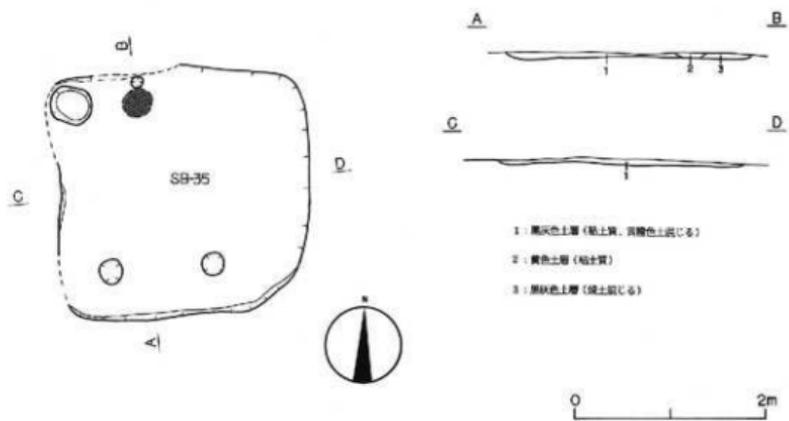
第16図 29号住居跡



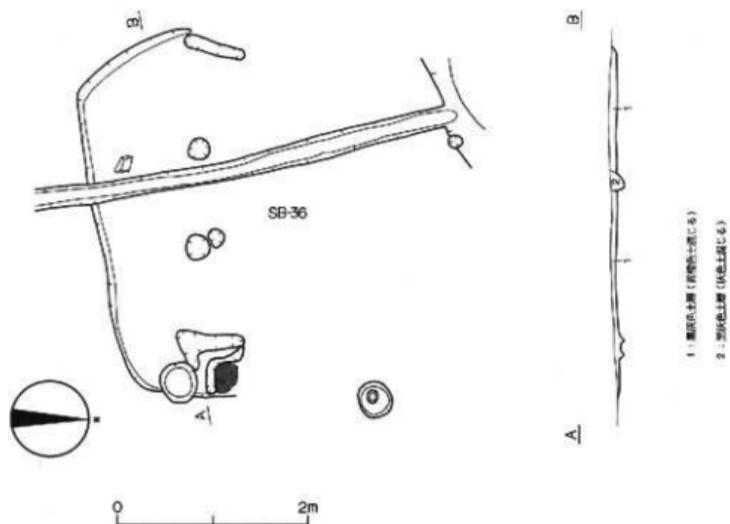
1:50.00

0 2m

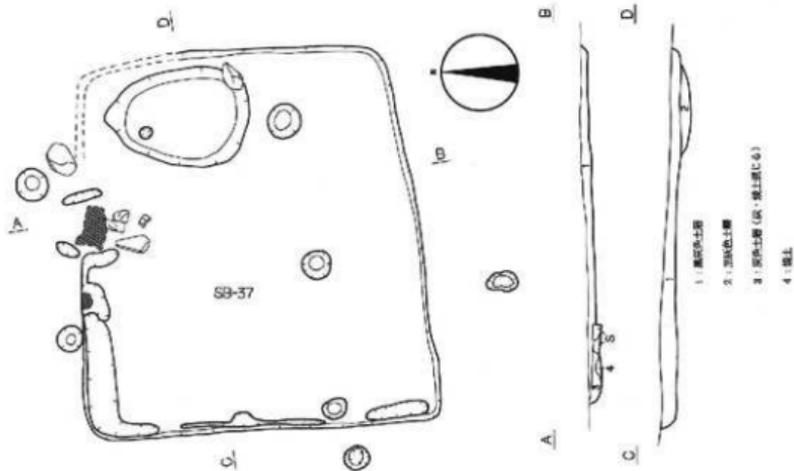
第17圖 31号住居跡



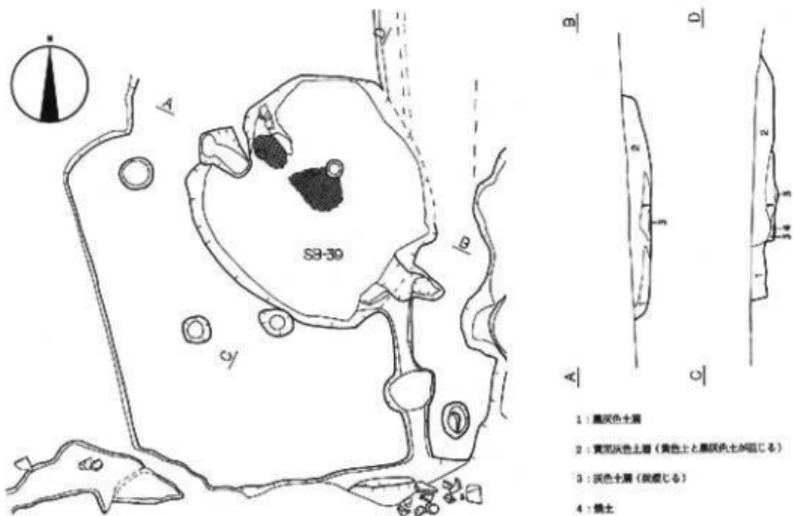
第18図 35号住居跡



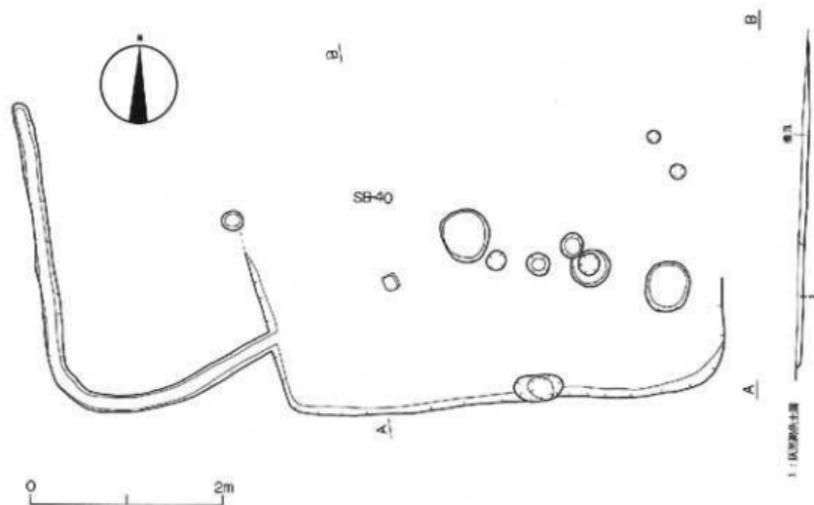
第19図 36号住居跡



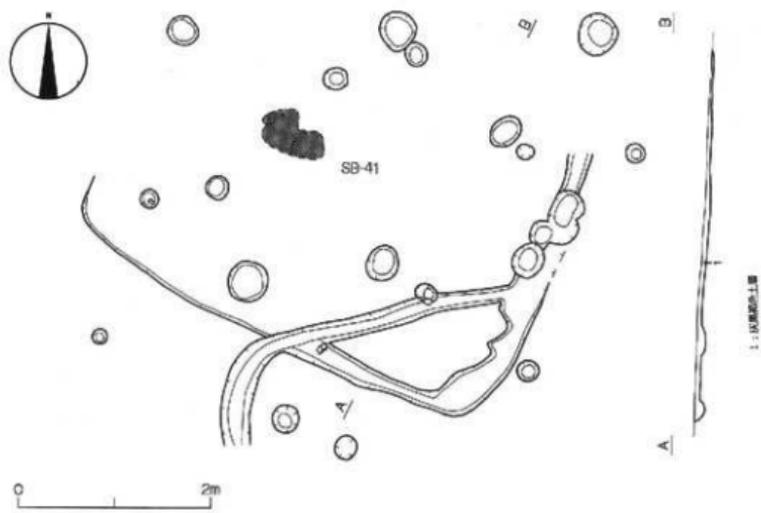
第20図 37号住居跡



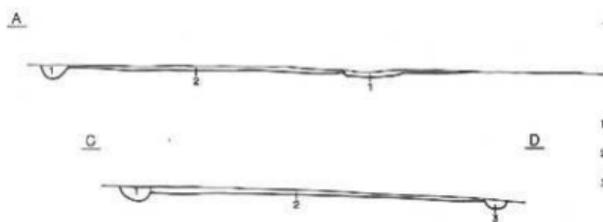
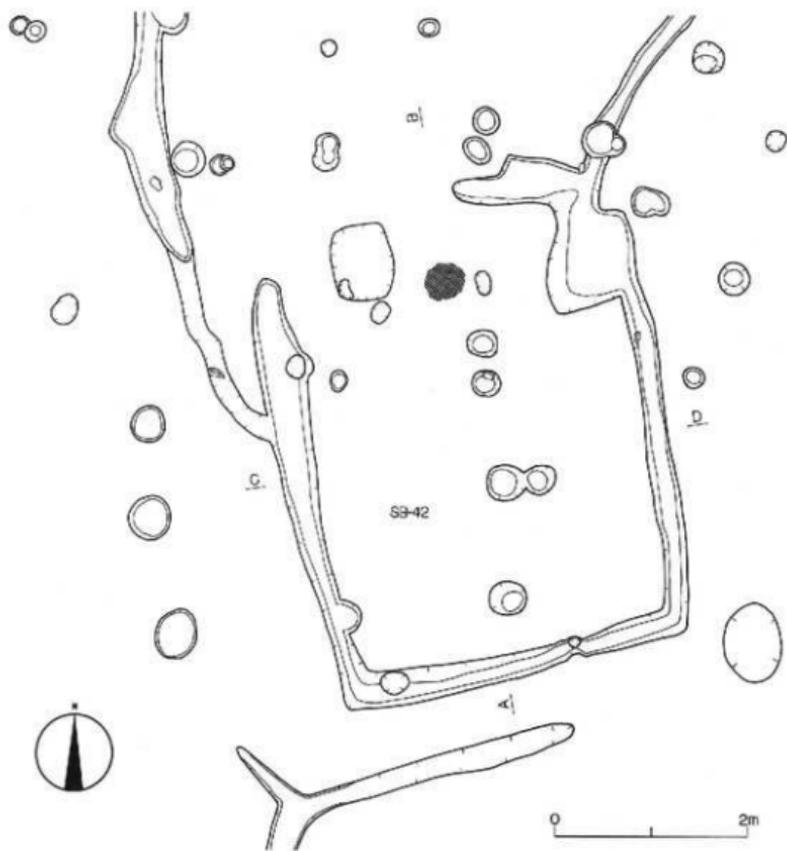
第21図 39号住居跡



第22图 40号住居跡

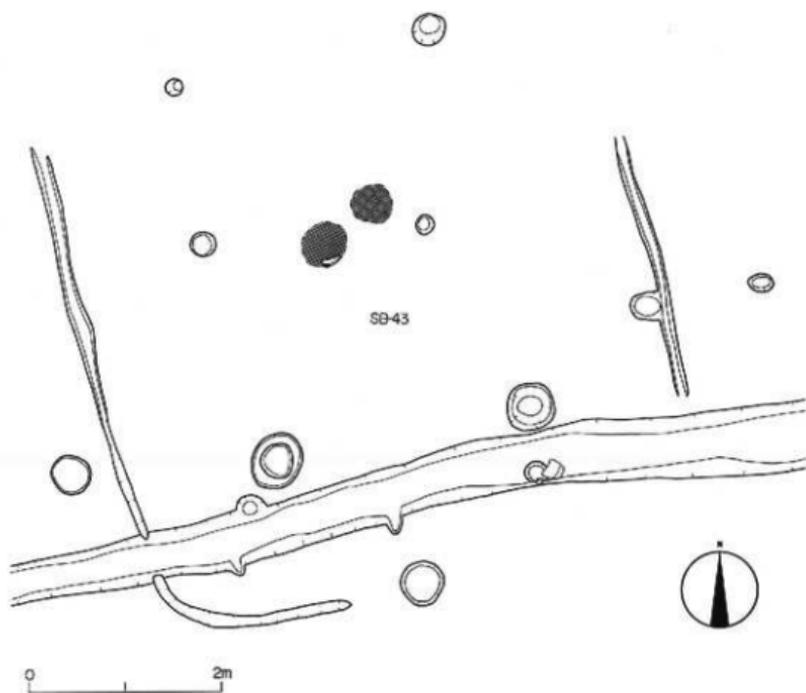


第23图 41号住居跡

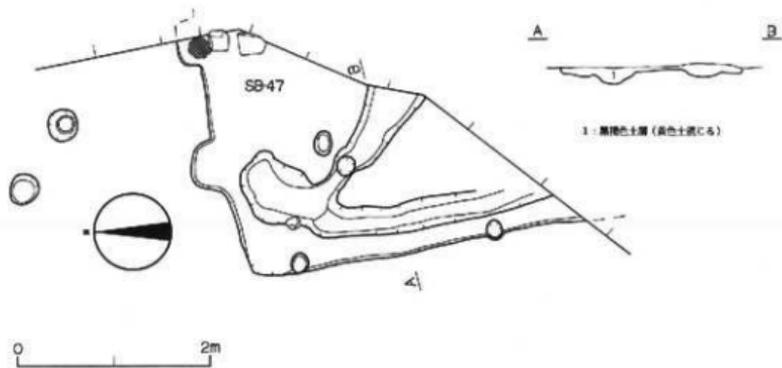


- 1: 黄褐色土層 (黄色土層に在る)
- 2: 黄灰色土層 (黄褐色土層に在る)
- 3: 黄褐色土層 (黄色土層に在る)

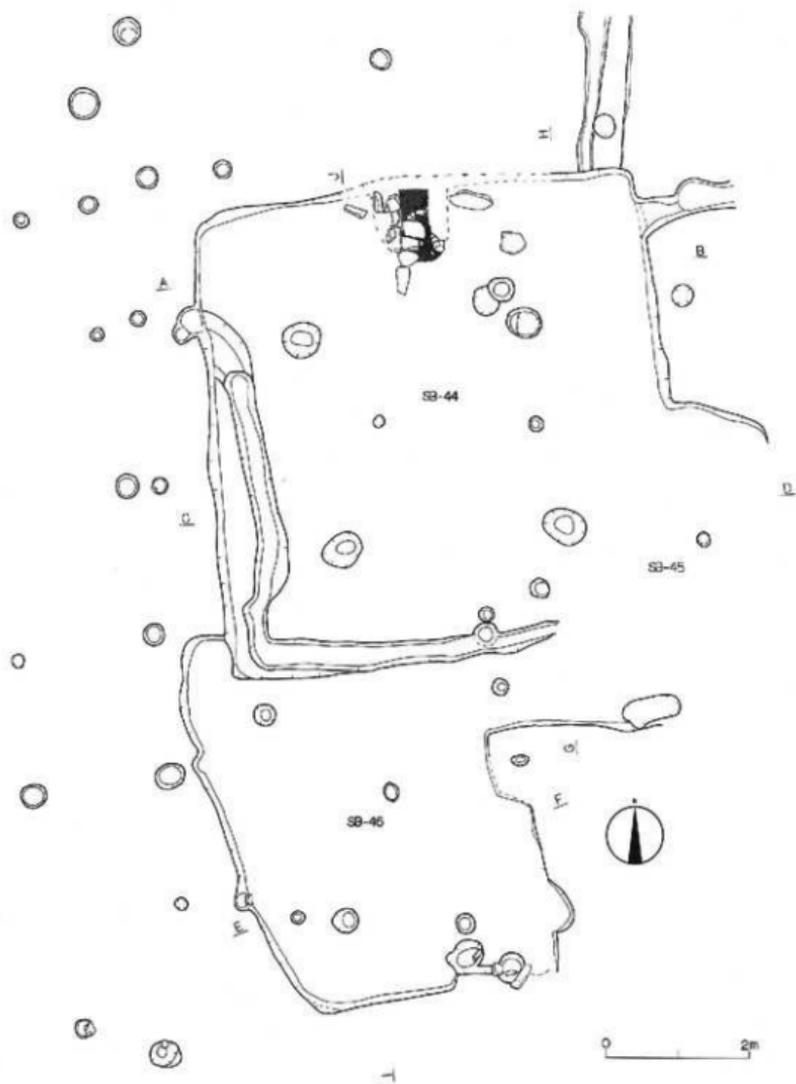
第24図 42号住居跡



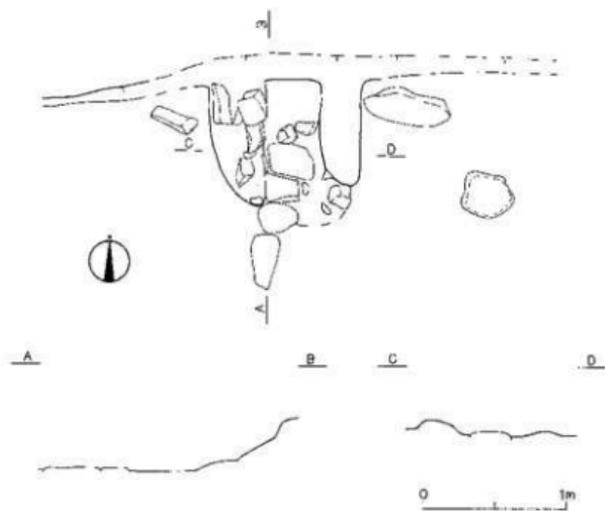
第 25 图 43号住居跡



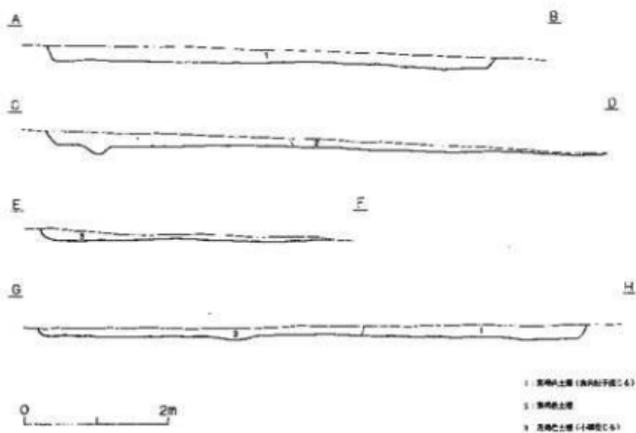
第 26 图 47号住居跡



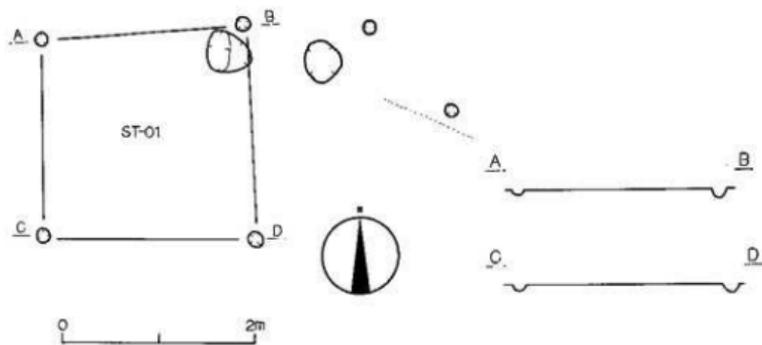
第27圖 44・45・46号住居跡



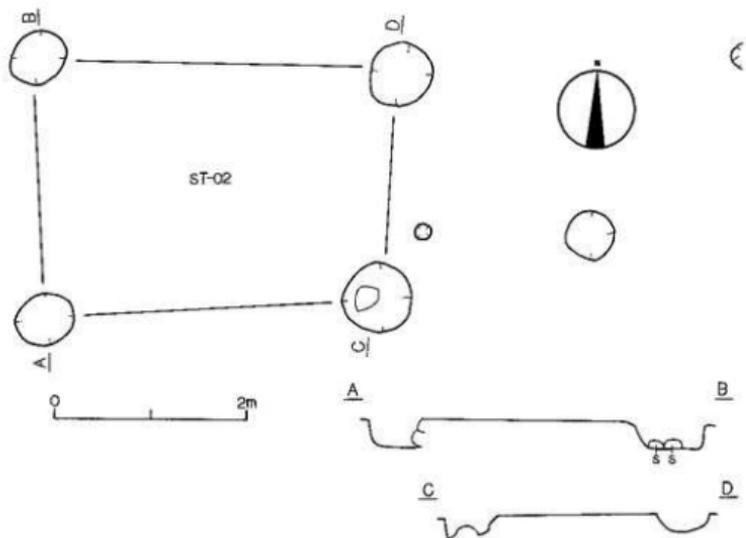
第28図 44号住居跡カマド



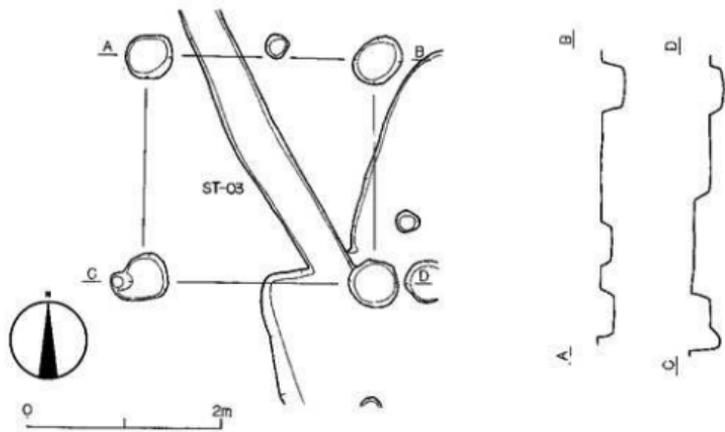
第29図 44・45・46号住居跡断面図



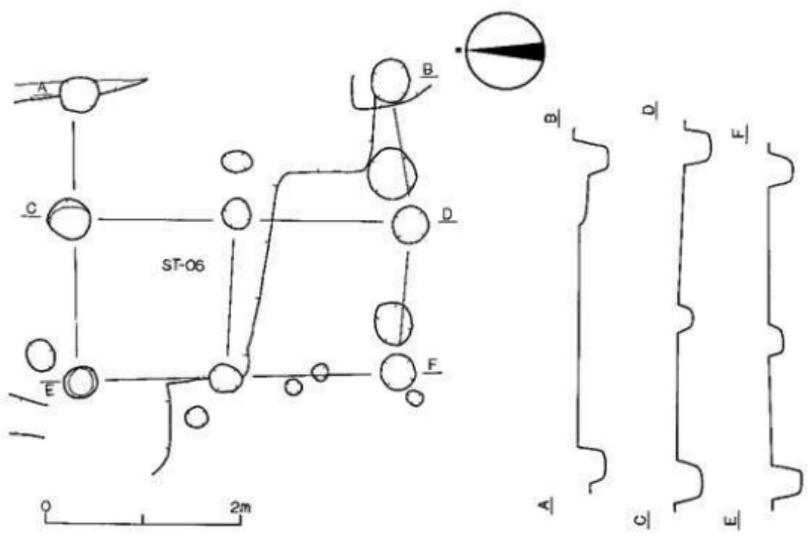
第30图 1号掘立柱建物跡



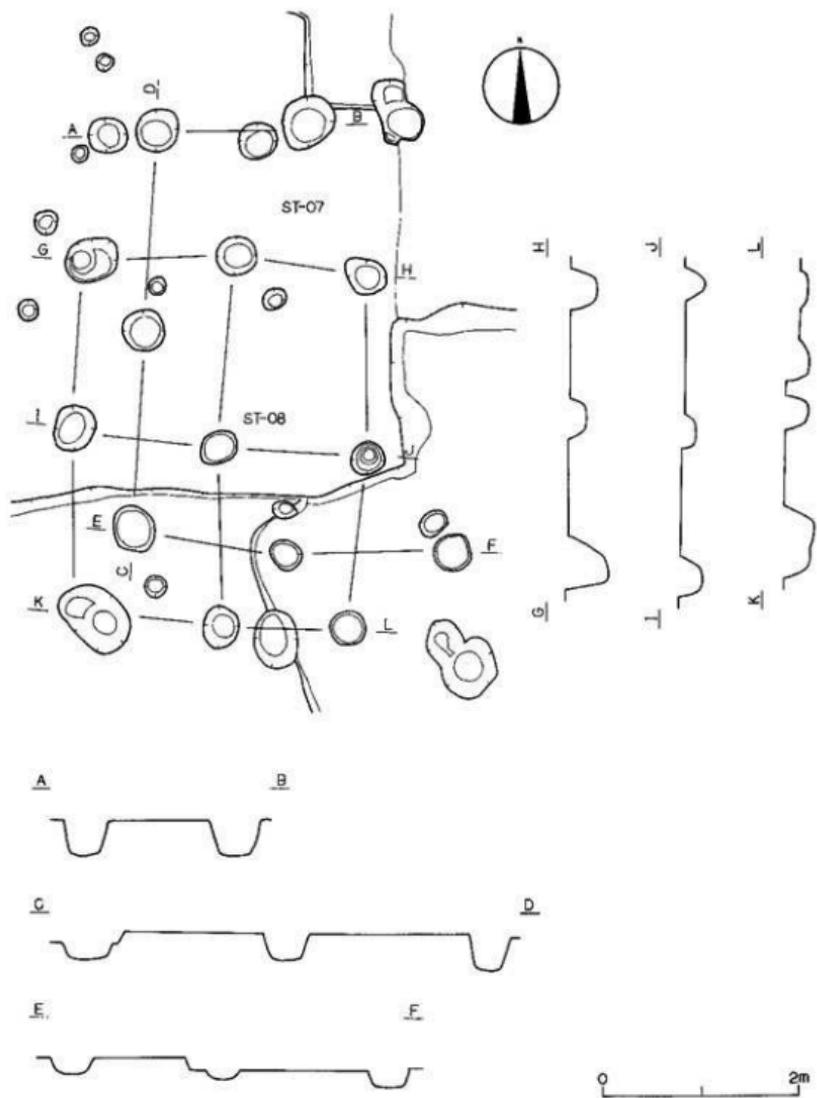
第31图 2号掘立柱建物跡



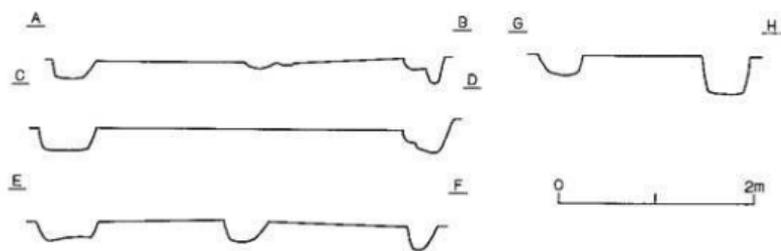
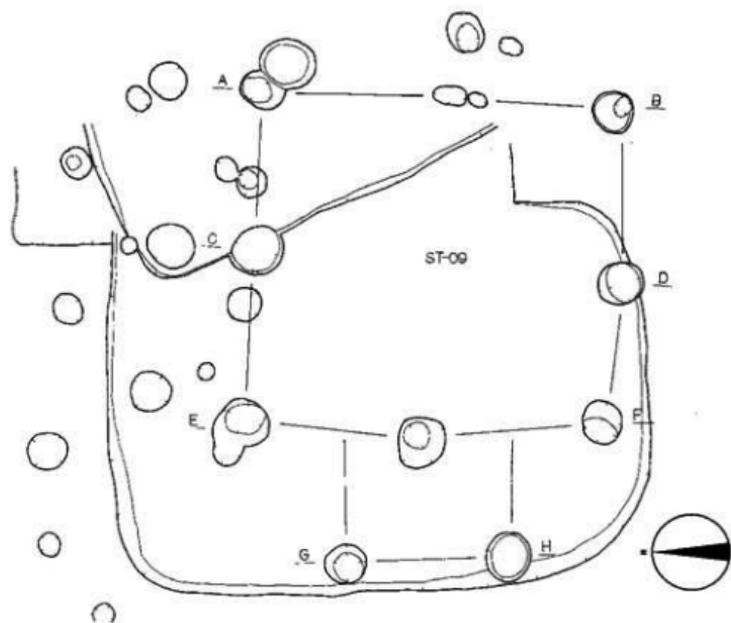
第32图 3号独立柱建物跡



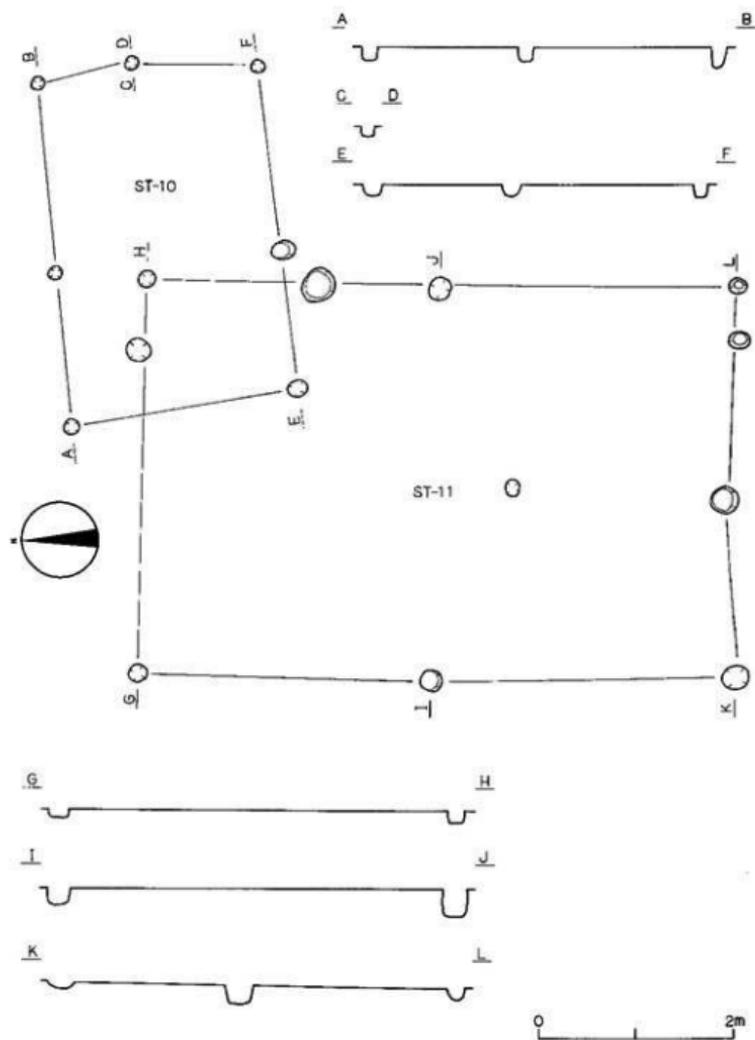
第33图 6号独立柱建物跡



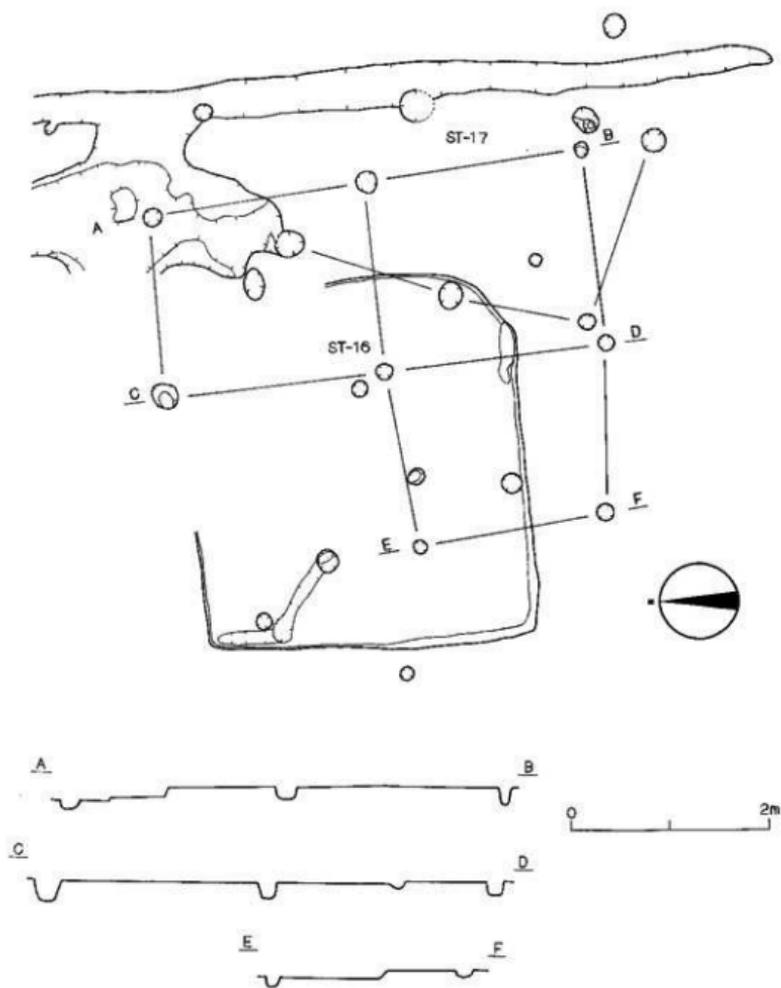
第34图 7·8号掘立柱建物跡



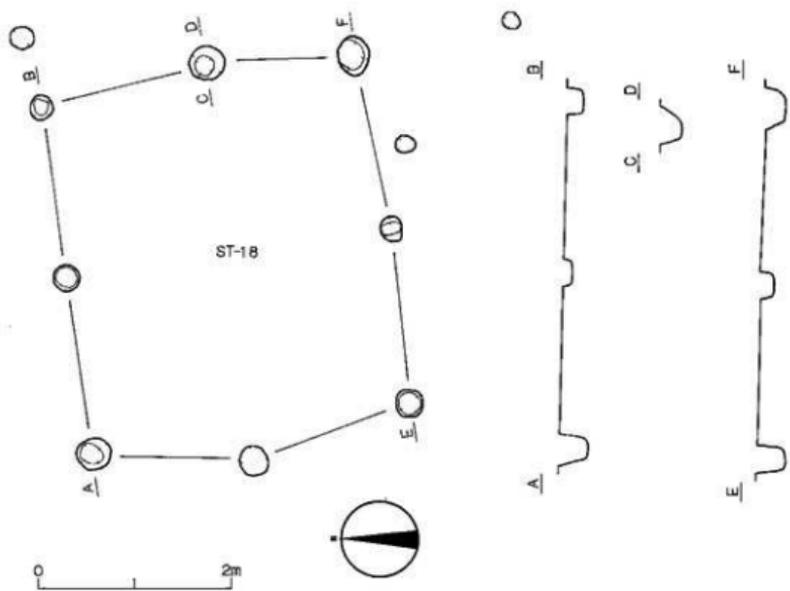
第35图 9号独立柱建物跡



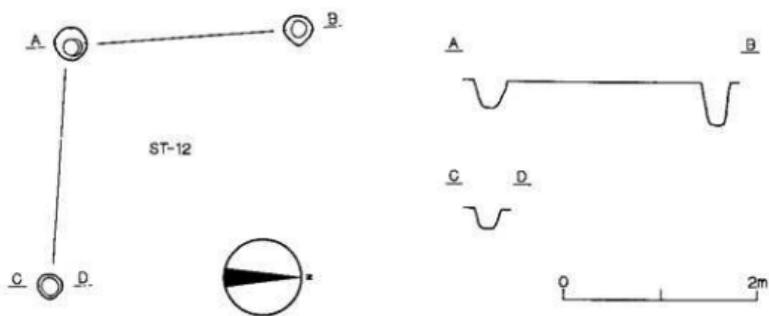
第36图 10·11号独立柱建筑物



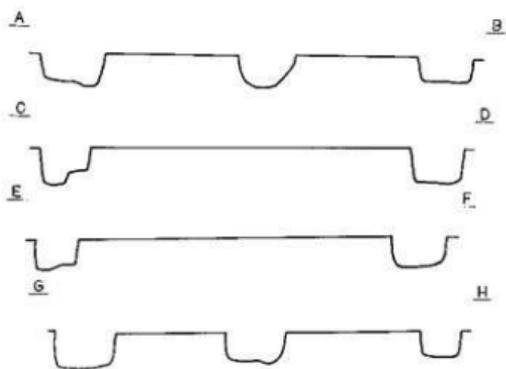
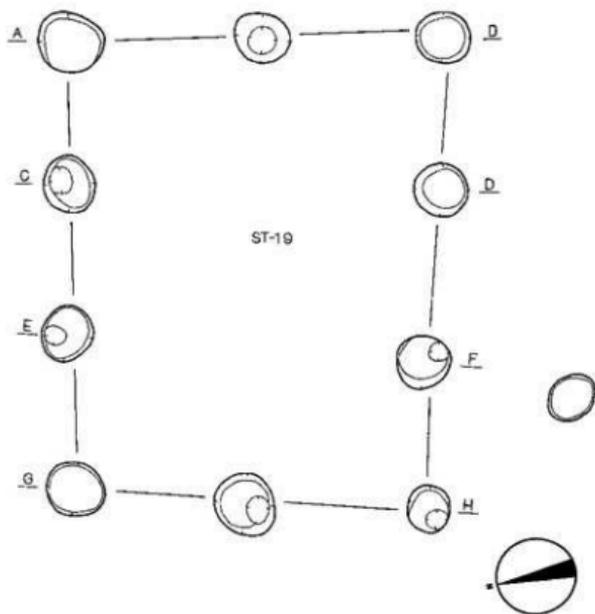
第37图 16号独立柱建物跡



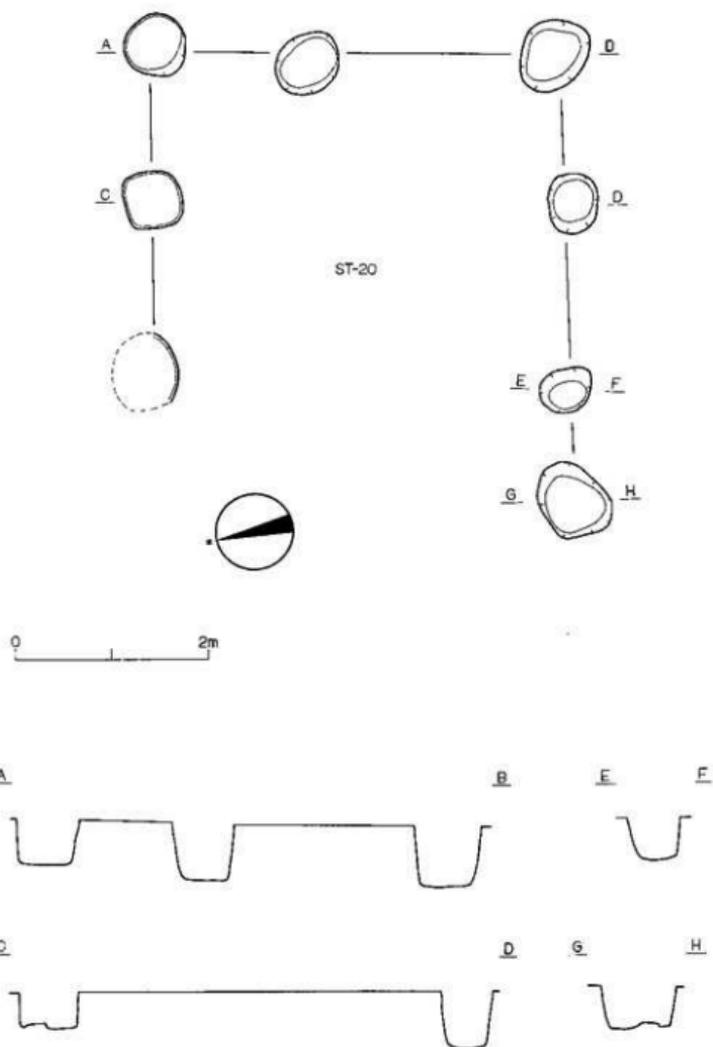
第38圖 18号掘立柱建物跡



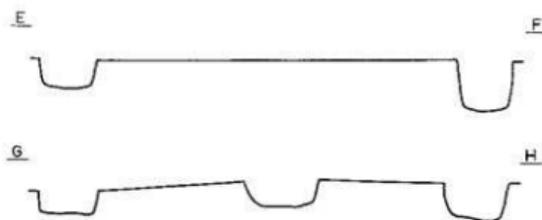
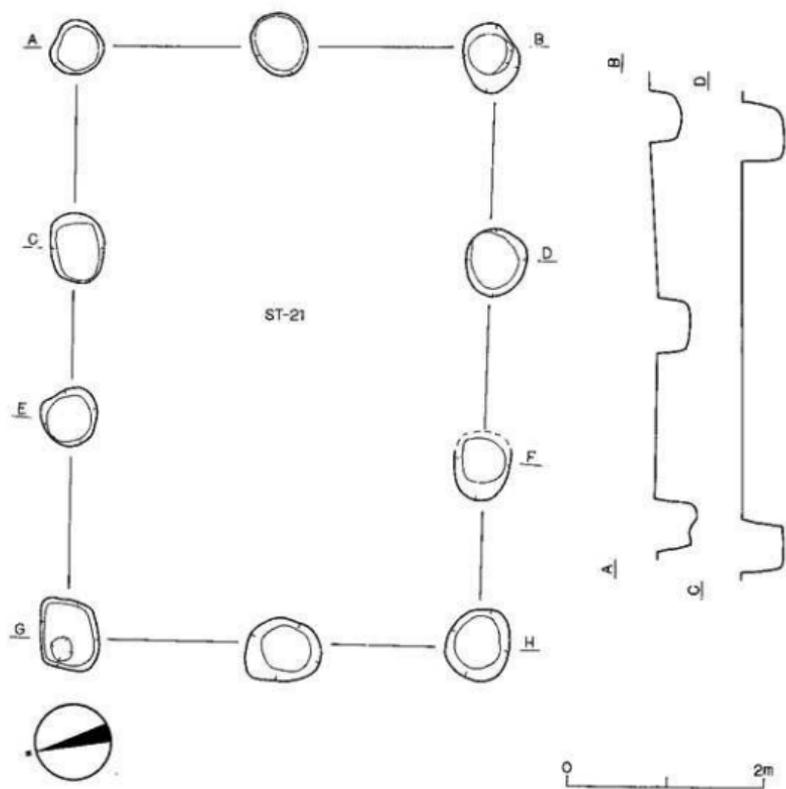
第39圖 12号掘立柱建物跡



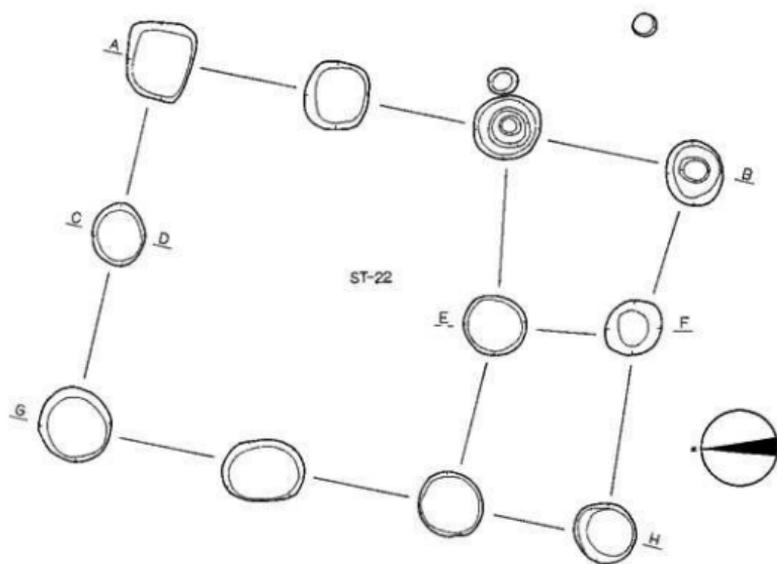
第40圖 19号獨立柱建物跡



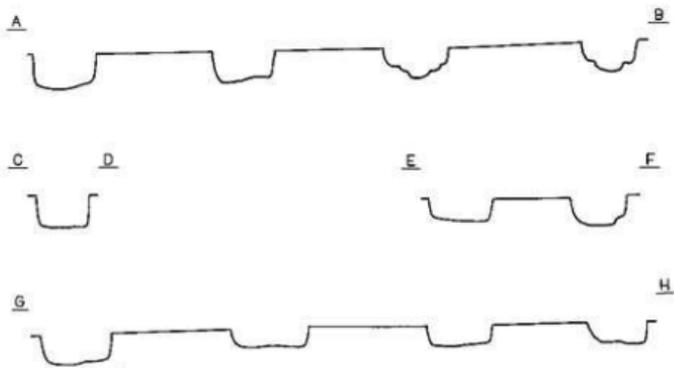
第 4 1 图 20号掘立柱建物跡



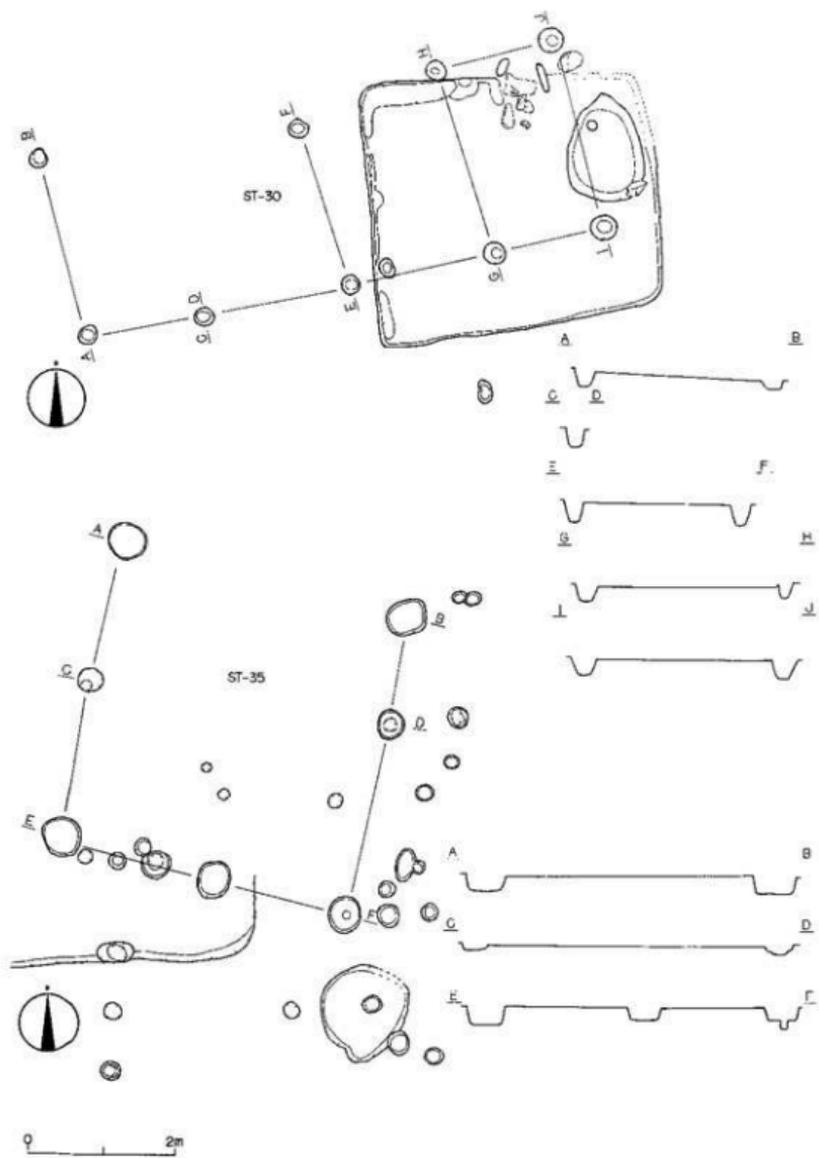
第42图 21号板立柱建物跡



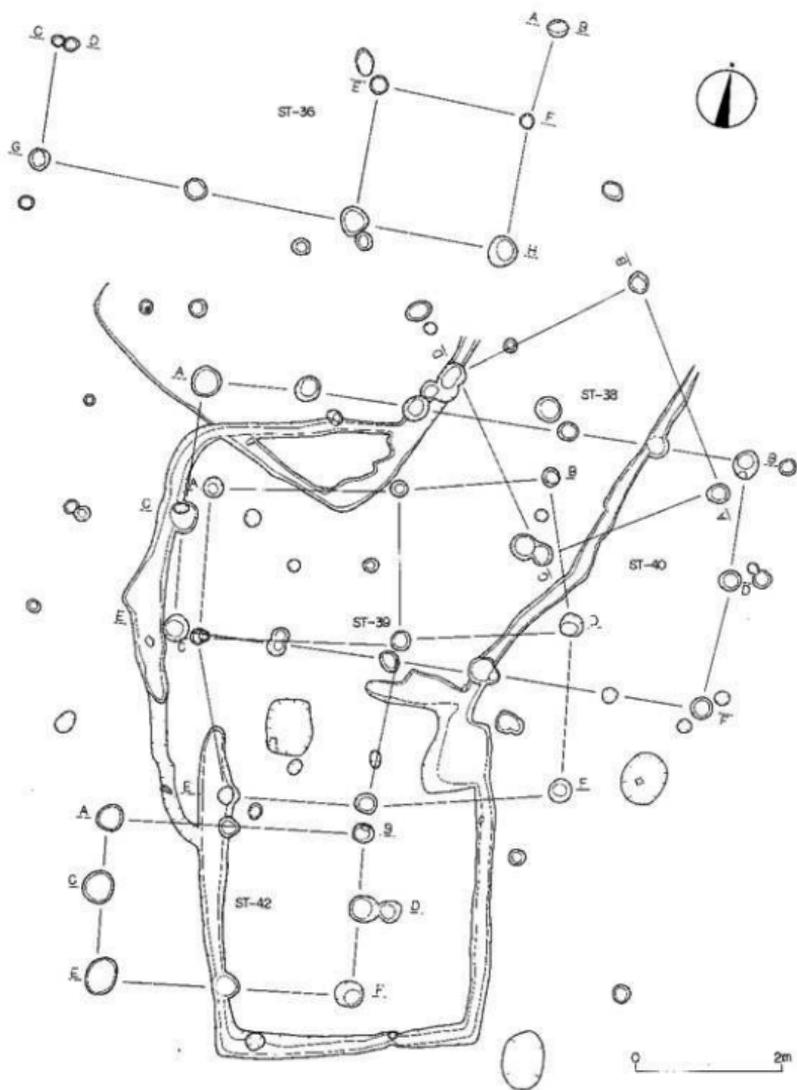
0 2m



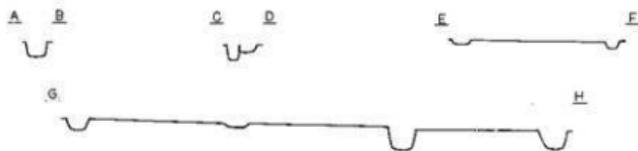
第 4 3 图 2 2 号掘立柱建物跡



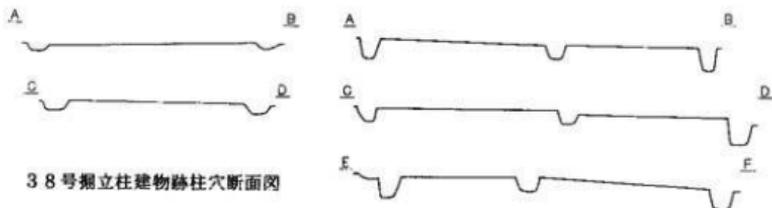
第44圖 30・35号掘立柱建物跡



第45圖 36・38・39・40・42号柱立建物跡

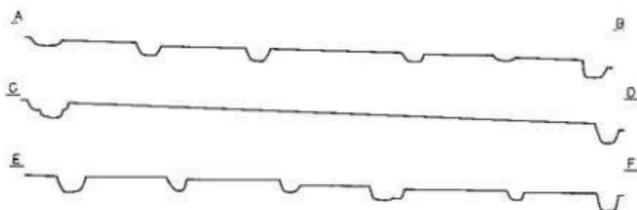


36号独立柱建物跡柱穴断面图

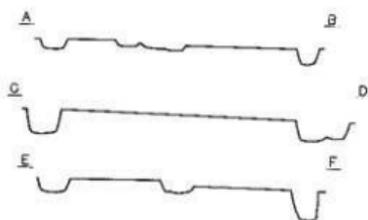


38号独立柱建物跡柱穴断面图

39号独立柱建物跡柱穴断面图



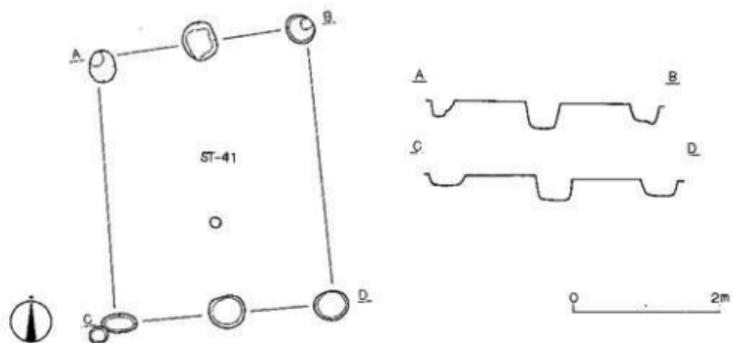
40号独立柱建物跡柱穴断面图



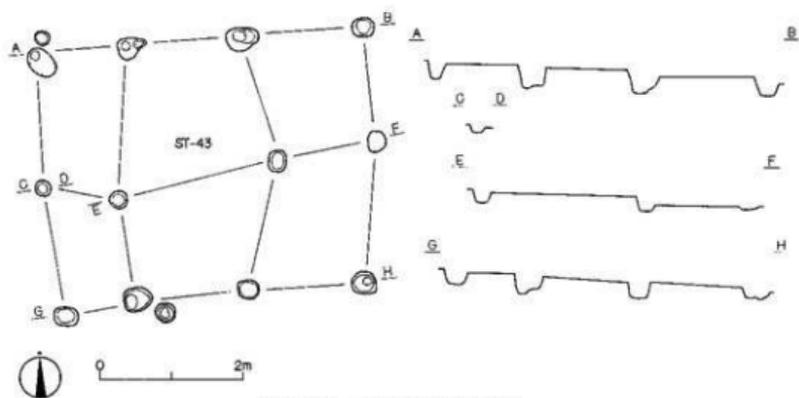
42号独立柱建物跡柱穴断面图



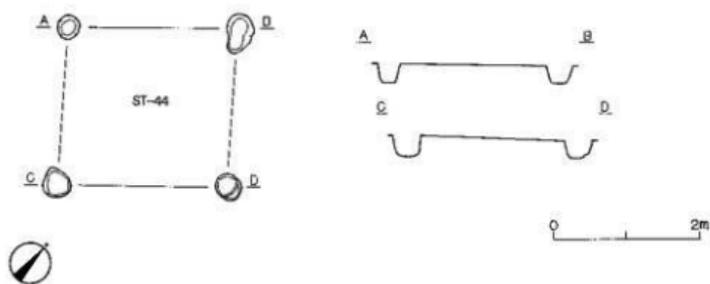
第46图 36·38·39·40·42号独立柱建物跡



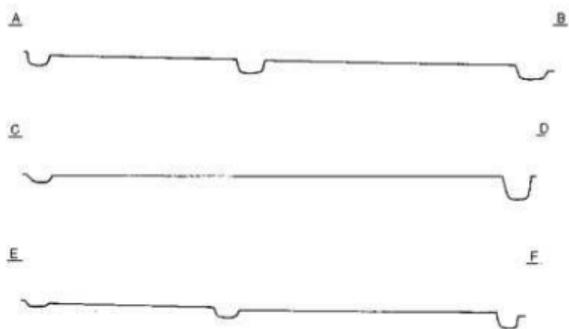
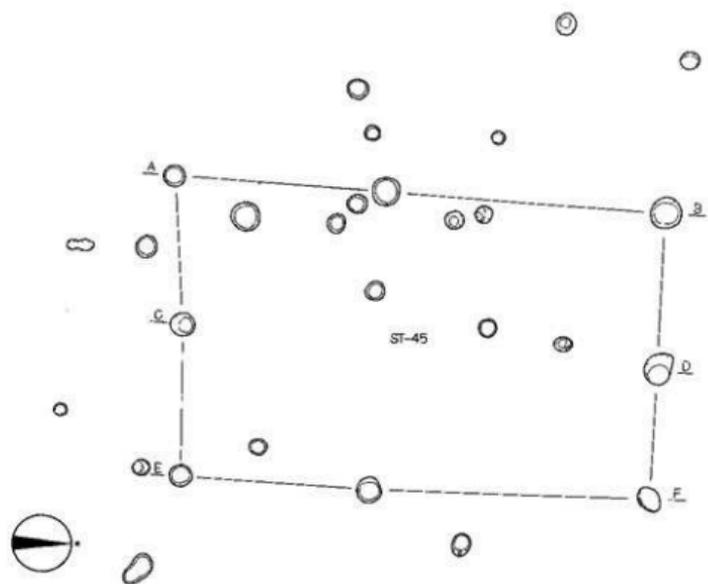
第47图 41号掘立柱建物跡



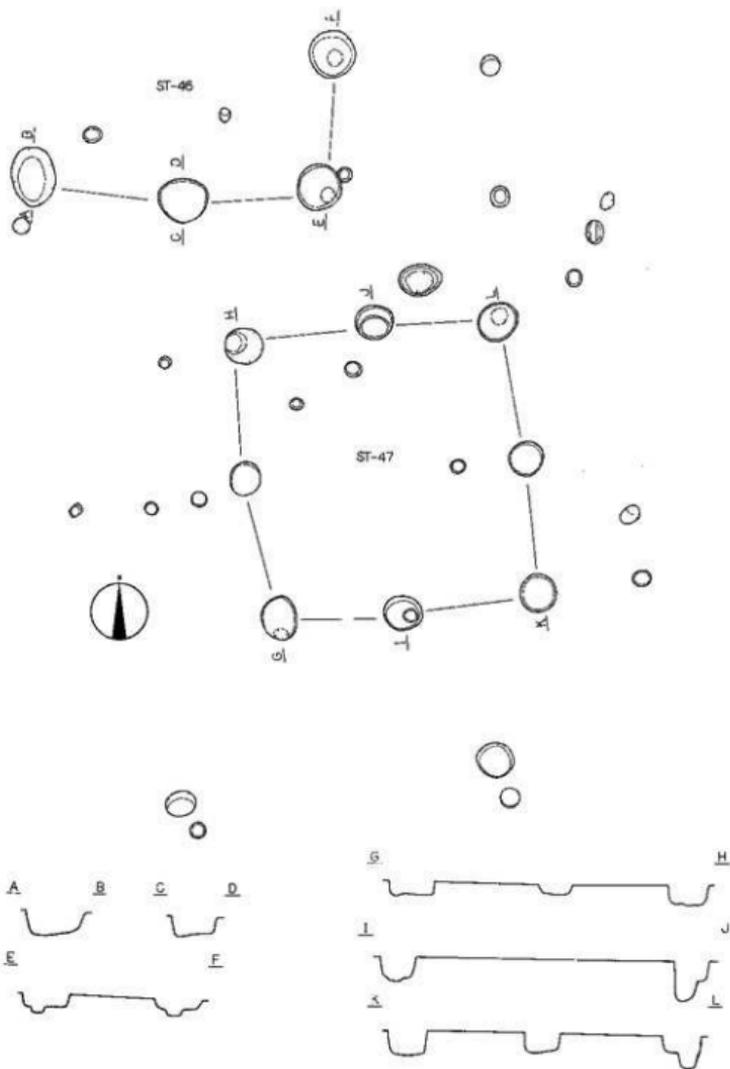
第48图 43号掘立柱建物跡



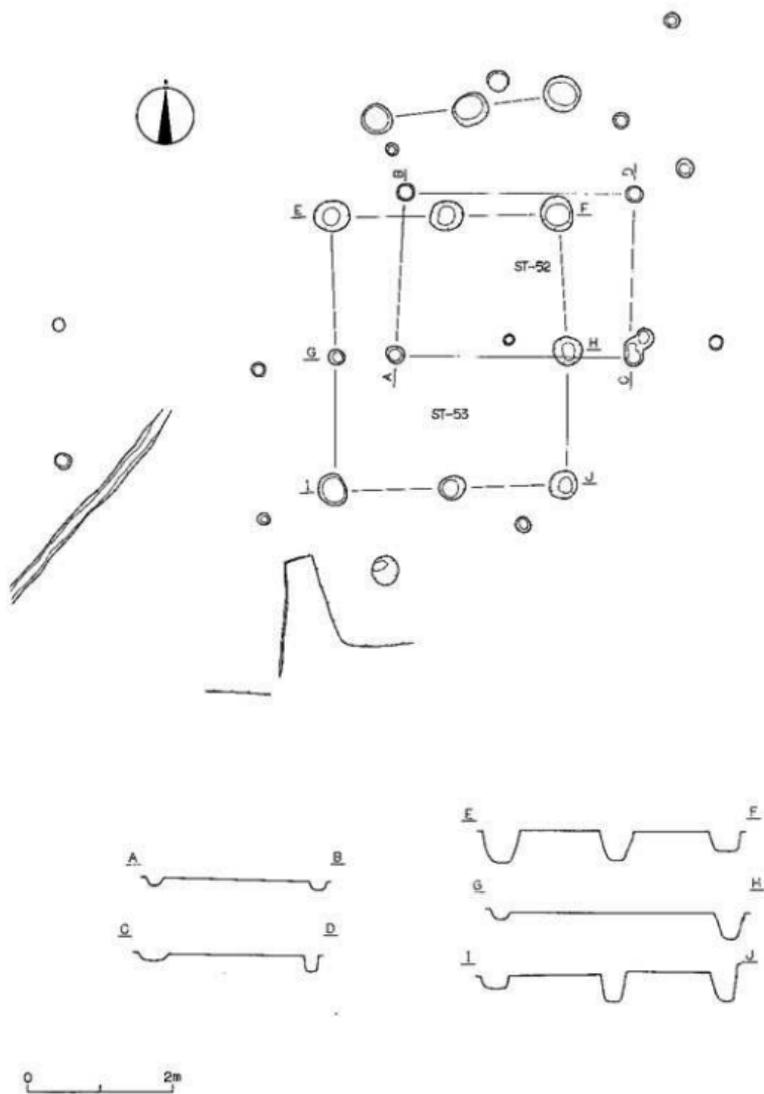
第49图 44号掘立柱建物跡



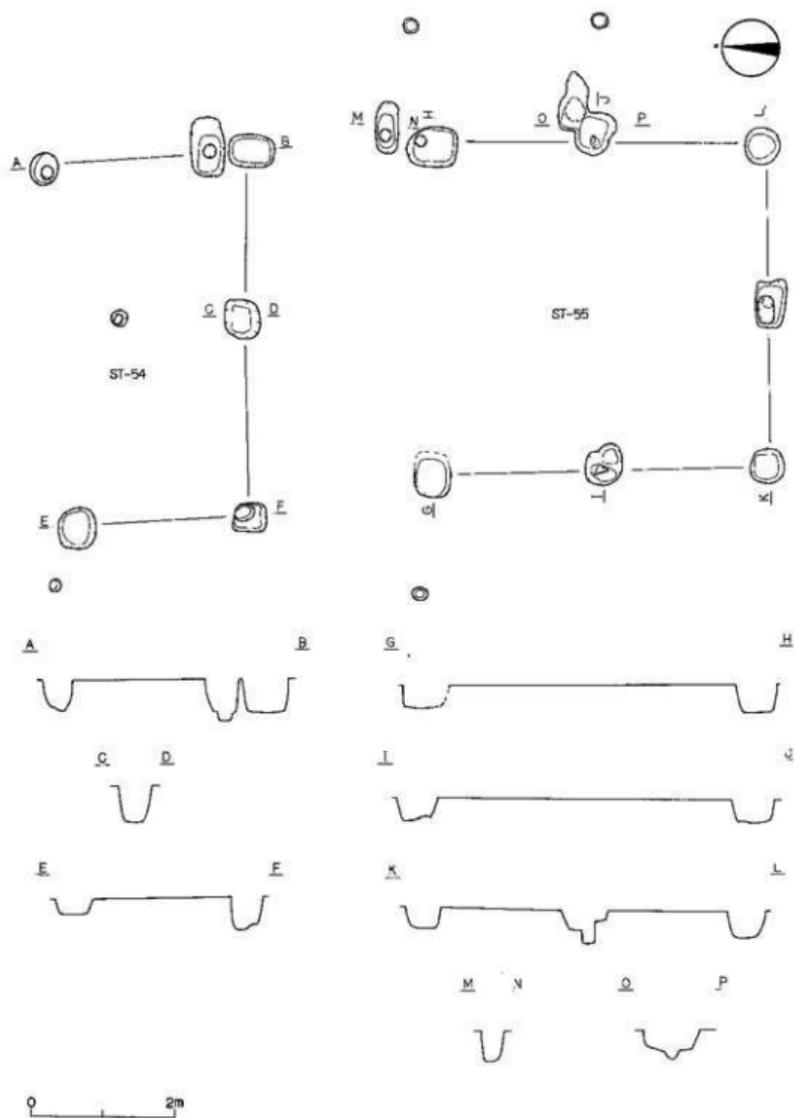
第50图 45号掘立柱建物跡



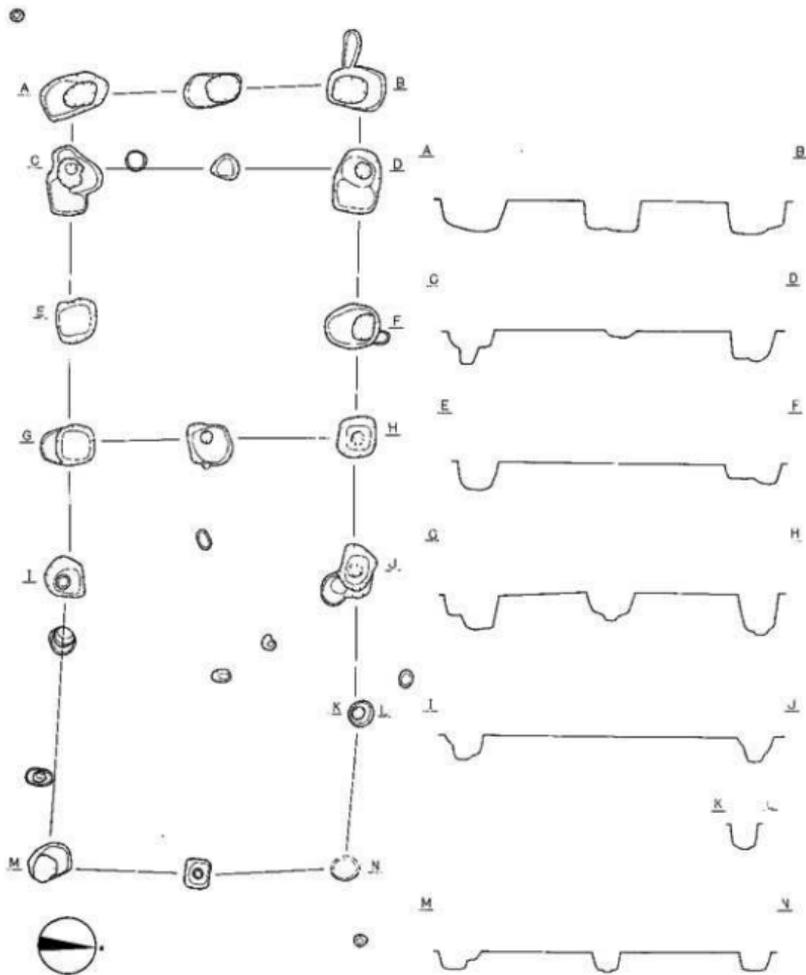
第51圖 46・47号獨立柱建物跡



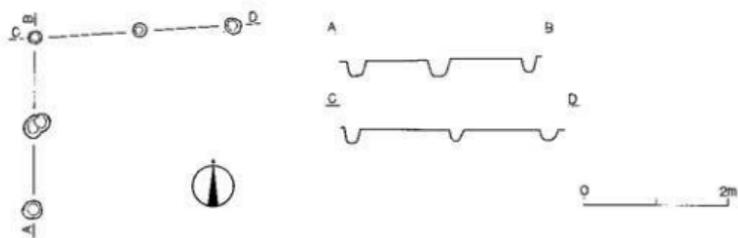
第52圖 52・53号獨立柱建物跡



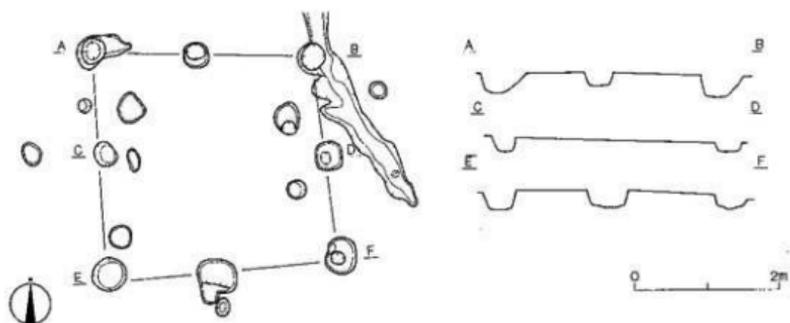
第53图 54·55号掘立柱建物跡



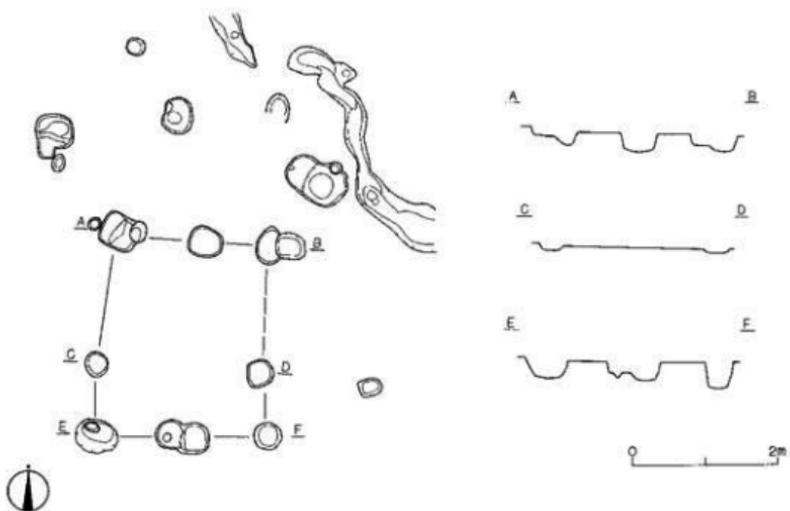
第54圖 56号掘立柱建物跡



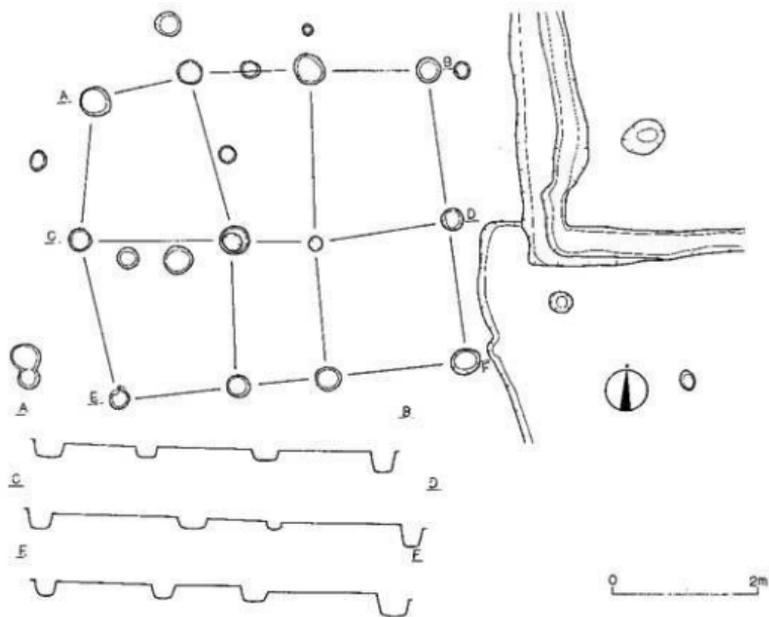
第55圖 57号掘立柱建物跡



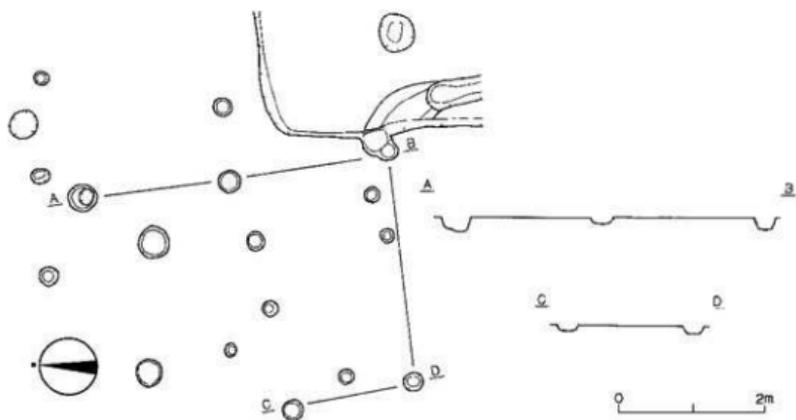
第56圖 59号掘立柱建物跡



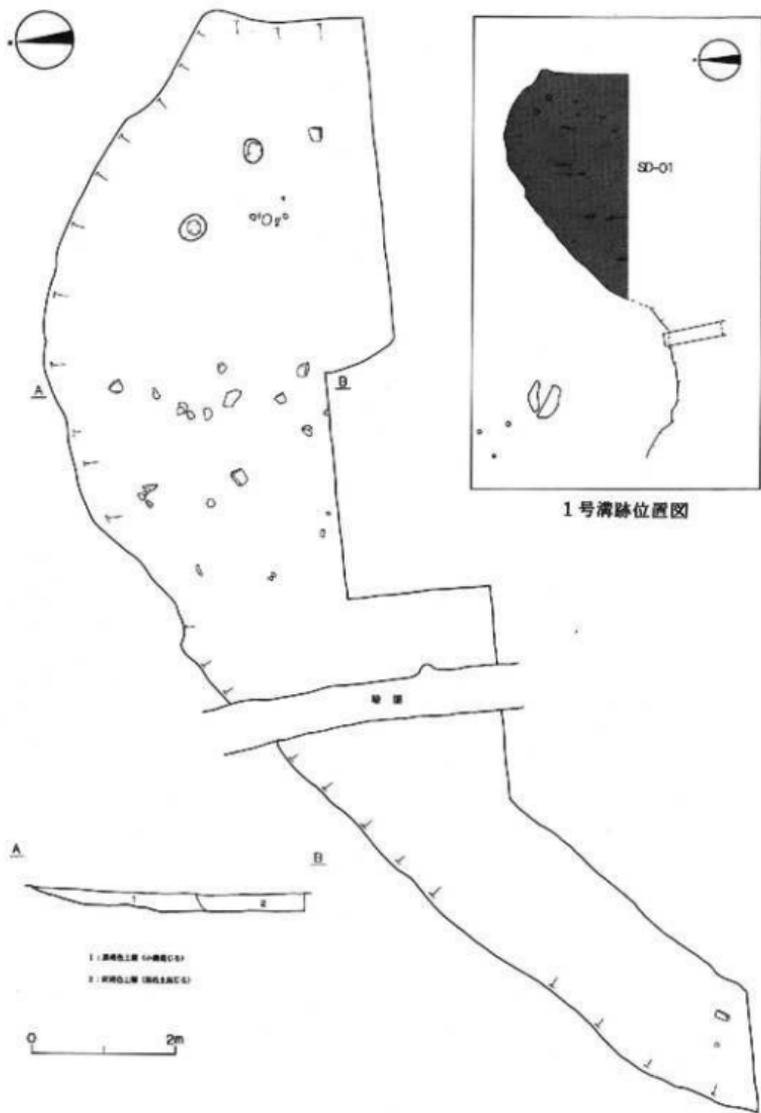
第57圖 60号掘立柱建物跡



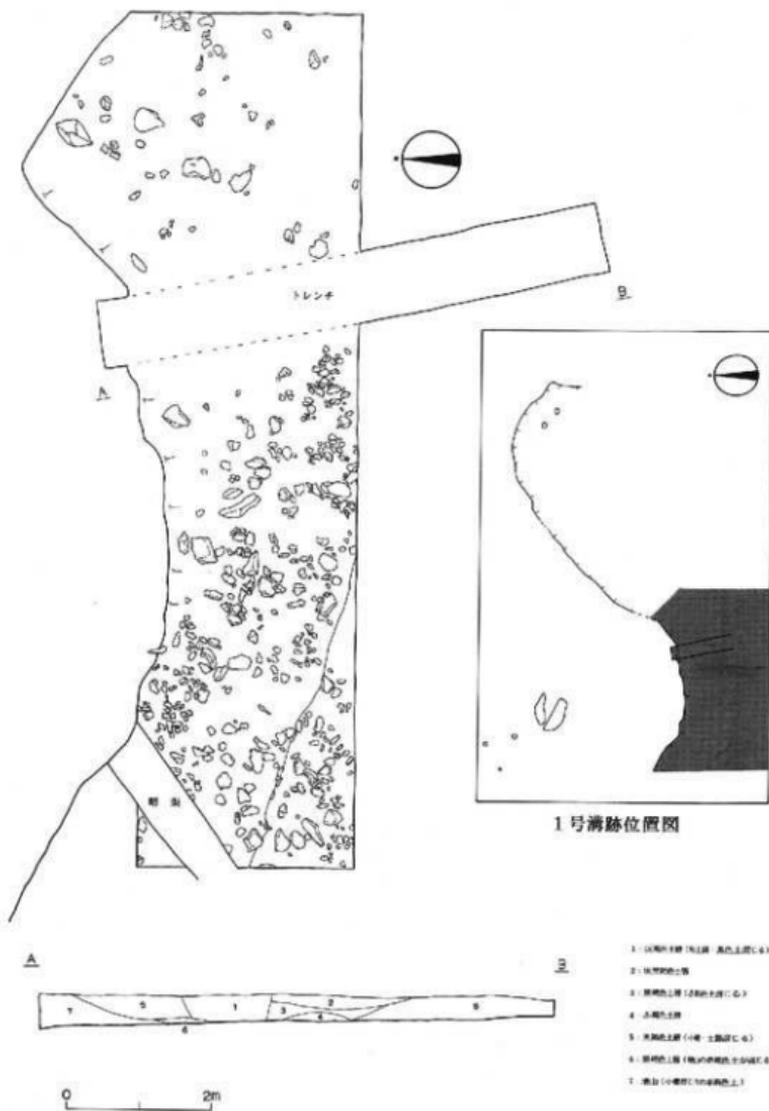
第58图 61号掘立柱建物跡



第59图 62号掘立柱建物跡



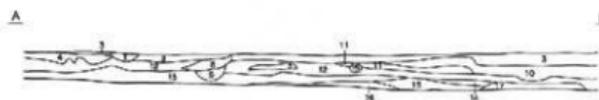
第60图 1号沟



第61图 1号沟迹

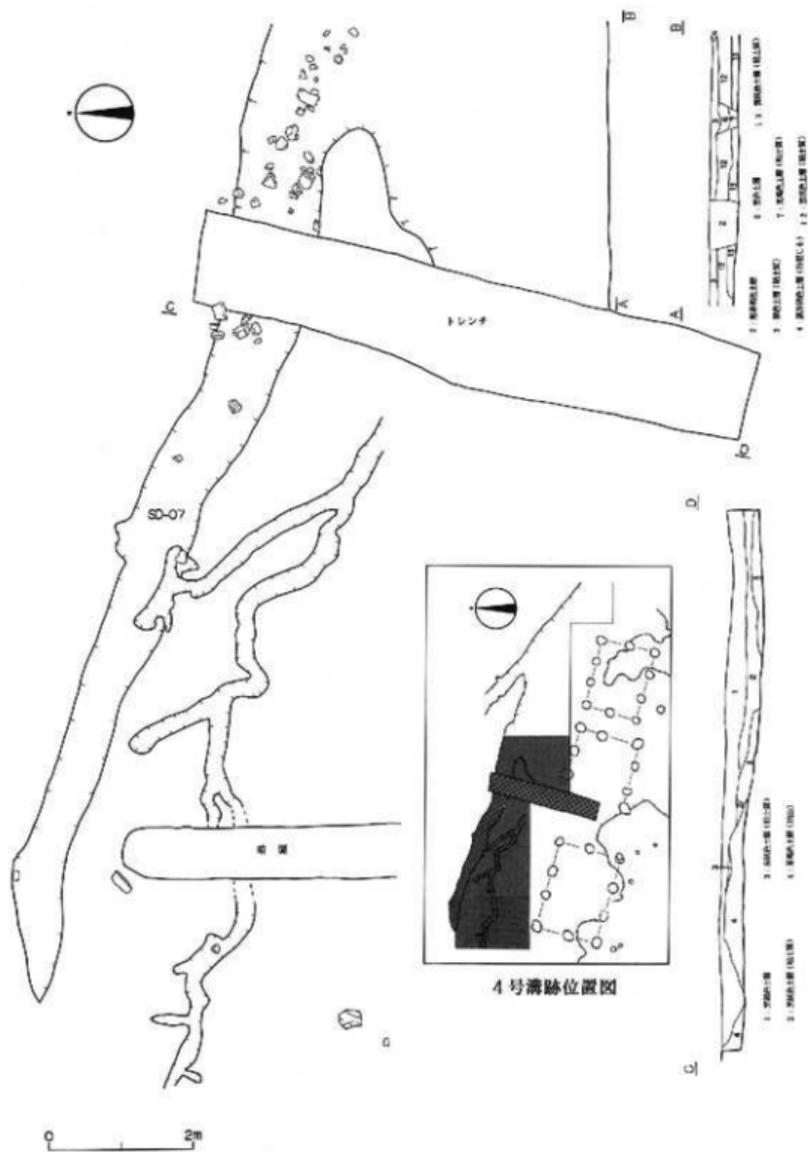


4号沟迹位置图

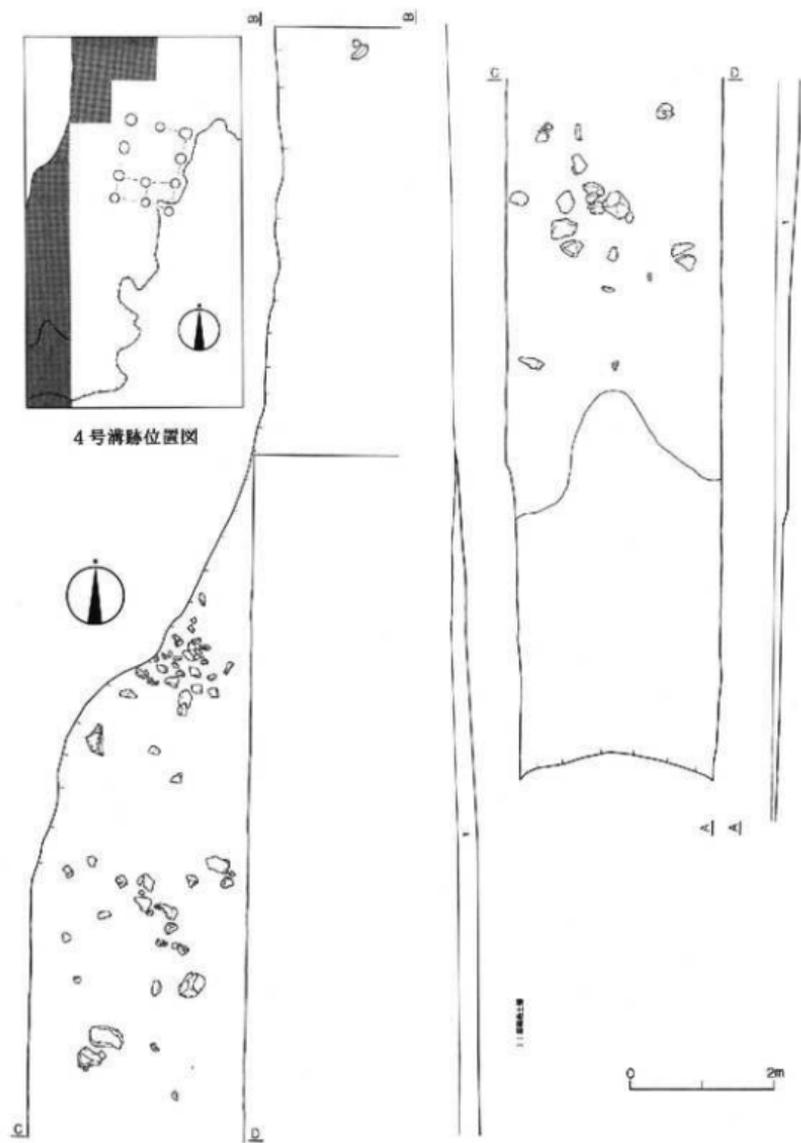


- | | | | |
|-----------------|--------------------|------------------------|----------------|
| 1 暗紫(黑)土(粘土质) | 6 暗色土壤 | 11 灰棕色土壤(黄棕色、深红褐色、粘土质) | 15 暗棕色土壤(粘土质) |
| 2 深栗棕色土壤 | 7 黄棕色土壤(粘土质) | 12 灰棕色土壤(粘土质) | 16 灰棕色土壤(粘土质) |
| 3 暗棕色土壤(粘土质) | 8 深栗棕色土壤(黄棕色、粘土质) | 13 暗棕色土壤(粘土质) | 17 深栗棕色土壤(粘土质) |
| 4 黄栗棕色土壤(粘土质、粘) | 9 黄棕色土壤(粘、黄棕色、粘土质) | 14 暗棕色土壤(深棕色、粘土质) | |
| 5 黄棕色土壤(粘土质、粘) | 10 黄棕色土壤(粘土质) | | |

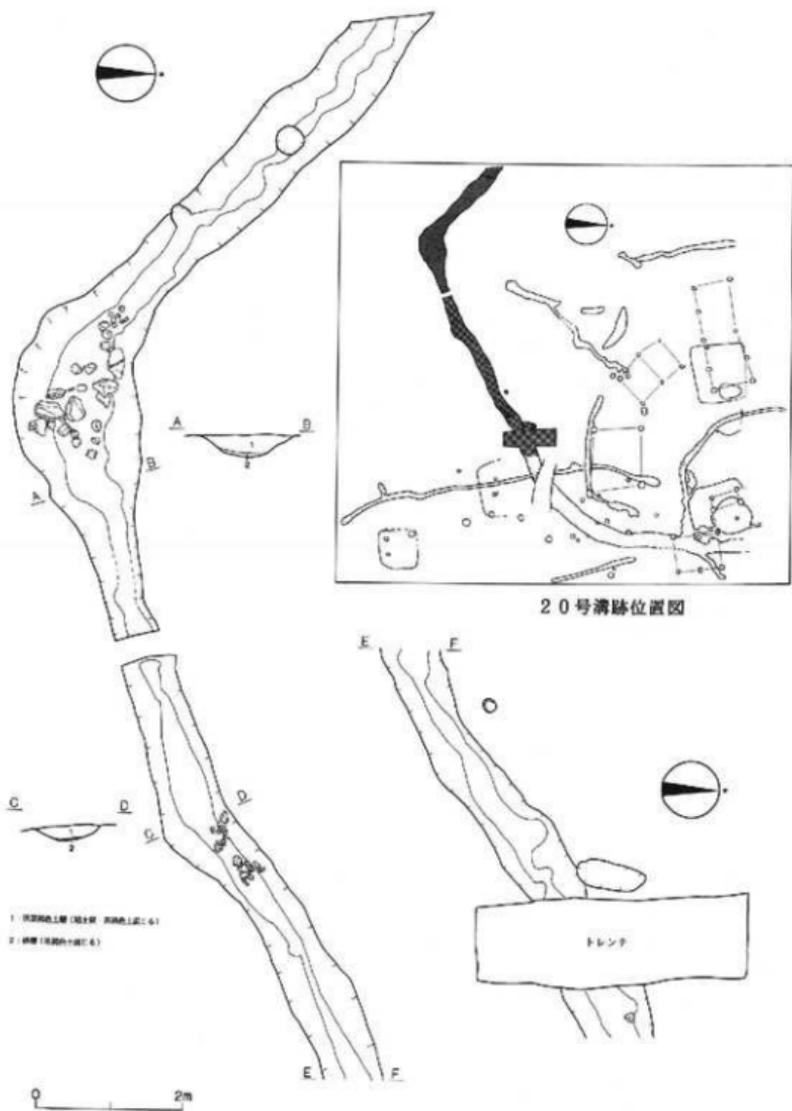
第62图 4号沟迹



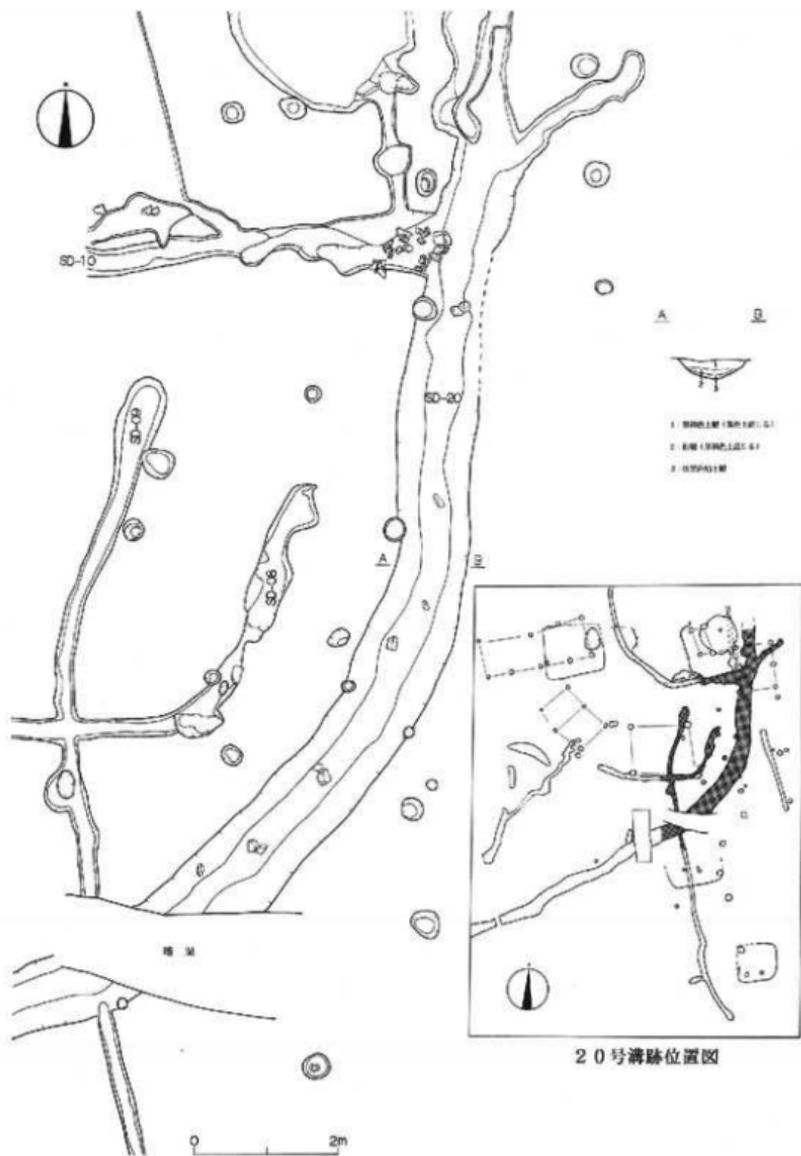
第63図 4号溝跡



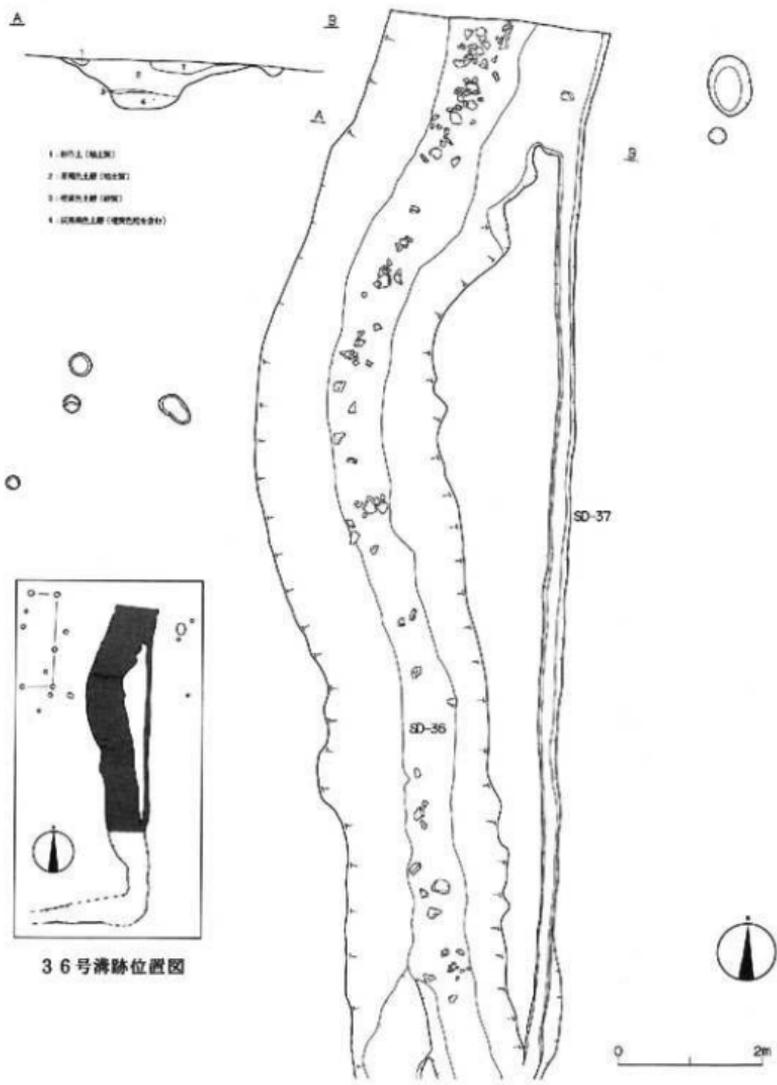
第64图 4号沟遗址



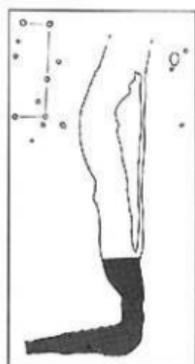
第65図 20号溝跡



第66图 20号沟迹



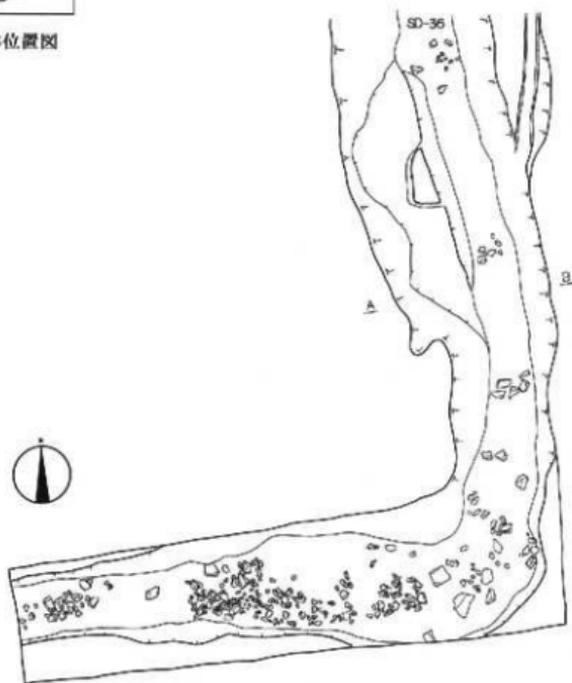
第67图 36号沟迹



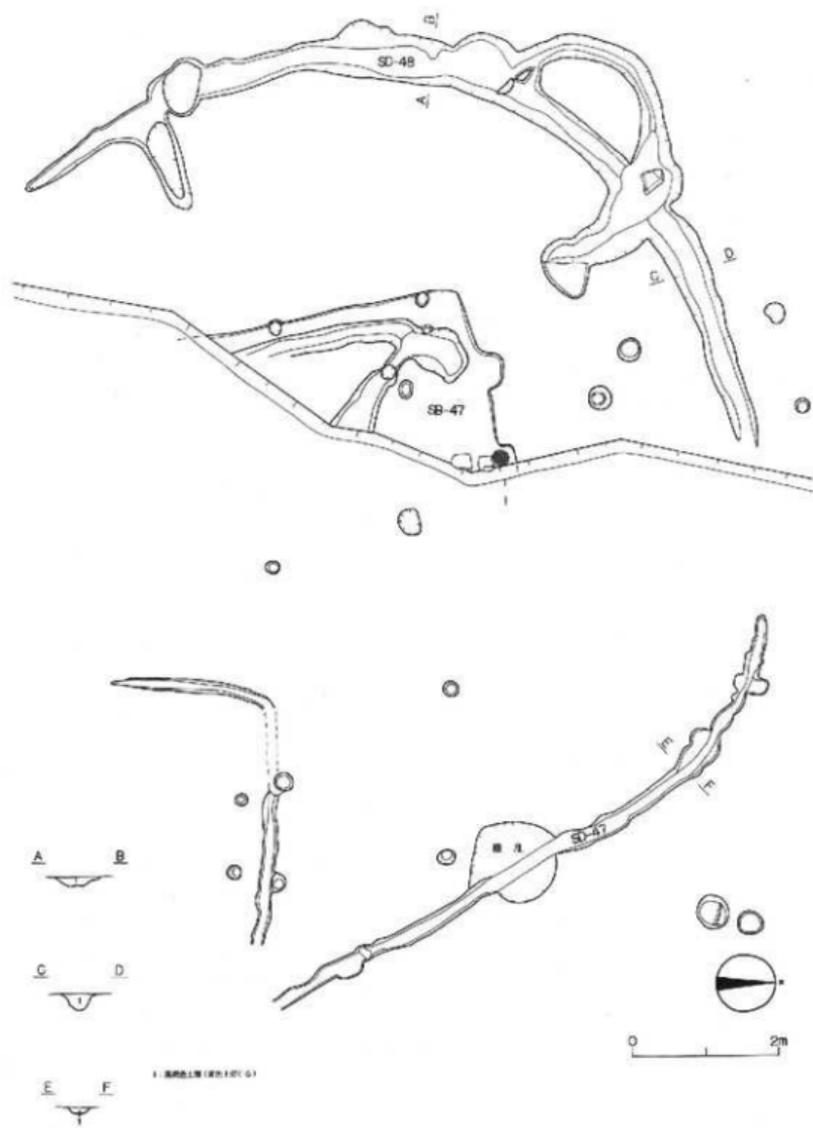
36号清淤位置图



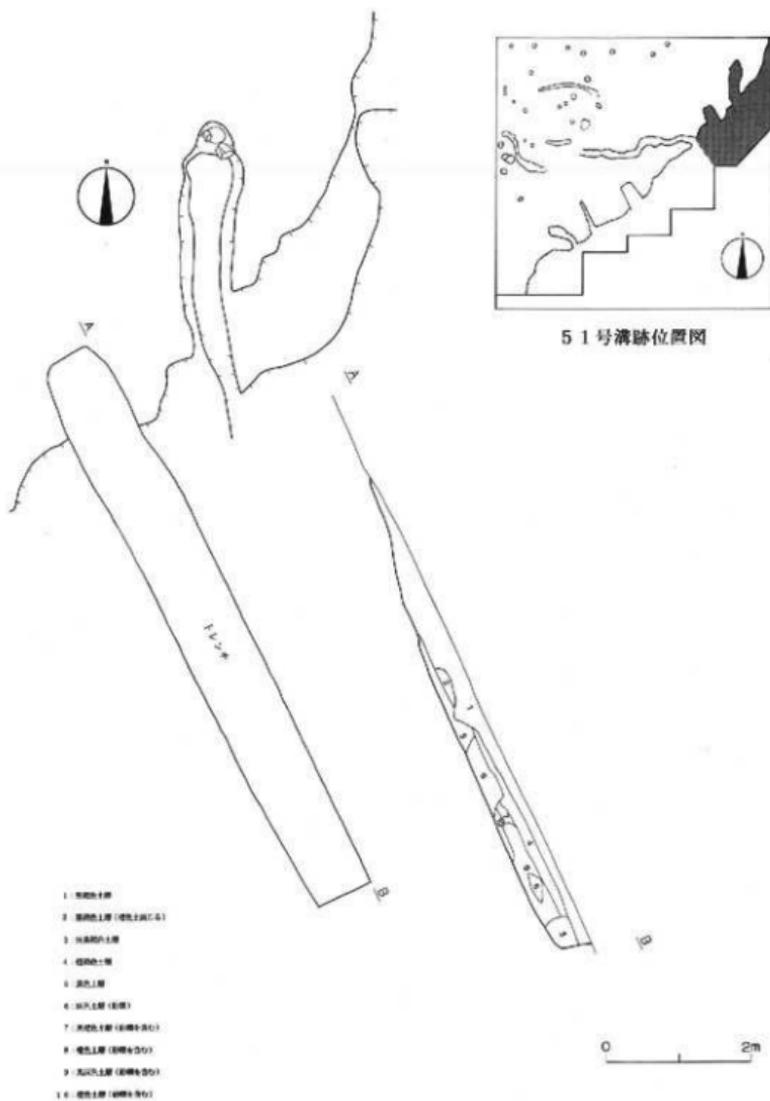
- 1: 淤泥层
- 2: 灰土层 (M2.5)
- 3: 灰土层 (M2.5)
- 4: 红褐色土 (M2.5)
- 5: 红褐色土



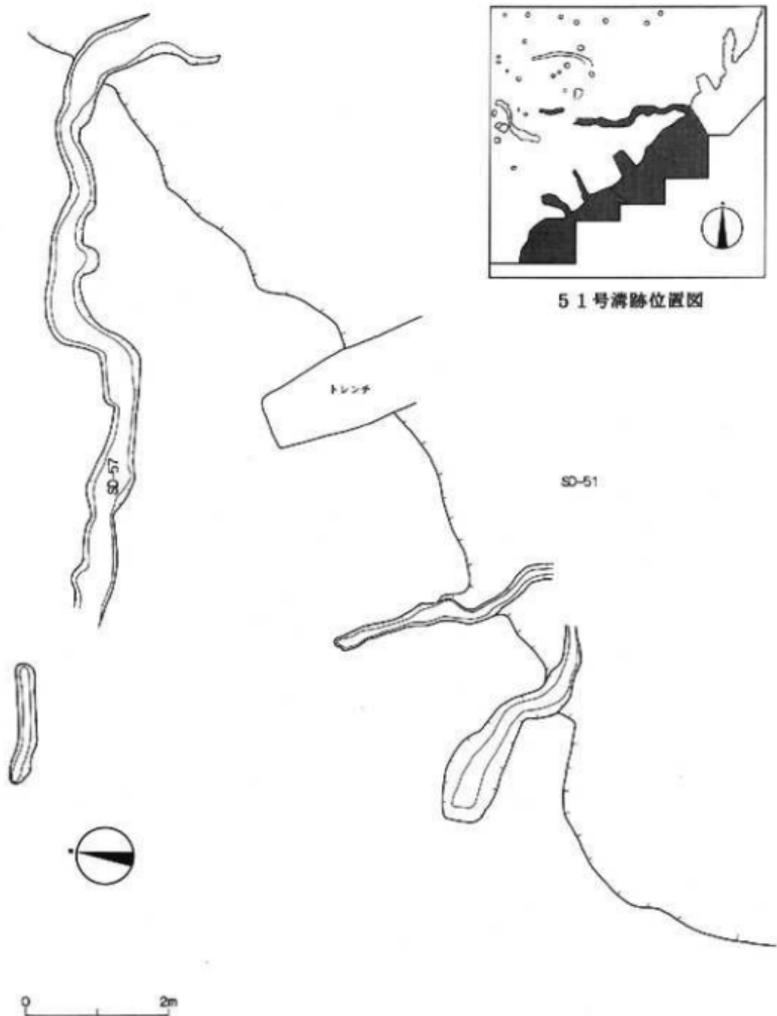
第68图 36号清淤



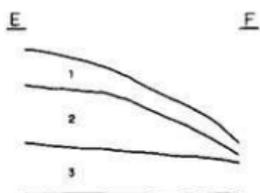
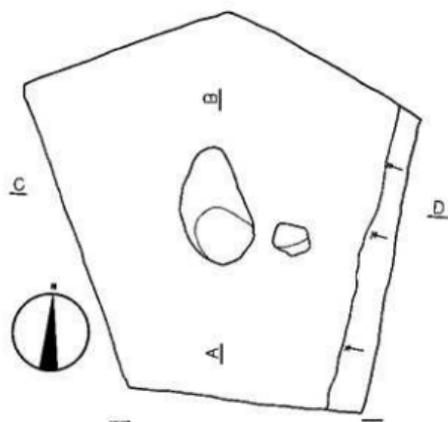
第69图 47·48号溝跡



第70图 51号沟跡

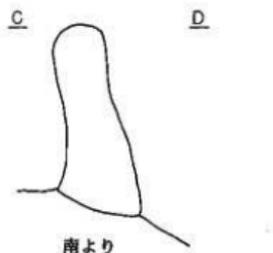
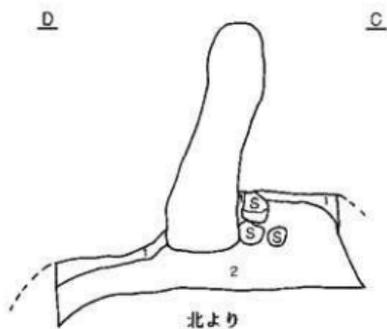
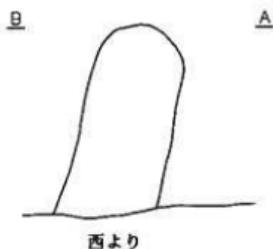
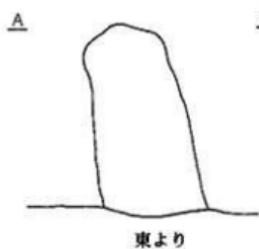


第71図 51号溝跡



土層断面図

- 1: 表土
- 2: 赤褐色土層 (ようけ層)
- 3: 黒褐色土層



第72図 すばこ様

(1) 遺構一覧表

① 竪穴住居跡

住居名	平面形	主軸方向	カマド・炉の状況	出土遺物番号	備 考
1号住居跡	亂丸長方形	N-20°-W	中央より長軸北西寄りに地床が存 在し地床中にほぼ土器がある。	・土器(1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10 11, 12) ・石器その他(9, 60)	東半分は水田遺跡の跡に破壊されており不明である。主柱穴は確認できなかった。惣括には、小柱穴が存在する。また、西側の壁に目って、溝が掘られている。出土遺物から弥生時代後葉、新石器時代の住居跡と考えられる。
2号住居跡	方形	N-1°-W	不明	・土器(13, 14) ・石器その他(10)	東半分は河川により削られており不明である。出土遺物から平安時代と思われる。
3-5号住居跡				・土器(15) ・石器その他(40)	当初は住居跡と考えていたが、平面図が不明確であり、炉・カマドの痕跡もはっきりしないので住居跡から引いておきたい。
6・7号住居跡	方形	N-5°-W	中央よりやや北寄りに地床が存続 (7号住居跡)。	・土器(16, 17, 18 19) ・石器その他(56)	断面図及び発穴の発見状況から2件の住居跡が重複していると思われる。出土遺物から弥生から古 期時代にかけての住居跡と思われるが、土器や 銅器の破片もかなり出土しており、平安時代の 住居跡との重複も考えられる。
8・9号住居跡	方形?		不明	・土器(20, 21, 22 23) ・石器その他(11, 12 26, 32, 51, 52, 62, 63, 66, 67, 70)	8・9号住居跡の東側は水田遺跡の跡に破壊されて いる。両住居跡の重複関係は不明である。この 住居跡の上に土間に呼ばれる立石があった。 その下は古い土層状の岩地となっており、石蓋及 び破片・原石などが埋まっていた。住居跡は、出 土土器より奈良時代の住居跡と思われる。
10号住居跡	不明		地床が	・土器(24, 25)	遺物はわずかであり、そのほとんどが弥生時代後 葉の新石器時代土器である。
11号住居跡	不明		不明	・土器(26)	住居跡は削平されてほとんど残っていないが、出 土土器のほとんどが弥生時代後葉の新石器時代土器 の破片である。ただし、両家ぞきたのは反輪銅器 である。

12・13号住居					住居跡は削平されてほとんど残っていないが、出土土器は弥生時代後期の前期木式土器の破片がほとんどである。
14・15・16号住居跡			地床跡(1分画)	・土器(27)	住居跡は削平されており、詳細は不明である。出土土器は弥生時代後期の前期木式土器や須恵器の破片が出土している。
17号住居跡	隅丸長方形	N-30°-W	地床跡		住居跡のほとんどを道路によって破壊されているため詳細は不明である。出土遺物より弥生時代後期の前期木式期の住居跡と思われる。
18号住居跡	隅丸長方形	N-0°	地床跡	・土器(28, 29, 30, 31, 32)	主柱穴は確認できなかった。出土土器から弥生時代後期の前期木式期の住居跡と思われる。
19号住居跡	不明		不明	・土器(33, 34) ・石器その他(53)	住居跡のほとんどが水田遺物により破壊されており、わずかに南側壁が残るのみである。柱穴は住居跡の壁に沿って通っているようである。出土土器より平安時代の住居跡と思われる。
20号住居跡	隅丸方形	N-30°-W	地床跡		削平が激しく、明示できる土器はいないが、出土土器のほとんどが弥生時代後期の前期木式土器であった。
21号住居跡	方形	N-10°-E	住居跡北壁にカマドが存在する。ほとんど壊されている。		削平が激しく、明示できる土器はなかった。
22号住居跡	方形	N-0°	住居跡北壁にカマドが存在する。削平が激しくほとんど壊されている。	・土器(35, 36, 37)	壁際に溝を持つ。柱穴は、北側の2分画は確認できた。出土土器から奈良時代から平安時代にかけての住居跡と考えられる。
23・24号住居跡					遺構の跡には住居跡と考えられたが、掘り下げてみると住居跡とは考えることができなかった。
25号住居跡	隅丸長方形	N-10°-W	地床跡	・土器(38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47) ・石器その他(34)	主柱穴は4本確認されている。北西側壁には溝が掘られている。出土土器は住居跡の南西隅を中心に出土している。これらの土器から弥生時代後期の前期木式期の住居跡と考えられる。

26・27号住居	不明	不明	地床手	・土器(49, 50, 51)	遺物発見時には、2つの住居跡が重複しているものと考えられていたが、調査結果より必ずしも2件である必要がないと思われる。出土土器より平安時代の住居跡と考えられる。
28号住居跡	不明	不明		・土器(52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62)	壁か北面の角の部分が残存していた。出土土器は、集中しており平安時代の住居跡と考えられる。
29号住居跡	方形	N-15-W	カマド(壁)	・土器(63, 64, 65) ・石器その他(13, 41)	階平が壁しく住居跡の土器は明確ではないが、カマドをもち、西と南と東の壁の下に溝をもつ住居跡であることが判別した。出土土器より奈良時代の住居跡であると思われる。
30号住居跡	不明		不明		住居跡の遺物の角のみが確認できただけであり詳細は不明である。
31号住居跡	方形		不明	・土器(66)	階平が壁しく、ほとんど遺物も発見されていないが、壁か出土土器より平安時代の住居跡と思われる。
32・33号住居	不明	不明			いずれも、壁と柱穴が3本確認されたのみで詳細は不明である。

35号住居跡	方形	N-0'-W	カマド(北側の壁際にカマドの痕跡を遺す。)	・土器(67)	水田跡地のみに、階平されており、住居跡はほとんど残っていない。床面出土の土器より、奈良時代の住居跡と思われる。
36号住居跡	(方形)	N-11'-W	カマド(東側の壁の南よりカマドの痕跡を遺す。)	・土器(68, 69) ・石器その他(46)	水田跡地のみに階平されており、住居跡はほとんど残っていない。床面出土の土器より奈良時代の住居跡と思われる。
37号住居跡	方形	N-8'-W	カマド(北側の壁のほぼ中央に存在する。)	・土器(70) ・石器その他(14)	出土土器が少なく断片のみであるが、その土器もほとんど奈良時代と思われる。
38号住居跡				・土器(71)	遺物発見時には住居跡と思われたが掘り上げただけで住居跡とは認められなかった。

39号住居跡	方形	N-6J-W	カマド(北側の壁跡の中央部に存在する。遺構には石が使われている。)	・土量(72, 73, 74, 75, 76, 77)	第33号住居跡に併せられている。床面には土及び瓦が敷き詰められていた。カマド内の土量より奈良時代の住居跡と思われる。
40号住居跡	(方形)		不明	・土量(78)	木田遺跡の基に削平されており南半分が覆かかっているのみである。床面から浅黄褐色の瓦石も出土したが瓦石が壊れやすくなってしまった。床面出土土量より奈良時代の住居跡と思われる。
41号住居跡	(方形)		地味平	・土量(79, 80, 81)	木田遺跡の基に削平されており南半分が覆かかっているのみである。一部に壁に付いて溝が掘られている。床面出土量より古墳時代前期と思われる。なお、この住居跡を穿っている第14号溝跡からは、須賀屋の年が出土している。
42号住居跡	長方形	N-15'-W	カマド(北側の壁跡と思われる場所に竪溝が穿っている。)	・土量(82, 83, 84)	木田遺跡の基に削平されており、カマドははっきりとは見えていない。東・西・南側それぞれ壁跡には溝が掘られている。溝内及び床面出土土量より奈良時代の住居跡と考えられる。
43号住居跡	長方形	N-15'-W	地味平(住居跡の中央部に存在している。床内には伊勢土器が出土している。伊勢石と思われる石も存在する。)	・土量(85, 86, 87)	木田遺跡の基に削平されており、住居跡は床面が覆かかっていた。住穴は6本と思われる。壁面付瓦と思われる場所には溝が掘られている。伊勢土器及び床面の土量より奈良時代後期の前期木田式層の住居跡と思われる。
44号住居跡	方形	N-6'-W	カマド(北側の壁跡に存在する。遺構には石が使われている。カマドの床にも石が使われている。)	・土量(88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100, 101, 102, 112) ・石量その他(15, 64, 74)	南側は11・12号住居跡と重複している。南と西の壁跡には溝が掘られている。住穴は4本である。出土遺物より奈良時代と思われる。
45号住居跡	長方形		不明	SB-44~46・土量(103, 104, 105, 106, 107, 108, 109, 110, 111)	木田遺跡の基に削平を受けている。西側は10・12号住居跡と重複している。出土土量より奈良時代と思われる。

45号住居跡				・石室その他(15, 64 74)	
46号住居跡	長方形	N-24°-W	不明	・土室(113, 114, 115, 116, 117, 118, 119, 121) ・石室その他(25, 33)	礎が埋入しており、遺物の残りが少ないが、出土土器より奈良時代後期の前期木式冢の住居跡と思われる。
47号住居跡	(方形)		カマド(木田遺地の基に削平されており痕跡のみが存在する。)	・土室(122, 123)	木田遺地の基に削平されており、詳細は不明である。住居跡の周りは、溝が掘らされている。床面出土の土器より奈良時代の住居跡と思われる。
48・49号住居跡					礎の周りは、住居跡と思われるが調査の結果、住居跡とは認めることができなかった。
50・51・52号住居跡				SB-50・土室(124))・石室その他(16)	礎土が認められ、柱穴と思われるものが伴っていることから住居跡であったと思われる。出土遺物が伴わず詳細は不明である。

② 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡名	規格	主軸方向	備考
1号掘立柱建物跡	1段×1間・方形	W-0°-N	
2号掘立柱建物跡	1段×1間・長形	W-0°-N	
3号掘立柱建物跡	1段×1間・方形	W-0°-N	
4号掘立柱建物跡	1段×2間・扇形	W-0°-N	
5号掘立柱建物跡	2段×3間(方形)	W-0°-N	
6号掘立柱建物跡	2段×2間(方形)兼柱	W-0°-N	
7号掘立柱建物跡	2段×2間(方形)	W-0°-N	

8号竪立建物跡	2間×2間・方形、竪柱	W-0°-N	
9号竪立建物跡	2間×2間・廻柱	W-0°-N	
10号竪立建物跡	2間×2間・矩形	W-5°-S	
11号竪立建物跡	2間×2間・矩形	W-0°-N	
12号竪立建物跡	(1間×1間)		竪穴居跡の柱穴の可能性もある。
13号竪立建物跡		W-39°-N	
14号竪立建物跡	1間×2間・矩形	W-0°-N	
15号竪立建物跡	1間×2間・方形	W-0°-N	
16号竪立建物跡	2間×2間・方形、竪柱	N-6°-W	
17号竪立建物跡			
18号竪立建物跡	2間×2間・矩形	W-10°-S	
19号竪立建物跡	2間×3間・矩形	W-17°-N	
20号竪立建物跡	2間×3間・矩形		
21号竪立建物跡	2間×3間・矩形	W-15°-N	
22号竪立建物跡	2間×2間・廻柱		
23号竪立建物跡	1間×1間・方形	W-45°-N	
24号竪立建物跡	1間×3間		東西に長い条、竪立建物跡というよりも掘列状のものと考えたい。
30号竪立建物跡	(1間×4間)	E-10°-N	北側は、調査範囲外となるため全体の形・規模等は不明である。2間×4間の竪立建物跡となる可能性もある。

31号孤立建築物	1階×2間・矩形	N-45°-W	
32号孤立建築物	1階×1間・矩形	W-0°-N	
33号孤立建築物	2階×2間	E-10°-N	
34号孤立建築物	1階×2間	N-10°-W	
35号孤立建築物	(2階×2間・方形)	(N-12°-E)	北側は調査区域外であり、全体の形状・屋敷は不明である。
36号孤立建築物	(2階×2間・矩形)	W-0°-N	北側は調査区域外のため不明である。
37号孤立建築物	1階×1間・矩形		
38号孤立建築物	1階×1間・階段	N-30°-W	
39号孤立建築物	1階×1間・矩形	W-0°-N	
40号孤立建築物	2階×5間・(矩形)	E-4°-N	
41号孤立建築物	2階×1間・(矩形)	N-8°-W	
42号孤立建築物	2階×2間・(矩形)	E-6°-N	
43号孤立建築物	2階×3間・階段		
44号孤立建築物	1階×1間・(矩形)	(E-38°-N)	
45号孤立建築物	2階×2間・(矩形)	(N-4°-E)	
46号孤立建築物	(2階×2間)		北側は、調査区域外であり不明である。
47号孤立建築物	2階×2間・(矩形)	N-8°-W	
48号孤立建築物		N-8°-W	
49号孤立建築物	(1階×1間)	(N-20°-E)	

50号竪立柱礎跡	(1間×1間)	(N-15°-E)	
51号竪立柱礎跡			北部は調査地区外であり不明である。
52号竪立柱礎跡	1間×1間	(E-7°-W)	
53号竪立柱礎跡	2間×2間・(矩形)	W-0°-N	
54号竪立柱礎跡	(2間×?)	(N-10°-W)	北部は道路の下となり不明である。
55号竪立柱礎跡	(2間×2間)	N-10°-W	
56号竪立柱礎跡	(2間×6間)	E-6°-N	西部の柱穴は腐であるのかもしれない。
57号竪立柱礎跡	(2間×2間)	E-5°-N	南部は調査区外であり、水田意地のために削平されており不明である。
58号竪立柱礎跡	(2間×2間・方形)	W-0°-N	
59号竪立柱礎跡	(2間×2間・方形)	W-0°-N	
60号竪立柱礎跡	2間×2間・矩形	W-0°-N	
61号竪立柱礎跡	2間×3間・矩形、竪柱	E-8°-N	

③ 溝跡

溝跡名	出土遺物番号	備考
1号溝跡	<ul style="list-style-type: none"> ・土器(125, 126, 127, 128, 129, 130, 131, 132, 133, 134, 135, 136, 137, 138) ・石器その他(27, 54, 71) 	S字状に東西に延びている。溝跡の東側には柱穴が2本並んでいる。何らかの施設が存在したと思われる。自然露出と思われる。出土土器より、奈良時代後期の普通式土器のものと思われる。
2号溝跡		直線的に北北西から南東に伸びている。8, 9, 10号住居跡より新しい溝跡である。所属時期は不明である。

3号溝跡	・石室その他(61, 68, 69)	南北に縦状に伸びている。6, 7, 8号位置跡より新しい。出土遺物は土師器・須恵器片がほとんどであり、所屬時期もそれ以降と思われる。
4号溝跡	・土室(139, 140, 141, 142, 143, 144, 145, 146, 147, 148, 149, 150, 151, 152, 153, 154, 155, 156, 157, 158, 159, 160, 161, 152, 163, 164, 165, 166, 167, 168, 169, 170, 171, 172, 173, 174, 175, 176, 177, 178, 179) ・石室その他(35, 36, 42, 47, 55, 72, 81)	東西に伸びている。1号溝跡に近くと思われる。奥の面からは奈良・平安時代の土器が出土しているが、覆土及び河原跡及び岸跡からは弥生時代後期の前期木式墓の土器が出土している。また、土層断面から築造木製の河床の上に時期不詳の柱が露出され、その上に平安時代の層が確認されている。何故か自然溜池と陸地化が繰り返されているようである。
5号溝跡		南北に調査地域内に伸びている。所屬時期は不明である。
6号溝跡		南北に伸びている。土師器・須恵器片が出土しており、所屬時期は平安時代と思われる。
7号溝跡	・土室(180, 181, 182) ・石室その他(44)	4号溝跡に流れ込む溝跡である。N-70°-Wの方向に作られている。出土土器から弥生時代後期の前期木式墓の溝跡と思われる。
8号溝跡		7号溝跡と並ぶように4号溝跡に流れ込んでいる。N-70°-Wの方向に作られている。溝跡は進行しており自然の溜池のようである。
9号溝跡		8号溝跡と同層のものと思われる。N-30°-Wの方向に作られている。
10号溝跡		北部調査地域内に伸びている。N-30°-Eの方向に作られている。出土遺物は土師器・須恵器片のみである。
11号溝跡	・土室(185)	当初、10号溝跡の西側に平行して検出されたが、積大く雨水により破壊されてしまい正確に調査することができなかった。出土遺物は土師器・須恵器片のみである。
12号溝跡		E-10°-Nの方向に作られている。
13号溝跡	・土室(183, 184)	4号溝跡に流れ込む溝跡である。N-50°-Wの方向に作られている。出土土器は弥生時代前期木式墓の土器であり、覆土は黄褐色土であった。このことから、前期木式墓に何らかの理由で溝を掘削したことが考えられる。

20号溝跡	・土層(186, 187, 188) ・石礫その場(17, 18)	この字状に曲がる溝である。溝跡は調査区域外へ伸びているため全容は不明であるが、西側はトレンチ調査により直線的に伸びていることが確認されている。北側は木田豊地の畝に覆平されており詳細は不明であるが、方形に区画されているようである。また、南西の角付近には土礫状に盛り残してある場所がある。出土土層より平安時代の溝跡と思われる。
21号溝跡	・土層(189)	南北に伸びている。
22号溝跡		南北に伸びている。
23号溝跡		南西から北東に伸びている。
24号溝跡		南西から北東に伸びている。
25号溝跡	・土層(190)	5号溝跡につながると思われる。
26号溝跡		南北に伸びている。
27号溝跡		32号量立柱建物跡を囲むようにL字状に掘られている。
28号溝跡	・石礫その場(20)	南北に伸びる。
29号溝跡	・土層(191, 192)	瓦状に落ちる溝跡である。出土土層より奈良時代の溝跡と思われる。
30号溝跡		
31号溝跡	・土層(193)	L字状の溝跡である。40号住居跡より出ている。溝跡からは平安時代の土層が出土している。
32号溝跡		43号量立柱建物跡の西と北側を囲むように存在している。
33号溝跡		
34号溝跡		北東から南西に伸びている。
35号溝跡		北東から伸びている。
36号溝跡	・土層(194, 195, 196, 197, 198, 199, 200, 201, 202, 203, 204, 205,	近L字状の溝跡である。断面はV字状となる。溝の底部付近からは掘堀木式用の土層及び石式扉装置が出土している。半分程度埋まった状態でも溝はまだ確認しているらしく、奈良・平安時代の土層が出土している。

36号溝跡	206, 207, 208, 209, 210, 211, 212, 213, 214, 215, 216) ・石室その他(28, 29, 48)	
37号溝跡		南北に36号溝跡から延びている。出土遺物の量が少なくはっきりしないが、平安時代の溝跡と思われる。
38号溝跡		北東から延びている。
39号溝跡		北西から延びている。
40号溝跡		北西から延びている。20号溝跡と並ぶように置かれている。
41号溝跡		12号溝跡と38号溝跡と同一の溝跡と思われる。
42号溝跡		35号溝跡と重複している。
43号溝跡		南北に延びている。
44号溝跡		東西に延びている。
45号溝跡		東西に延びている。
46号溝跡		溝跡内より土層断片のみが出土している。
47号溝跡		29号溝跡と同一の溝跡と思われる。
48号溝跡	・石室その他(59)	47号住居跡を囲むように通っている。溝跡からは土層断片・須恵器片が出土している。
49号溝跡		
50号溝跡	・石室その他(21, 22)	南北に延びている。
51号溝跡	・土層(217, 218, 219, 220, 221, 222, 223, 224, 225, 226, 227, 228, 229, 230, 231, 232, 233, 234, 235, 236, 237)	1号・4号溝跡に続く自然穴と思われる。4号溝跡と同様に溝跡内からは土層断片・須恵器片が出土しているが、覆土及び河川の岸線よりは赤土時代後期館前木式期の土層が出土している。

5 1号溝跡	238, 239, 240, 241, 242, 243, 244, 245, 246, 247, 248, 249, 250, 251, 252, 253, 254, 255, 256, 257, 258, 259, 260, 261, 262, 263, 264, 265, 266, 267 ・石器その他(23, 37)	
5 2号溝跡	・土器(268)	奈良時代のものが出土している。
5 3号溝跡	・石器その他(58)	土師器片が出土している。
5 4号溝跡	・土器(269)	土師器片が出土している。
5 5号溝跡	・土器(270)	出土遺物は無く、年代時期は不明である。
5 6号溝跡		出土遺物は無く、年代時期は不明である。
5 7号溝跡		出土遺物は無く、年代時期は不明である。
5 8号溝跡		北東に広がる。出土遺物は無く、年代時期は不明である。
5 9号溝跡		ゴ字状に落ちると思われる。削平が浅いため詳細は不明であるが住居跡の周溝である可能性もある。
6 0号溝跡		出土遺物は無く、年代時期は不明である。

④ 土坑

土坑名	出土遺物番号	備 考
1号土坑		平面形は長方形である。内部に炭を多く含む。
4号土坑	・土器(271)	平面形は円形である。
2 2号土坑	・土器(272) ・石器その他(45)	平面形は三日月形である。風倒木痕と思われる。

30号土坑	・壕(273)	平面形は円形である。
36号土坑	・壕(274, 275, 276, 277)	平面形は円形である。

103号土坑	・壕(278)	平面形は楕円形である。断面は皿状となる。
112号土坑	・壕(279)	平面形は円形である。
115号土坑	・壕(280)	平面形は円形である。
116号土坑	・壕(281)	平面形は円形である。
162号土坑	・壕(282)	平面形は円形である。
163号土坑	・壕(283) ・石段(30, 39)	風倒木痕かもしれない。
168号土坑	・壕(284)	平面形は円形である。
169号土坑	・壕(285, 286)	平面形は円形である。
175号土坑	・壕(287)	平面形は円形である。
176号土坑	・壕(288, 289)	平面形は円形である。
179号土坑	・壕(290)	平面形は円形である。
180号土坑	・壕(291)	平面形は円形である。
181号土坑	・壕(292)	平面形は円形である。

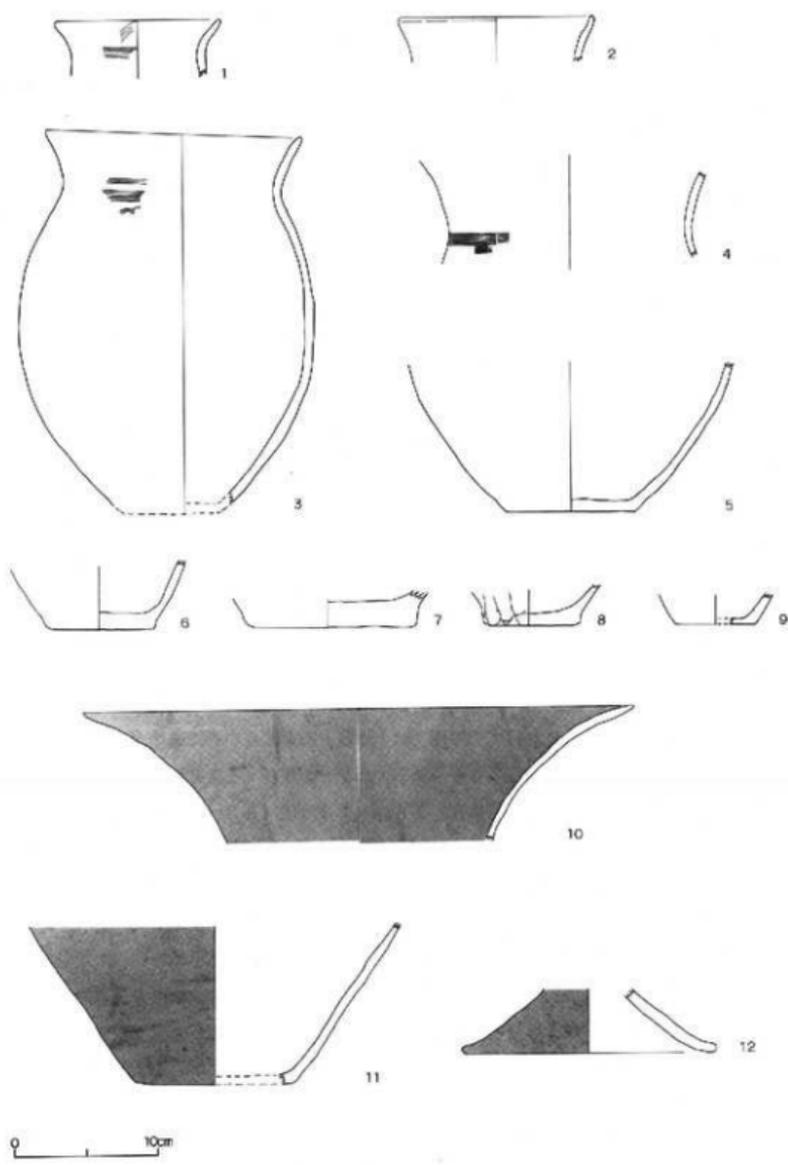
第三節 遺物

遺物は、その所属時期から①弥生時代後期から古墳時代初頭の箱清水式土器を使用している時期・②奈良時代から平安時代前半の時期・③その他に遺物量は少ないが、縄文時代晩期・近世の遺物などに分けることができる。

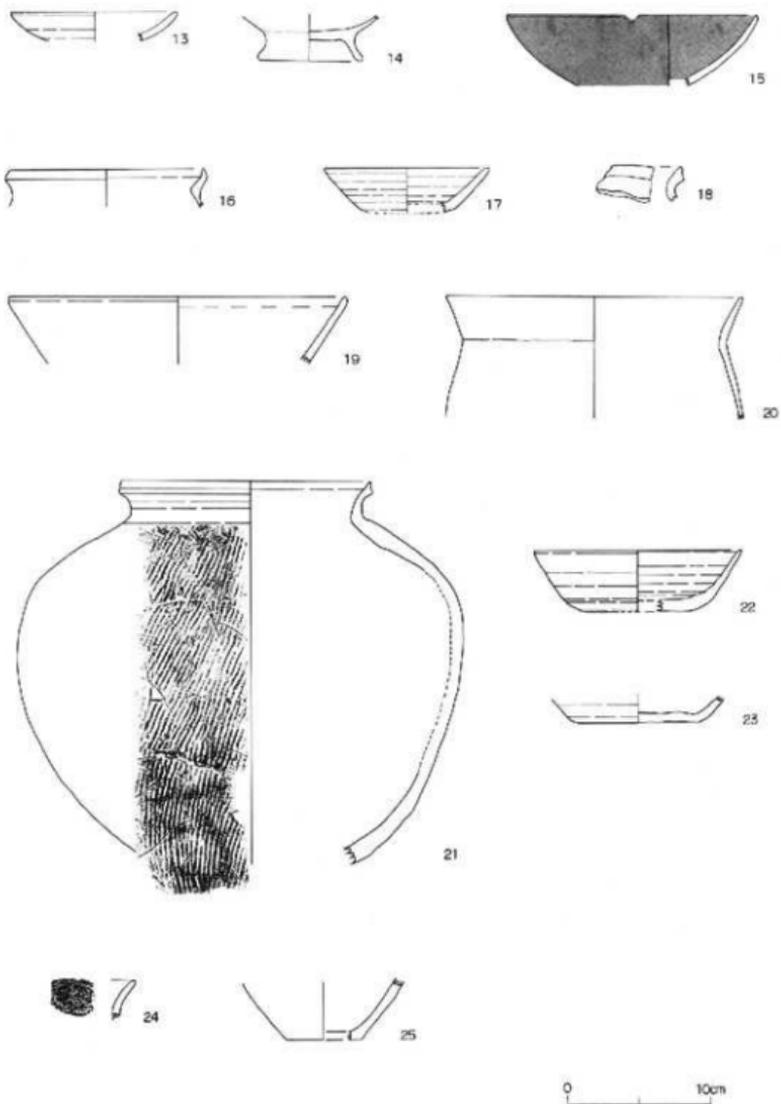
①弥生時代後期から古墳時代初頭においては箱清水式土器を中心として東海系や北陸系などの外来系土器が出土している。1号住(1~12)・46号住(116~121)出土土器は比較的良好な弥生時代後期箱清水期の土器である。46号住出土の甕は胴部に丸みを持つ。同時期の住居跡には炉胎土器をもつものがあるが、1号住(4)では甕の頸部から胴部にかけての部分を使っている。43号住(84・85)では甕の胴下半から底部を2個体重ねて使っている。18号住(28)はS字甕を出土している。25号住(38・39・40)は北陸系の土器を出土している。また、口縁部端に面取りを施し坏部に稜を持つ高坏(46)も出土している。1・4・51号溝跡には箱清水式土器とともにS字甕(142・143・155・223~228)・器台(177)・口縁が「く」の字に外反し、胴部が球形となる甕(231~233)も出土している。北陸系の有段口縁の甕(125~127・138)・口縁部端が面取りされる甕(39・141・147・158・229・315)・壺(144)・高坏(133・253)・裝飾器台(179)・台付裝飾壺(249・250)などが出土している。これらのほとんどが、河川跡の沿岸部より箱清水式土器と一緒に集中して出土している。36号溝跡からはいわゆる古式土師器と呼ばれる台付甕(194)も出土している。その他、石器は石鏃・石包丁などが出土している。

②奈良時代から平安時代にかけての時期では土師器・須恵器を中心に遺物が出土している。39号住(72~77)・44号住(88~97・99~102・112)出土土器は比較的良好な奈良時代の土器である。2号住(13・14)・28号住(52~62)出土土器は平安時代の比較的良好な土器である。20号溝跡は出土土器は破片のみであった。土師器の坏の破片がほとんどであった。36号溝跡は奈良時代の土師器・須恵器(199~216)を中心に出土している。36号土坑は土師器の坏が重ねられ、その横に黒色土師器の長頸壺(277)が置かれた状態で出土している。平安時代の土器と思われる。116号土坑からは須恵器の短頸壺が出土している。所属時期は奈良時代のものと思われる。176号土坑からは須恵器の長頸壺が出土している。所属時期は平安時代と思われる。独立柱建物跡からは柱穴内から土器片が出土するのみで所属時期の参考となるものは少ない。その他の遺物としては44号住から刀子が出土している。36号住からは砥石が出土している。

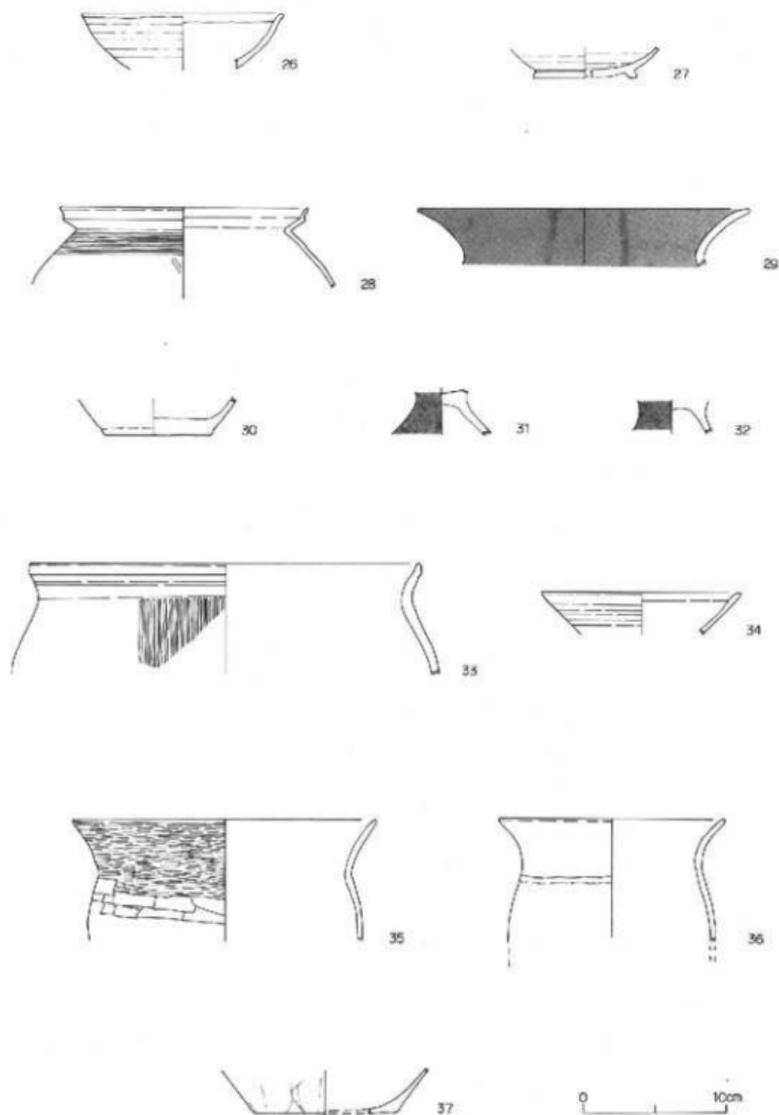
③その他の時期では、縄文時代晩期の氷式期の土器(280)が土坑内から出土している。また、「スパコ様」の正面から古銭「寛永通宝」(78, 79)があたかも供えられたかのように出土している。



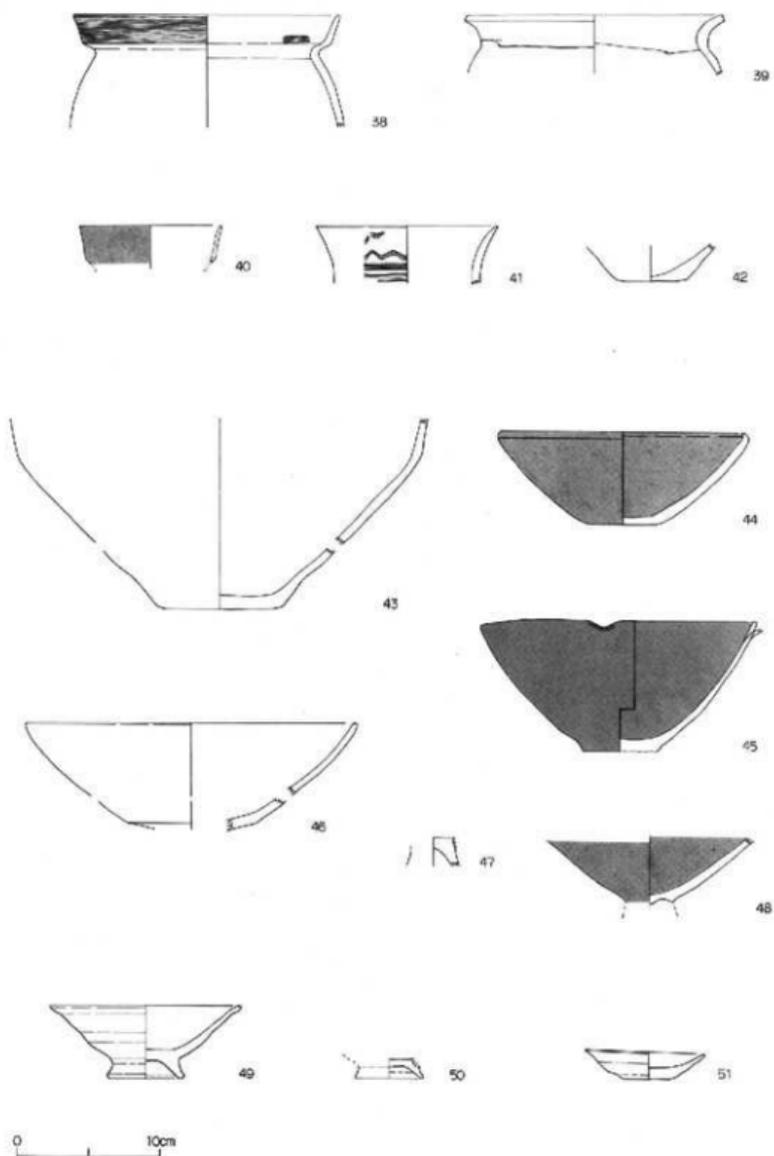
第73圖 1号住居跡出土土器



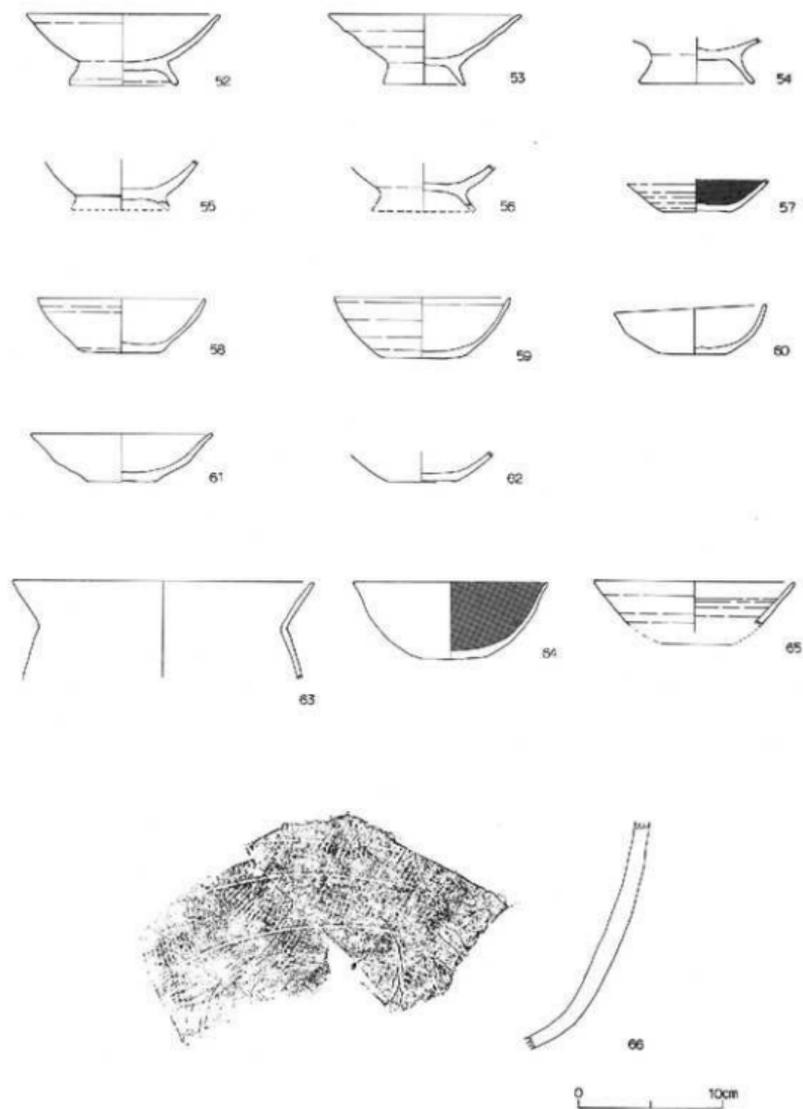
第74图 2·3·6·7·8·9·10号住居跡出土土器



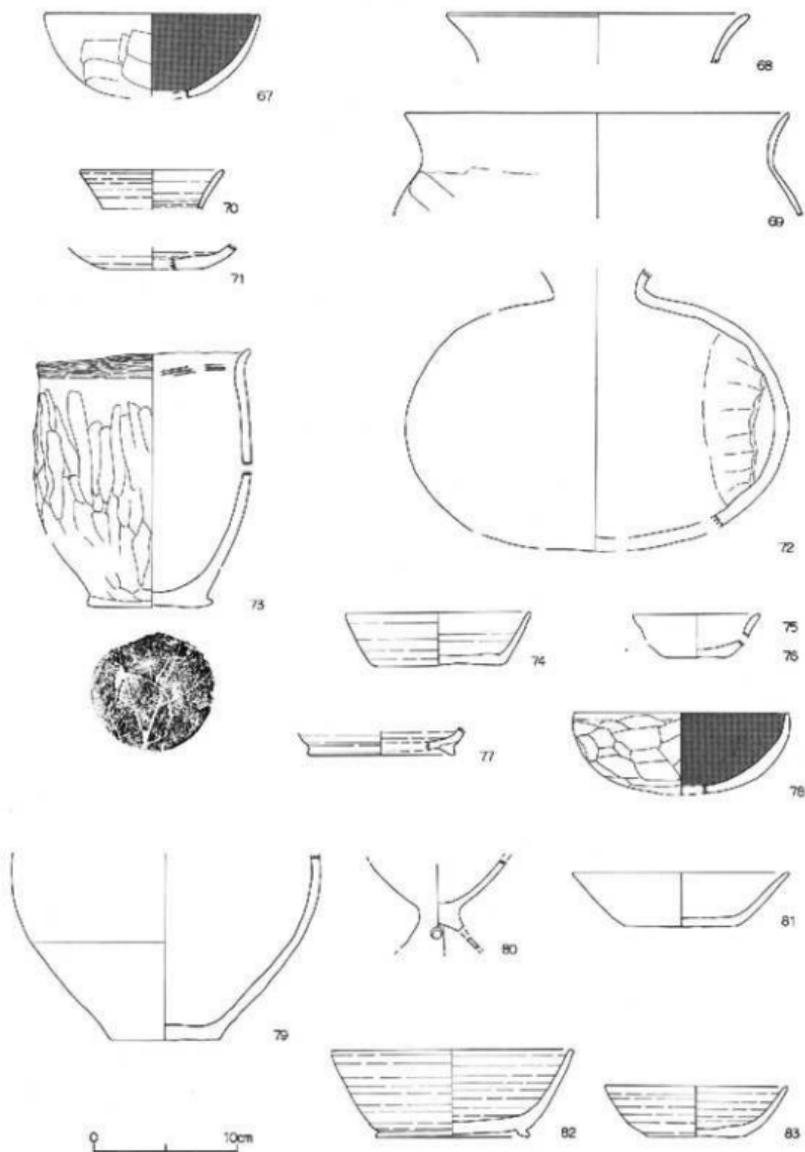
第75圖 11・14・15・16・18・19・20号住居跡出土土器



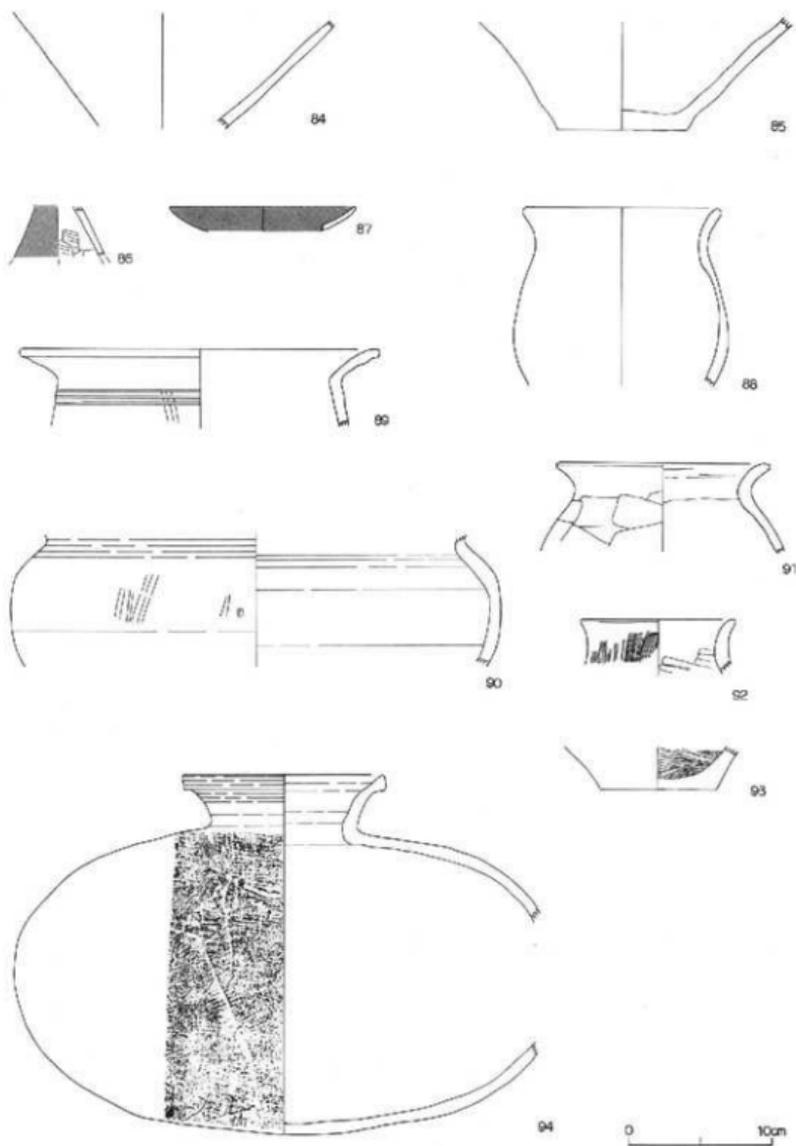
第76图 25·26·27号住居跡出土土器



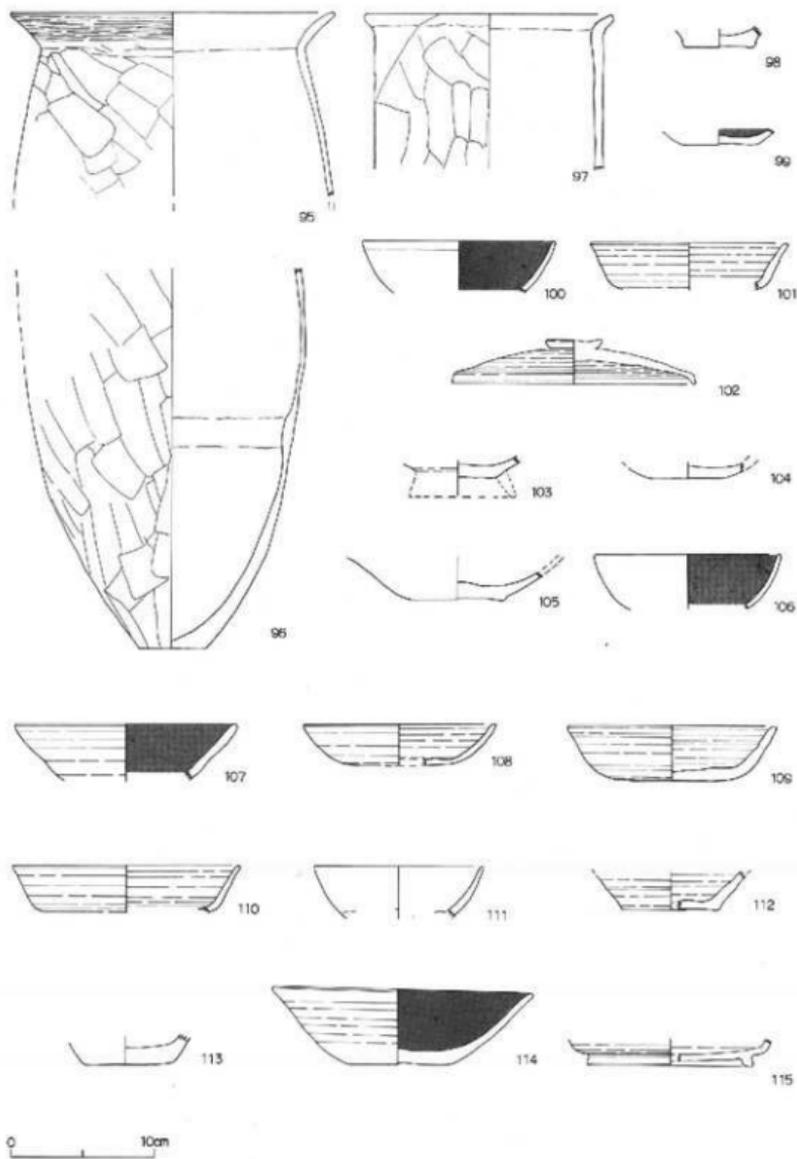
第77圖 28・29・31号住居跡出土土器



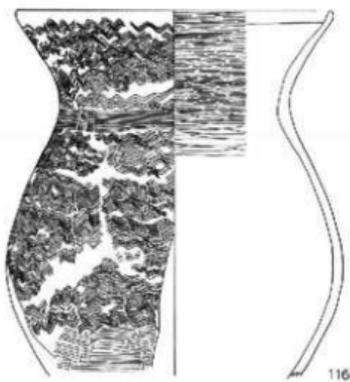
第78圖 35・36・37・38・39・40・41・42号住居跡出土土器



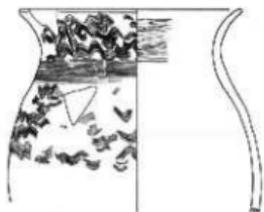
第79圖 43・44号住居跡出土土器



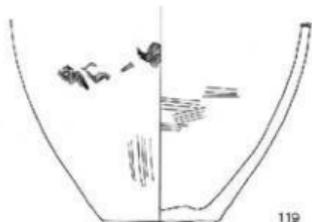
第80圖 44・45・46号住居跡出土土器



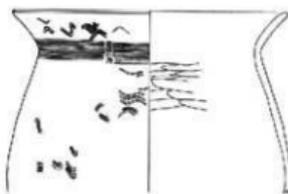
116



117



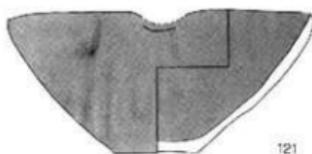
119



118



120



121



122



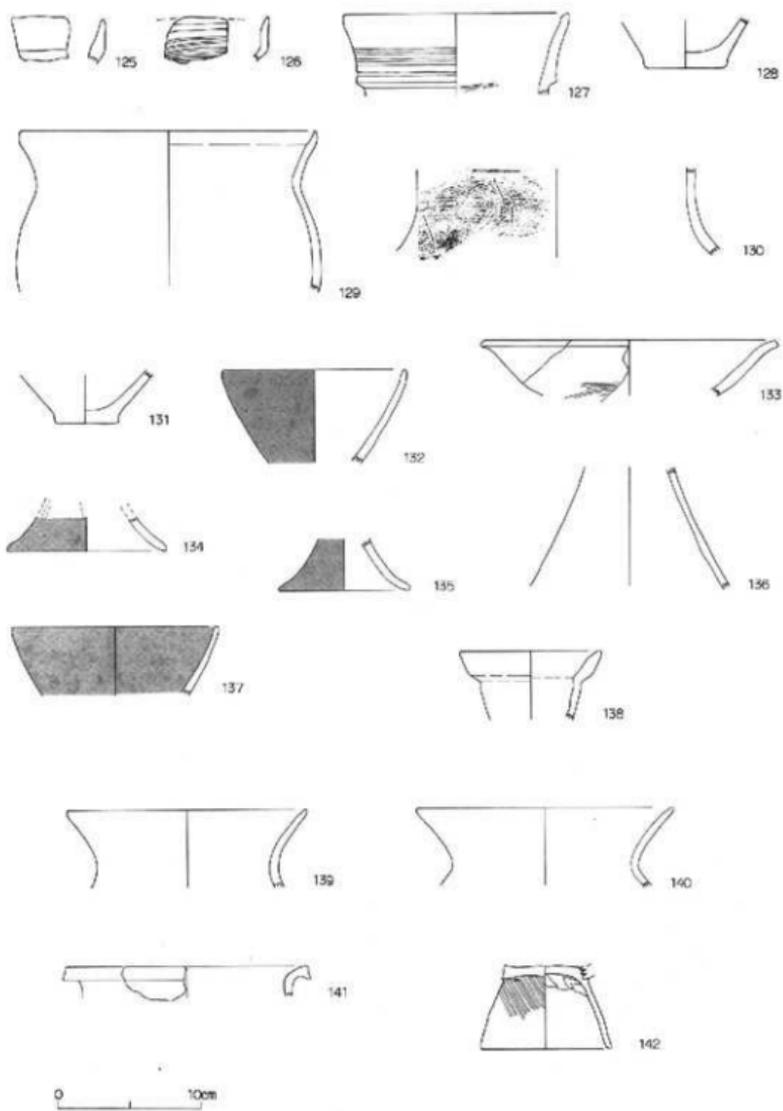
124



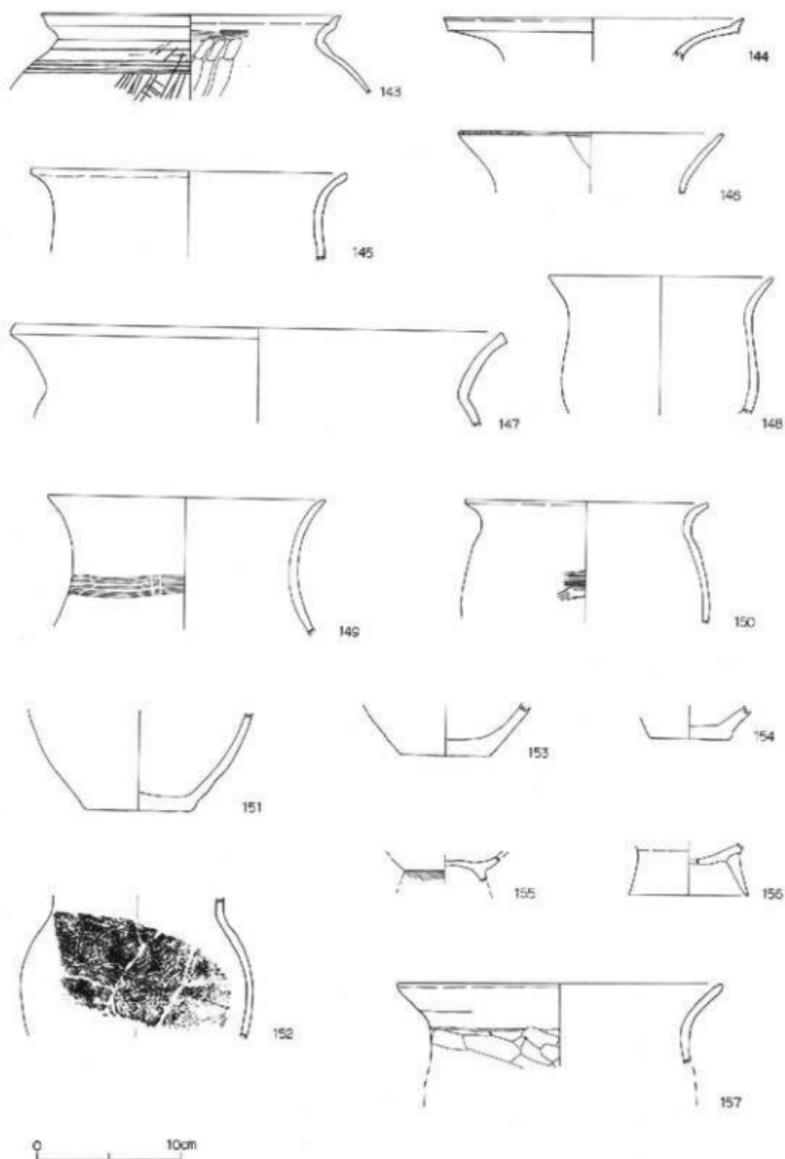
123



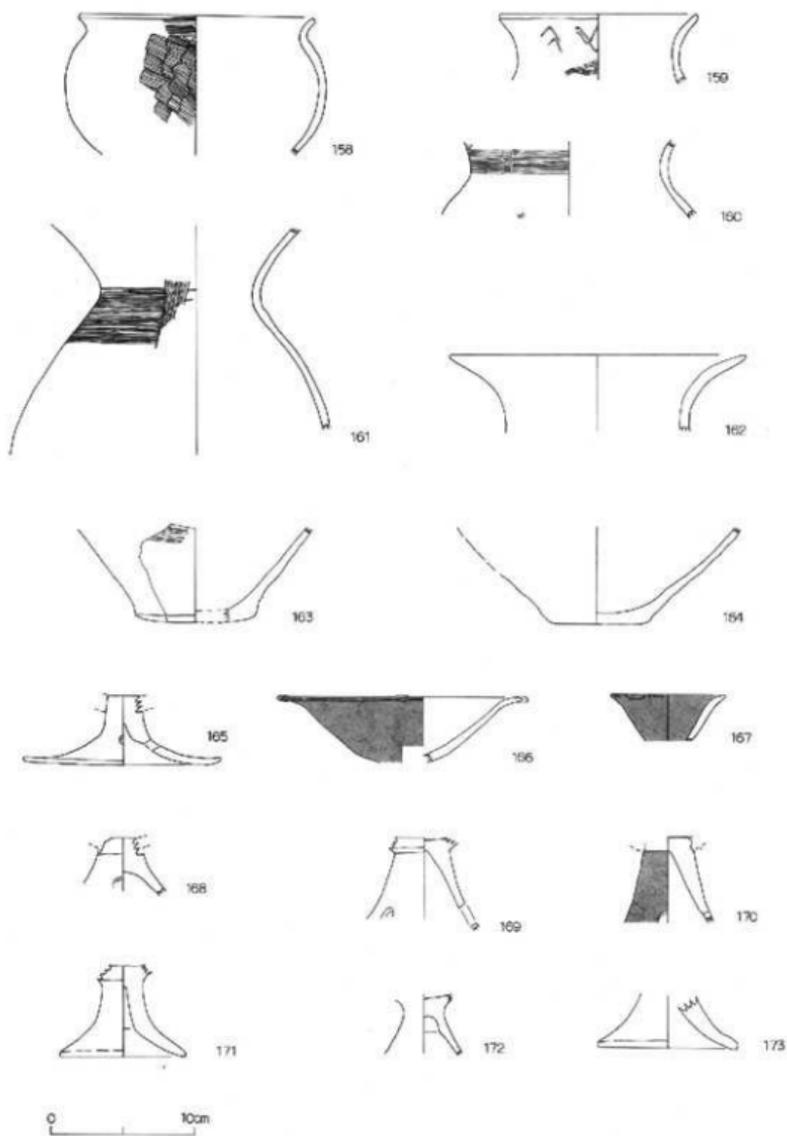
第81圖 46・47・50号住居跡出土土器



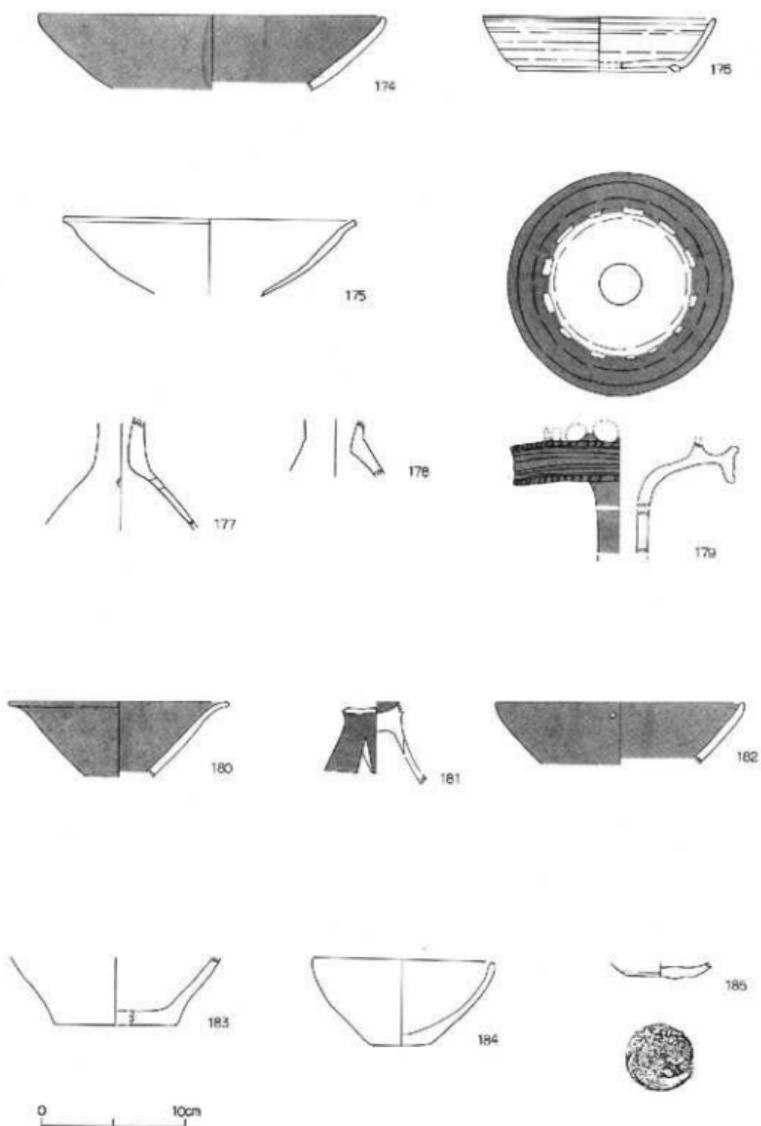
第82图 1·4号溝跡出土土器



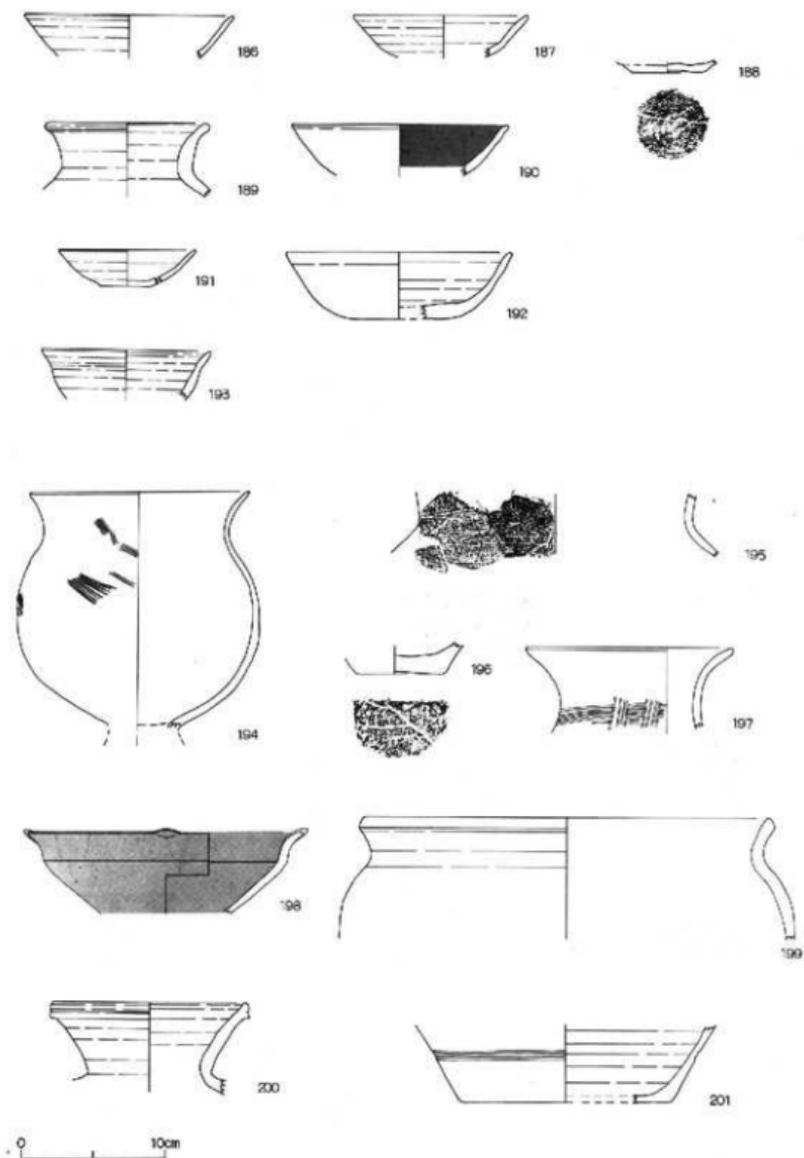
第83圖 4号溝跡出土土器



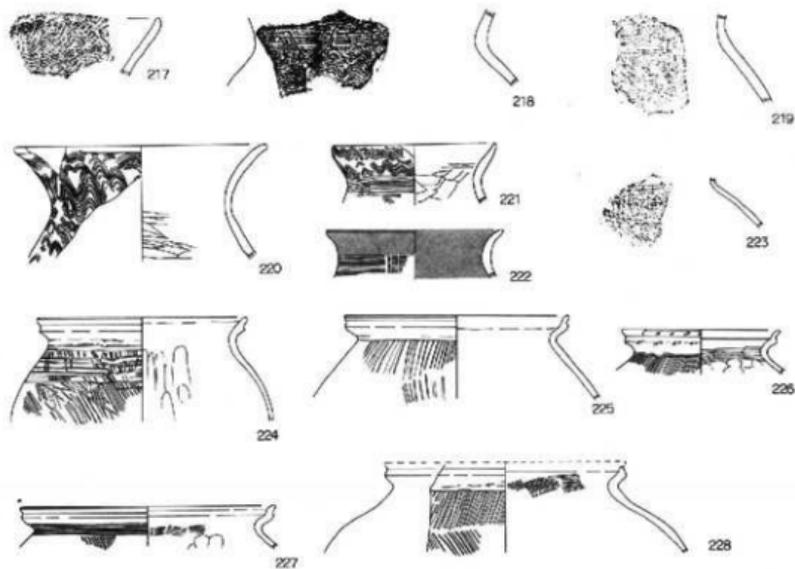
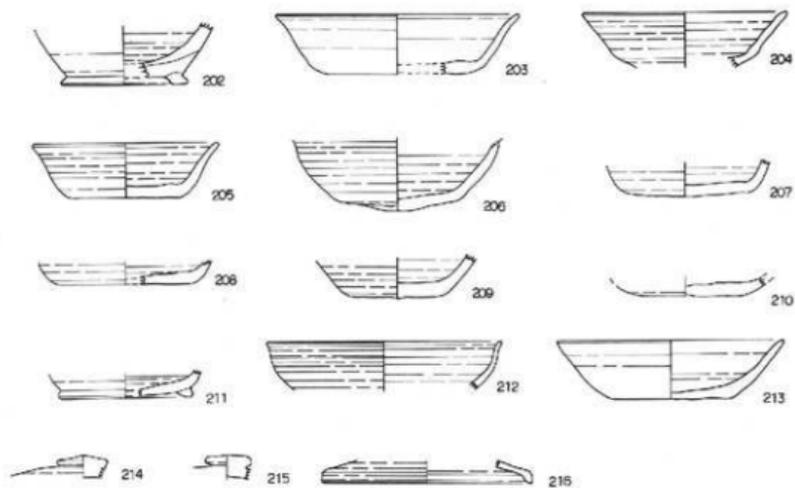
第 8 4 图 4 号清跡出土土器



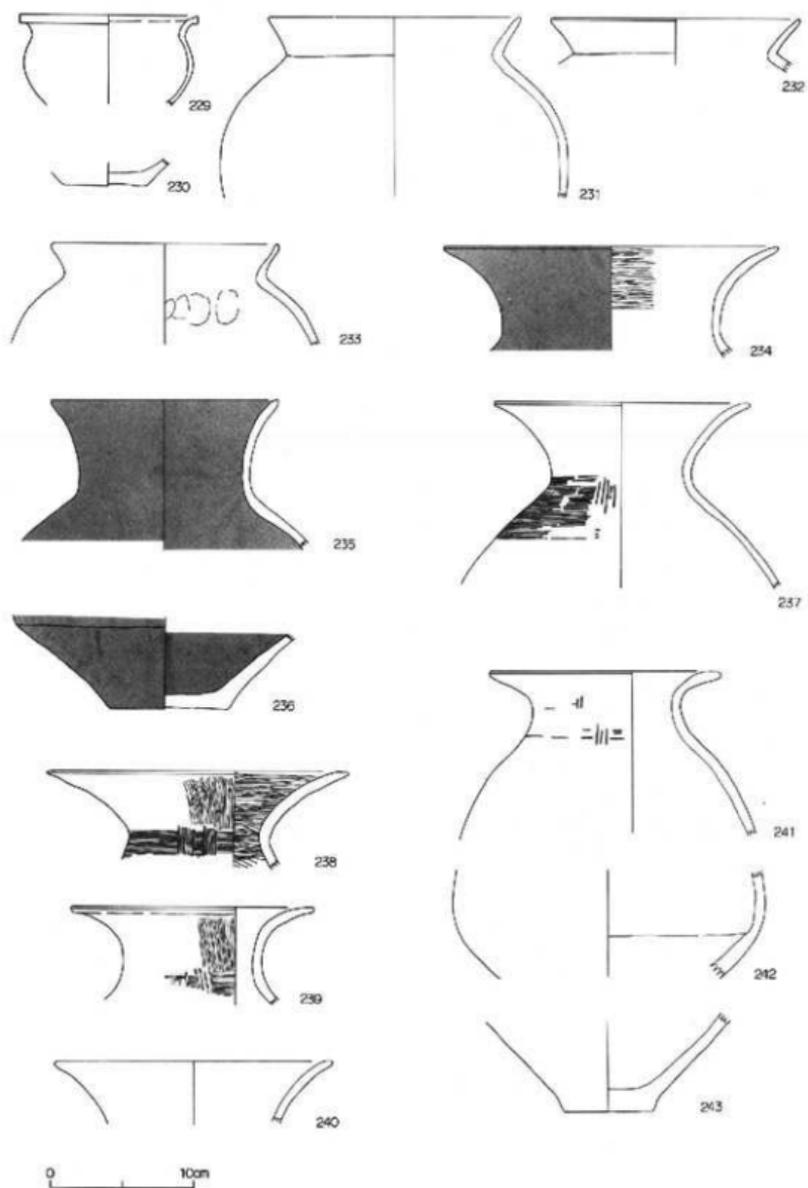
第85图 4·7·11·13号满路出土土器



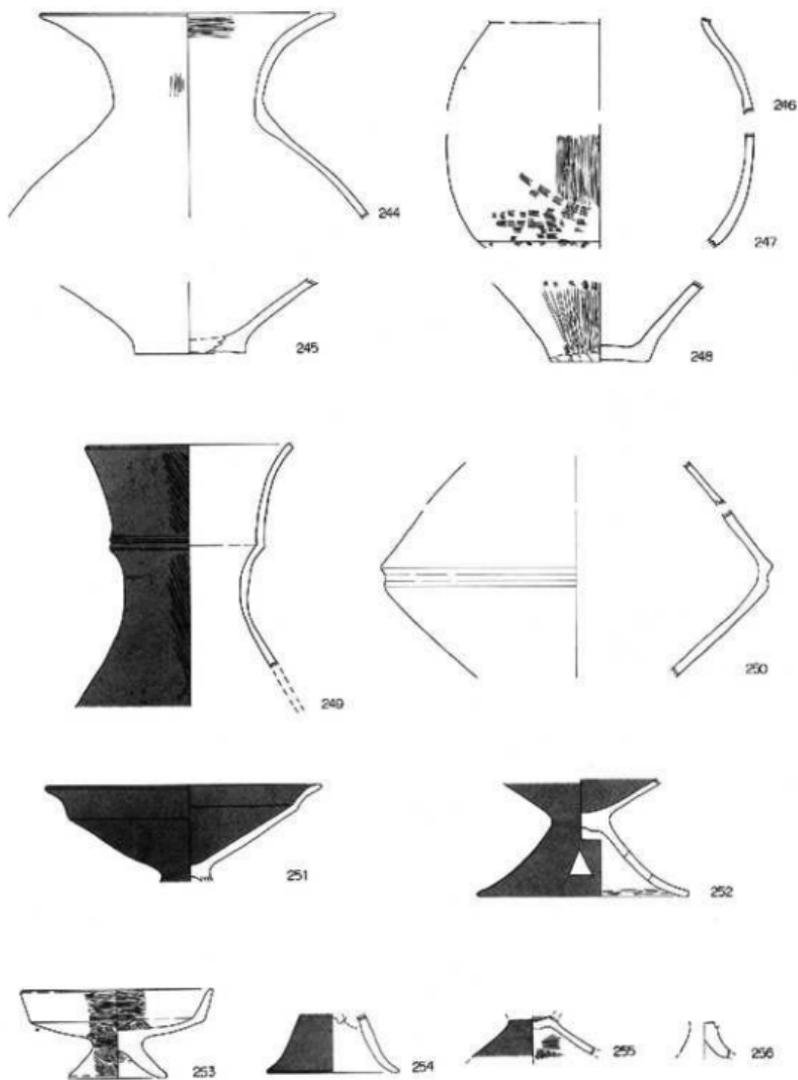
第86圖 20・21・25・29・31・36号漢跡出土土器



第87图 36·51号溝跡出土土器

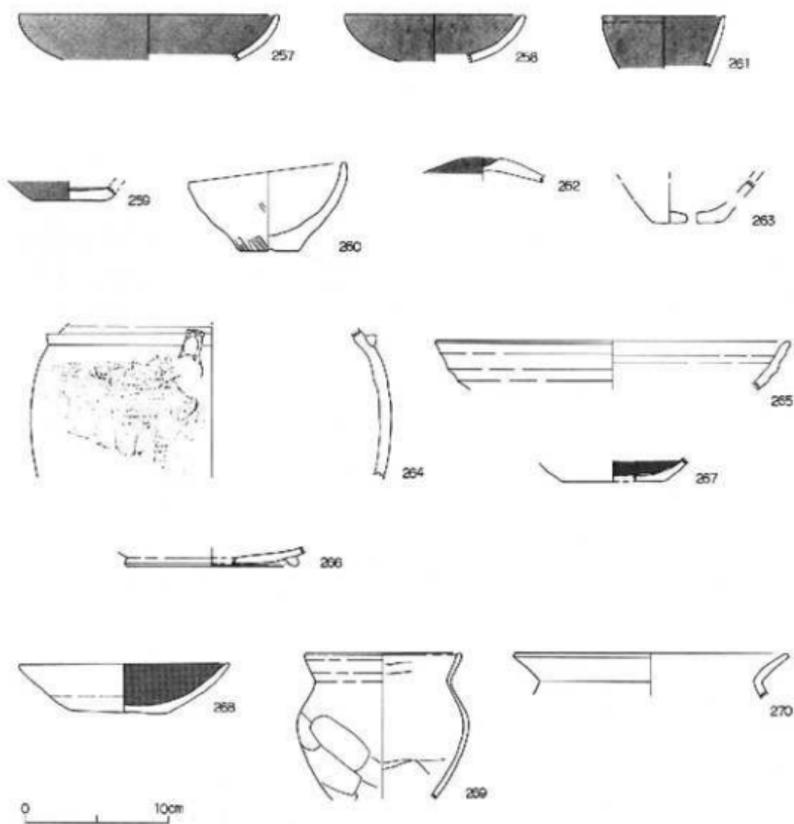


第88圖 51号溝跡出土土器

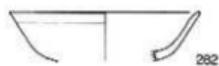
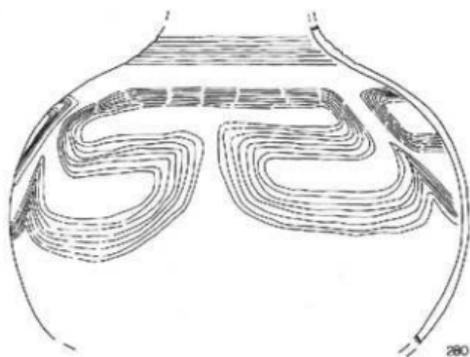


0 10cm

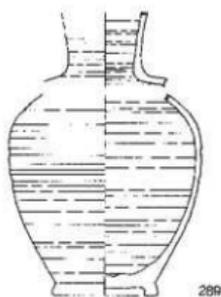
第89图 51号溝跡出土土器



第90圖 51・52・54・55号溝跡出土土器

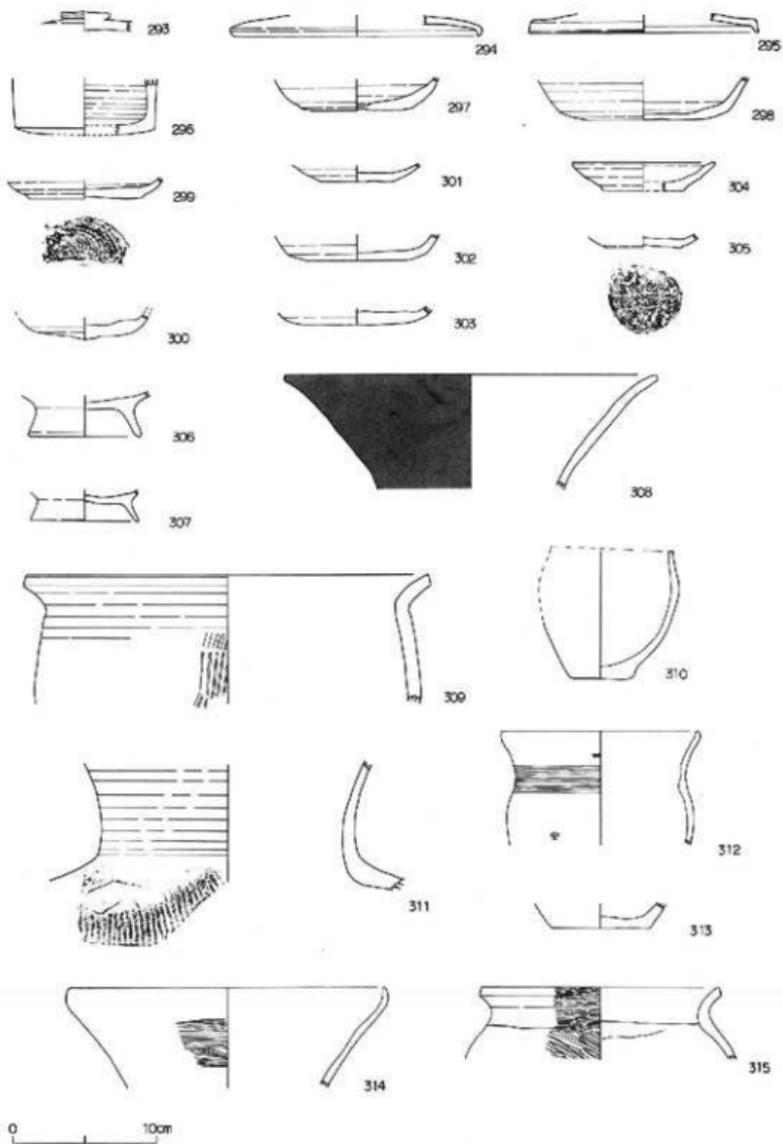


第91圖 土坑出土土器

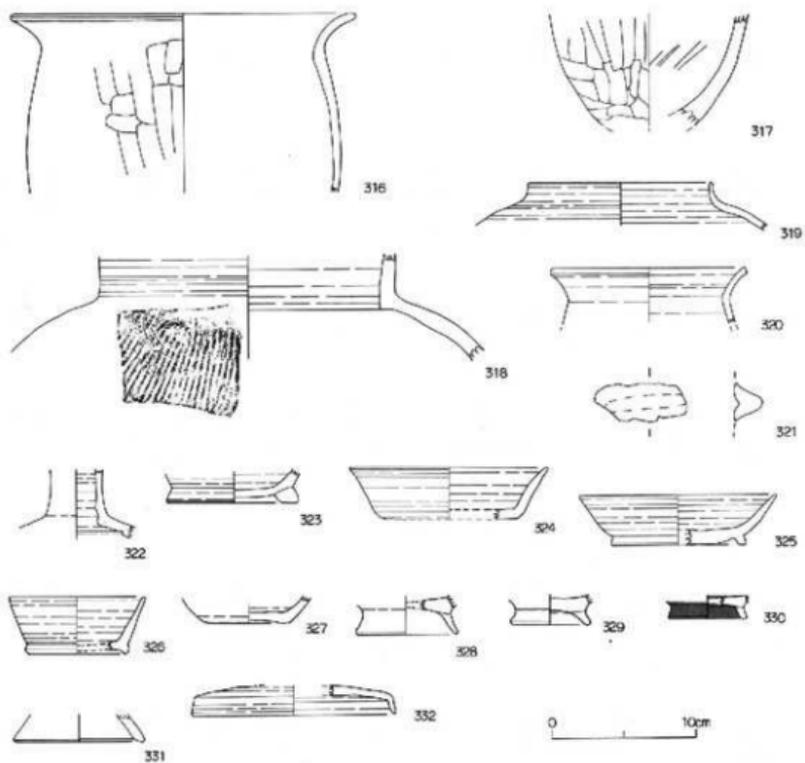


0 10cm

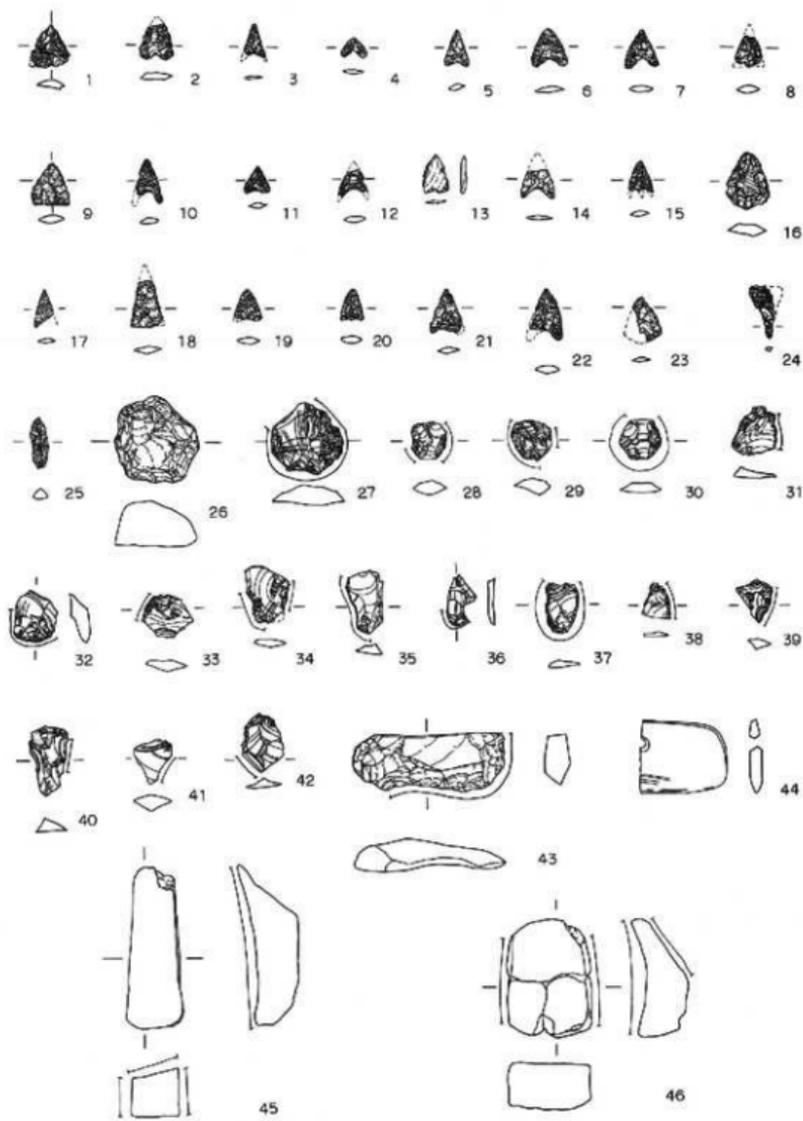
第92圖 土坑出土土器



第93圖 遺構外出土器

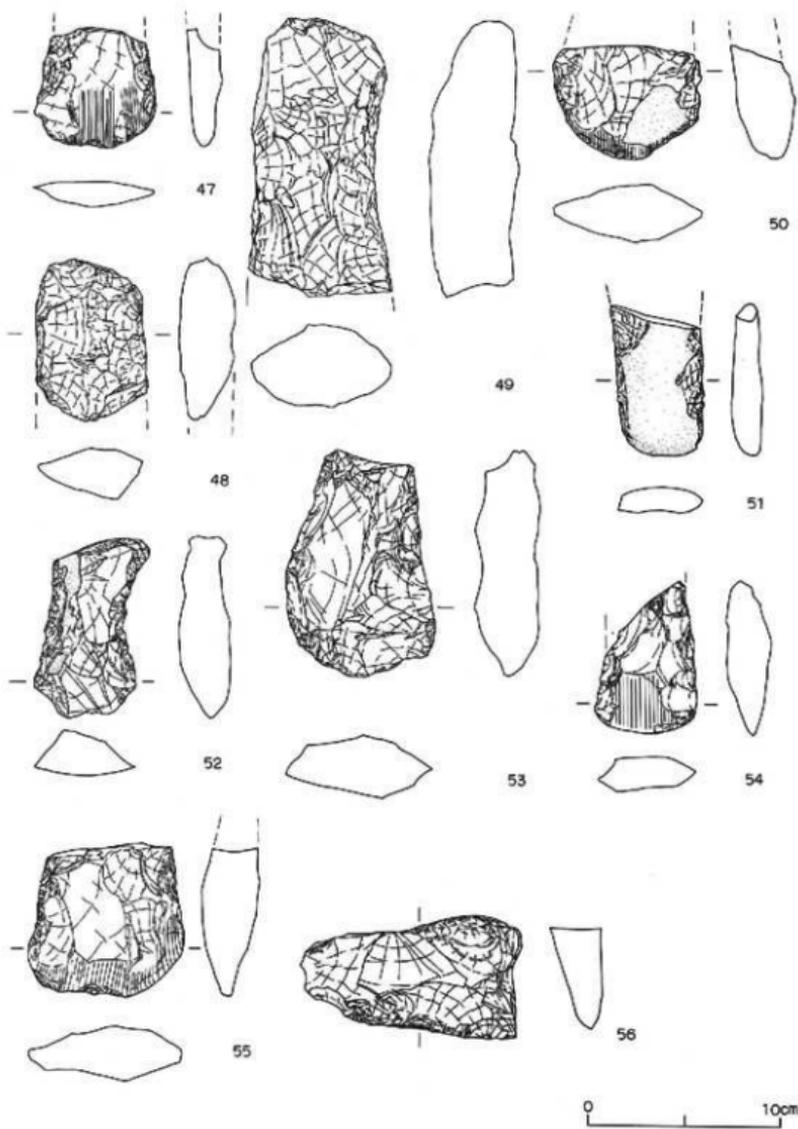


— 第94圖 濼橋外出土土器

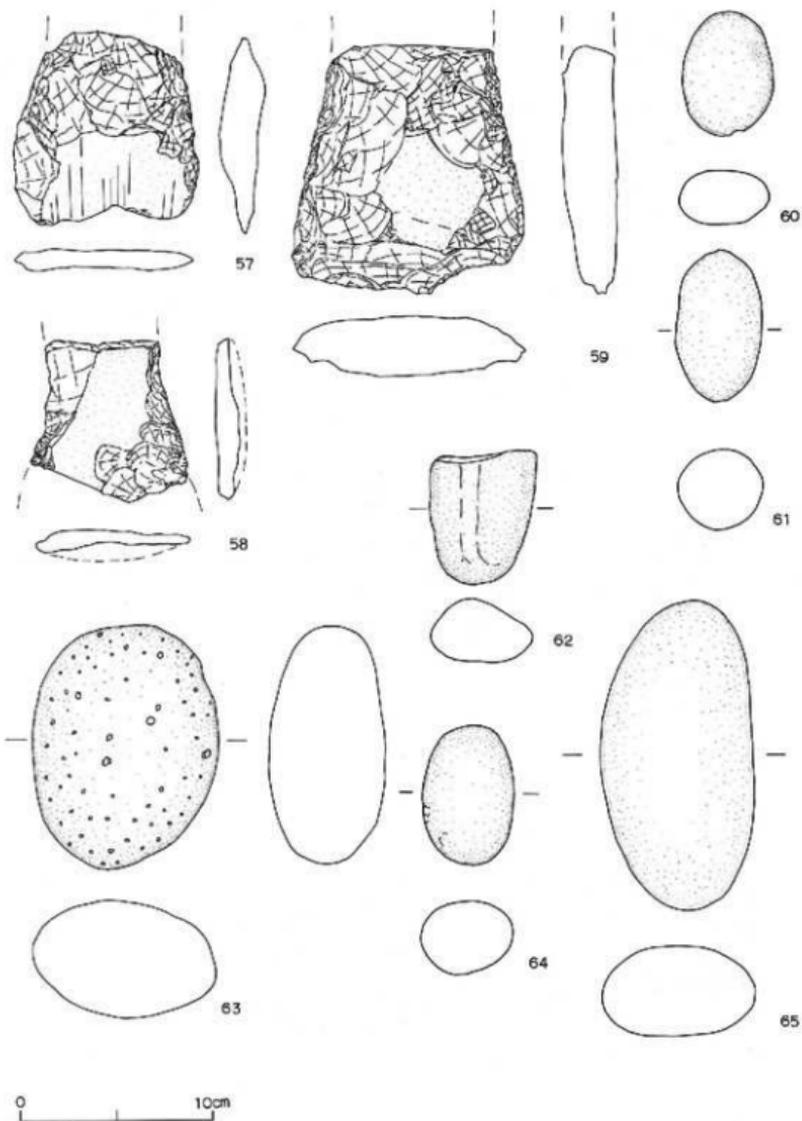


0 10cm

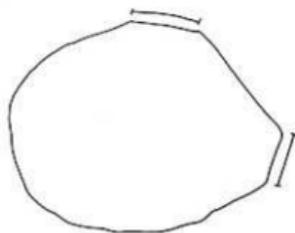
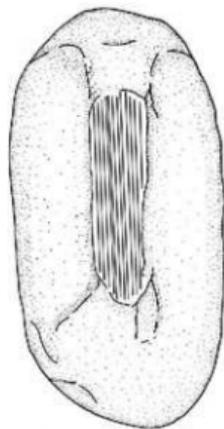
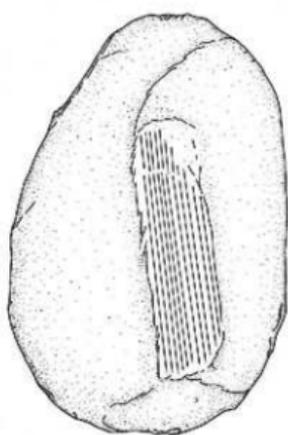
第95図 石器・その他



第96図 石器・その他



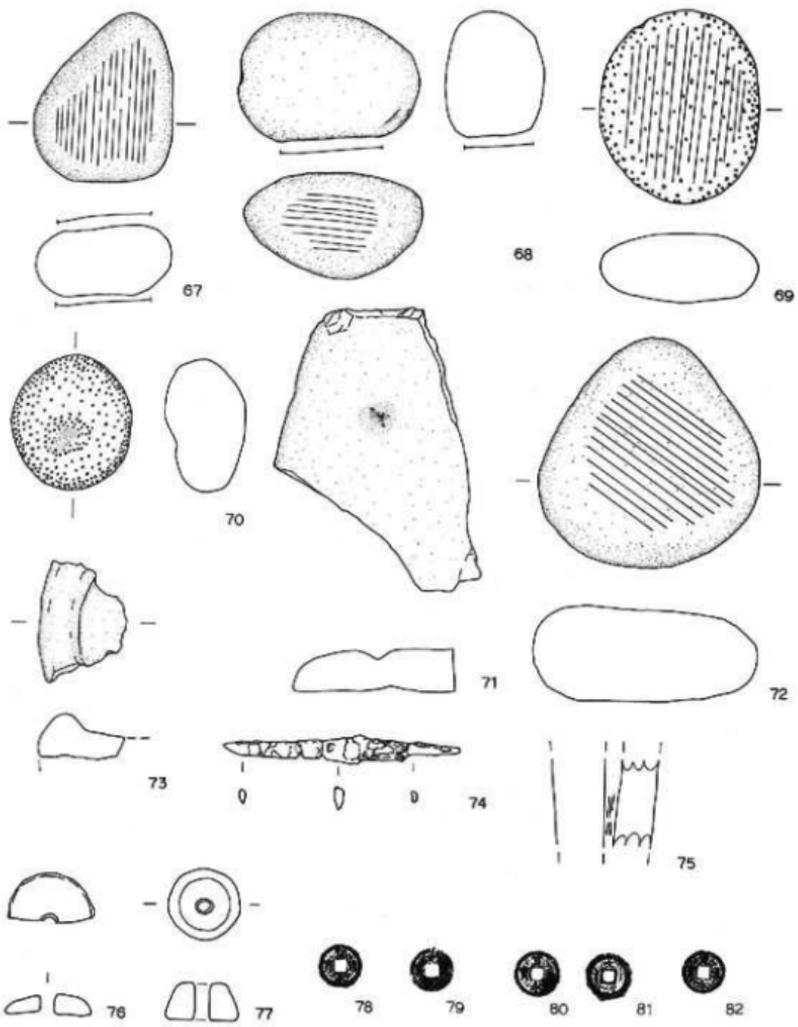
第97図 石器・その他



66

0 10cm

第98図 石器・その他



第99図 石器・その他

(1) 遺物一覧表

① 住居跡出土土器

N 0.	出土遺構	A器種 B器形 C文様 D製作技法の特徴	a色調 b胎土 c焼成	残率
1	SB-01	A型 C状文、胴部に垂状文 D器面施れており調整等不明	a灰褐色 b白色・茶色粒子含む c焼研	1/4
2	SB-01	A型	a外面茶褐色、内面黒褐色 b滑粒・茶色粒子含む c焼研	1/4
3	SB-01	A型 C状文、胴部に垂状文 D器面施れており調整等不明	a赤茶褐色 b滑粒含む c焼研	2/3
4	SB-01	A型 B胎土器 C状文、胴部に垂状文 D器面施れており調整等不明	a赤褐色 b滑粒・白色・茶色粒子含む cやや不良	
5	SB-01	A型 D器面施れており調整等不明	a赤茶褐色 b滑粒・白色・茶色粒子含む c焼研	底部
6	SB-01	A型	a赤茶褐色 b白色・茶色粒子含む c焼研	底部
7	SB-01	A型	a赤褐色 b滑粒・白色・茶色粒子含む c焼研	底部
8	SB-01	A型	a赤茶褐色 b白色・茶色粒子含む c焼研	底部
9	SB-01	A型 D器面施れており調整等不明	a黒褐色 b茶色粒子含む c焼研	1/6
10	SB-01	A型 D内外面に赤彩	a茶褐色 b滑粒・茶色粒子含む c焼研	1/4
11	SB-01	A型 D外面に赤彩	a茶褐色 b滑粒・白色粒子含む c焼研	1/3
12	SB-01	A胴体 D外面に赤彩	a茶褐色 b白色・茶色粒子含む c焼研	1/4
13	SB-02	A杯 D器面施れている。ロクロ調整	a白褐色 b茶色粒子含む c焼研	1/2
14	SB-02	A杯 B筒台付 D器面施れている。ロクロ調整	a白褐色 b小石・茶色粒子含む c焼研	底部
15	SB-03	A鉢 B片口 D内外面に赤彩	a黒褐色 b白色粒子含む c焼研	1/4
16	SB-06-07	A型 D器面施れている。内面に刷毛痕	a茶褐色 b滑粒・白色粒子含む c焼研	1/8
17	SB-06-07	A杯(頸部) Dロクロ調整	a黒褐色 b茶色粒子含む c焼研	1/4
18	SB-06-07	A型	a外面茶褐色・内面黒褐色 b白色粒子含む c焼研	破片
19	SB-06-07	A型? D器面施れており調整等不明	a茶褐色 b小石含む c焼研	1/5
20	SB-08-09	A型 D器面施れている。外面胴部ヘラケズリと思われる	a赤褐色 b白色粒子含む c焼研	1/3
21	SB-08-09	A型(頸部) Dロクロ調整、外面叩き目	a青灰色 b白色粒子含む c焼研	1/2
22	SB-08-09	A杯(頸部) Dロクロ調整、底部ヘラケズリ	a青灰色 c焼研	1/2
23	SB-08-09	A杯(頸部) D底部ヘラケズリ、器面施れている	a白褐色 b白色粒子含む c焼研	2/3
24	SB-10	A型 C状文、垂状文	a茶褐色 b滑粒・白色・茶色粒子含む c焼研	破片
25	SB-10	A型	a茶褐色 b滑粒・白色茶色粒子含む c焼研	1/2
26	SB-11	A筒(灰胎) Dロクロ調整	a白褐色 c焼研	1/5
27	SB-14~16	A筒 B筒台付 Dロクロ調整	a黒褐色 b白色粒子含む c焼研	1/4
28	SB-18	A型 B1線部がS字となる C頸部に光澤 D器面施れている。	a茶褐色 b白色・茶色粒子含む c焼研	2/3

29	SB-18	A重 D内外面に漆彩	a茶褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	1/5
30	SB-18	A重	a黒茶褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	1/2
31	SB-18	A黒研 D外面に漆彩	a白褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	
32	SB-18	A黒研 D外面に漆彩	a白褐色 b砂粒含む c良好	
33	SB-19	A重(剥離) D剥離跡が目	a青灰色 b白色粒子含む c良好	1/8
34	SB-19	A研(剥離) Dロクロ調整	a青灰色 b白色粒子含む c良好	1/4
35	SB-22	A重 B長刷 D研器ヘラケズリ	a赤褐色 b白色粒子含む c良好	1/4
36	SB-22	A重 B長刷 D研器ヘラケズリ、器面荒れている	a赤褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	1/8
37	SB-22	A重 D外研ヘラケズリ	a赤褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	1/2
38	SB-25	A重 B有嵌口縁	a黒褐色 b小石含む c良好	1/2
39	SB-25	A重 D器面荒れており嵌部等不明	a赤褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	1/2
40	SB-25	A重 B有嵌口縁 C外底漆彩	a白褐色 b小石・白色・茶色粒子含む cやや不良	1/3
41	SB-25	A重 C書状文、器部に書状文	a黒茶褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	1/4
42	SB-25	A重	a外底赤褐色、内面白褐色 b小石含む c良好	底部
43	SB-25	A重 D器面荒れている	a赤褐色 b砂粒含む c良好	1/2
44	SB-25	A研 D内外面漆彩	a茶褐色 b小石含む c良好	1/4
45	SB-25	A研 B片口 D内外面漆彩	a茶褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	完形
46	SB-25	A黒研 B口縁部等に黒取り、厚部に黒をもつ	a茶褐色 b小石・白色粒子含む c良好	1/4
47	SB-25	A黒研 D器面荒れている	a茶褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	
48	SB-25	A黒研 D内外面漆彩	a茶褐色 b白色粒子含む c良好	
49	SB-26~27	A研 B高台付 Dロクロ調整	a茶褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	1/3
50	SB-26~27	A研 B高台付 Dロクロ調整	a茶褐色 b白色粒子含む c良好	底部
51	SB-26~27	A重(剥離) Dロクロ調整	a黒灰色 b白色粒子含む c良好	2/3
52	SB-28	A研 B高台付 Dロクロ調整、器面荒れている	a赤褐色 b小石・白色粒子含む c良好	2/3
53	SB-28	A研 B高台付 Dロクロ調整、器面荒れている	a赤褐色 b小石・茶色粒子含む c良好	1/2
54	SB-28	A研 B高台付 Dロクロ調整、器面荒れている	a白褐色 b小石・茶色粒子含む c良好	底部
55	SB-28	A研 B高台付 Dロクロ調整、器面荒れている	a白褐色 b砂粒・茶色粒子含む c良好	
56	SB-28	A研 B高台付 Dロクロ調整、器面荒れている	a茶褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	底部
57	SB-28	A研 Dロクロ調整、器面荒れている、内面黒色処理	a外底赤褐色、内面白褐色 b茶色粒子含む c良好	底部
58	SB-28	A研 Dロクロ調整、底縁部等に黒取り、器面荒れている	a赤褐色 b小石・茶色粒子含む c良好	2/3
59	SB-28	A研 Dロクロ調整、底縁部等に黒取り、器面荒れている	a赤褐色 b小石・茶色粒子含む c良好	完形
60	SB-28	A研 Dロクロ調整、底縁部等に黒取り、器面荒れている	a白褐色 b砂粒・白色粒子含む c良好	完形
61	SB-28	A研 Dロクロ調整、底縁部等に黒取り、器面荒れている	a赤褐色 b小石・茶色粒子含む c良好	1/3

6 2	SB-28	A环 Dロクロ調整、底部回転糸取り、器面磨かれて	a白褐色 b小石・茶色粒子含む c良好	底部
6 3	SB-29	A型 D器面磨かれて	a白褐色 b小石・白色・茶色粒子含む c良好	1/4
6 4	SB-29	A环 D底部ヘラケズリ、内面黒色処理、器面磨かれて	a赤褐色 b小石・茶色粒子含む c良好	2/3
6 5	SB-29	A环(頸部) Dロクロ調整	a赤褐色 c良好	1/5
6 6	SB-31	A型(頸部) D外面叩き目	a青灰色 b小石含む c良好	破片

6 7	SB-35	A环 D外面胴部ヘラケズリ、内面ヘラミガキ・黒色処理	a外面赤褐色、内面黒褐色 b小石、砂粒含む c良好	1/4
6 8	SB-36	A型	a赤褐色 b砂粒含む c良好	1/8
6 9	SB-36	A型 D外面胴部ヘラケズリ	a赤茶褐色 c良好	1/8
7 0	SB-37	A环(頸部) Dロクロ調整	a青灰色 b白色粒子含む c良好	1/4
7 1	SB-38	A环(頸部) Dロクロ調整、底部ヘラケズリ	a外面白褐色、内面灰色 b白色粒子含む cやや不良	1/3
7 2	SB-39	A胴部 B胴部形状 D器面外面に叩き目	a白茶褐色 b小石混じる、砂粒 cやや不良	2/3
7 3	SB-39	A型 D胴部外面ヘラケズリ、口縁部ヘラケズリ、底縁部圧痕	a白褐色～赤褐色 b小石混じる c良好	2/3
7 4	SB-39	A环 Dロクロ調整、底部ヘラケズリ	a白茶褐色 b白色粒子含む cやや不良	2/3
7 5	SB-39	A环	a白褐色 b茶色粒子含む c良好	1/4
7 6	SB-39	A环 Dロクロ調整、底部回転糸取り	a白褐色 b茶色粒子含む c良好	1/2
7 7	SB-39	A环(頸部) B高台付 Dロクロ調整、底部回転ヘラケズリ	a青灰色 b白色粒子含む c良好	1/4
7 8	SB-40	A环 B胴部のみをもつ D外面ヘラケズリ、内面黒色処理	a黒色～赤褐色 b砂粒含む c良好	1/2
7 9	SB-41	A型 B胴部下部に残をもつ	a赤褐色 b茶色粒子含む c良好	
8 0	SB-41	A高年 B胴部に丸穴が4ヶ所にある D器面が磨かれており調整等不明	a黒灰色～赤褐色 b茶色粒子含む c良好	底部
8 1	SB-41	A环(頸部) D器面が磨かれており調整等不明	a黄灰色～赤灰色 b白色粒子含む c不良	1/4
8 2	SB-42	A环(頸部) B高台付 Dロクロ調整、底部回転ヘラケズリ	a黒灰色 b白色粒子含む c良好	2/3
8 3	SB-42	A环(頸部) Dロクロ調整、底部回転糸取りの後にヘラケズリ	a黒灰色 b白色粒子含む c良好	1/2
8 4	SB-42	A型 B砂粒土器 D器面が磨かれており調整等不明	a赤褐色 b砂粒含む cやや不良	
8 5	SB-43	A型 B砂粒土器 D器面が磨かれており調整等不明	a赤褐色 b茶色粒子含む c良好	
8 6	SB-43	A高年(頸部) D外面磨影	a茶褐色 b白色粒子含む c良好	
8 7	SB-43	A高台(受部) D外面磨影	a茶褐色 b白色粒子含む c良好	1/5
8 8	SB-44	A型 D器面磨かれており調整等不明	a外面黒茶褐色、内面赤褐色 b白色 茶色 粒子含む cやや不良	1/2
8 9	SB-44	A型	a黄褐色 b砂粒・茶色粒子含む c良好	1/4
9 0	SB-44	A型(頸部) Dロクロ調整、叩き目	a外面青赤灰色、内面赤灰色 b茶色・白色 粒子含む c良好	1/8
9 1	SB-44	A型 D外面胴部ヘラケズリ	a赤褐色 b砂粒含む c良好	1/4
9 2	SB-44	A型 B外面口目調整、内面ヘラケズリの後ヘラミガキ	a外面赤褐色、内面白褐色b小石含むc良好	1/4

9 3	SB-44	A雙 D内面ヘラミガキ	a褐色 b白色粒子含む c剥片	底部
9 4	SB-44	A横筋(剥離) B円筒彫形 D口部Dロケ口調整、彫器外面研磨	a黒灰色 b白色粒子含む c剥片	底部
9 5	SB-44	A長調整 D口部ホリ、彫器外面ヘラミガキ、内面ミガキ	a赤褐色 b褐色含む c剥片	1/2
9 6	SB-44	NO. 95と同一の土器・カマド内壁上		
9 7	SB-44	A長調整 D外面ヘラミガキ	a白灰色 b褐色含む c剥片	1/5
9 8	SB-44~46	A雙	a外周白褐色、内面赤褐色 b茶色粒子含む c剥片	底部
9 9	SB-44	A杯 Dロケ口調整、内面黒色処理	a白褐色 b褐色含む c剥片	底部
1 0 0	SB-44	A杯 D内面黒色処理	a茶褐色 b白色粒子含む c剥片	1/4
1 0 1	SB-44	A杯(剥離) Dロケ口調整	a青灰色 b小石含む c剥片	1/4
1 0 2	SB-44	Aふと(剥離) Dロケ口調整	a外周白灰色、内面赤褐色 b白色粒子含む cやや不具	2/3
1 0 3	SB-44~46	A杯 B嵌合付 Dロケ口調整、底部研磨ホリ	a褐色 b褐色含む c剥片	底部
1 0 4	SB-44~46	A杯 B底部研磨ホリ	a茶褐色 b茶色・白色粒子含む c剥片	底部
1 0 5	SB-44~45	A杯	a赤褐色 b白色粒子含む c剥片	
1 0 6	SB-44~46	A杯 D内面黒色処理	a外周白褐色 b褐色含む c剥片	1/4
1 0 7	SB-44~46	A杯 Dロケ口調整、内面黒色処理	a外周白褐色 b茶色粒子含む c剥片	1/4
1 0 8	SB-44~46	A杯(剥離) Dロケ口調整、底部研磨ホリ	a黒灰色 c剥片	1/3
1 0 9	SB-44~46	A杯(剥離) Dロケ口調整、底部ヘラミガキ	a青灰色 b白色粒子含む c剥片	4/5
1 1 0	SB-44~46	A杯(剥離) Dロケ口調整	a青灰色 b白色粒子含む c剥片	1/4
1 1 1	SB-44~46	A横(剥離) Dロケ口調整	a白灰色 c剥片	剥片
1 1 2	SB-44	A杯(剥離) Dロケ口調整、底部研磨ホリ	a外周黒灰色、内面白灰色 c剥片	1/4
1 1 3	SB-46	A雙	a茶褐色 b褐色含む c剥片	底部
1 1 4	SB-46	A杯 Dロケ口調整、内面黒色処理	a白褐色 b褐色含む c剥片	4/5
1 1 5	SB-46	A杯(剥離) B嵌合付 Dロケ口調整、底部ヘラミガキ	a灰白色 b白色粒子含む c剥片	1/4
1 1 6	SB-46	A雙 B嵌状文、胴部に横状文	a褐色 b白色粒子含む c剥片	
1 1 7	SB-46	A雙 B嵌状文、胴部に横状文	a黒茶褐色 b白色粒子含む c剥片	
1 1 8	SB-46	A雙 B嵌状文、胴部に横状文	a黒茶褐色 b白色粒子含む c剥片	1/2
1 1 9	SB-46	A雙 B嵌状文 C外周ヘラミガキ、内面ヘラミガキ	a茶褐色 b茶色粒子含む c剥片	2/3
1 2 0	SB-46	A両杯 B器底に三角透かし C外周彫形	a赤褐色 b白色粒子含む c剥片	1/5
1 2 1	SB-46	A杯 B口 D内面赤褐色	a茶褐色 b褐色含む c剥片	底部
1 2 2	SB-47	A雙 D外周ヘラミガキ	a黒褐色 b小石含む c剥片	1/8
1 2 3	SB-47	A杯(剥離) Dロケ口調整	a青灰色 b白色粒子含む c剥片	1/5
1 2 4	SB-50	A杯 D内面黒色処理、外周研削(すりおろし)不明	a灰白色 b白色・茶色粒子含む c剥片	底部

② 溝跡出土土器

1 2 5	SD-01	A変 B有段口縁	a黒褐色 b赤褐色 c灰所	破片
1 2 6	SD-01	A変 B有段口縁、口縁部に4本の契形隆	a外面黒褐色、内面白褐色 b赤褐色 c灰所	破片
1 2 7	SD-01	A変 B有段口縁、口縁部に4本の契形隆	a赤褐色 b赤色粒子含む c灰所	1/8
1 2 8	SD-01	A変 D器面が覆れており調整等不明	a赤褐色 b白色粒子含む c灰所	底部
1 2 9	SD-01	A変 D器面が覆れており調整等不明	a白褐色 b赤褐色 c灰所	1/4
1 3 0	SD-01	A変 C波状文、胴部に横状文 D器面が覆れている	a赤褐色 b白色粒子含む c灰所	1/6
1 3 1	SD-01	A変	a白褐色 b白色粒子含む c灰所	底部
1 3 2	SD-01	A胴 D外面赤彩	a赤褐色 b白色・茶色粒子含む c灰所	1/2
1 3 3	SD-01	A高杯 D器面が覆れている	a赤褐色 b赤褐色 c灰所	破片
1 3 4	SD-01	A高杯 C器底に三角透かし窓 D外面赤彩	a赤褐色 b白色・茶色粒子含む c灰所	1/4
1 3 5	SD-01	A高杯 D外面赤彩	a白褐色 b赤褐色・白色・茶色粒子含む c灰所	1/4
1 3 6	SD-01	A高杯	a赤褐色 b白色粒子含む c灰所	1/3
1 3 7	SD-01	A胴 D外面赤彩	a赤褐色 b白色粒子含む c灰所	1/2
1 3 8	SD-01	A胴 B有段口縁	a赤褐色 b小石含む c灰所	1/4
1 3 9	SD-04	A変 D器面が覆れており調整等不明	a赤褐色 b白色粒子含む c灰所	1/6
1 4 0	SD-04	A変 D器面が覆れており調整等不明	a赤褐色 b赤色粒子含む c灰所	1/4
1 4 1	SD-04	A変 B口縁部に高取リ D器面が覆れている	a赤褐色 b小石含む c灰所	破片
1 4 2	SD-04	A台付篋 B台付 D器面が覆れている	a赤褐色 b白色粒子含む c灰所	底部
1 4 3	SD-04	A変 BS字口縁 D外面くし状工具で波線、内面ハケナジ	a外面黒褐色、内面白褐色 b赤褐色・白色・ 茶色粒子含む c灰所	1/4
1 4 4	SD-04	A変	a白褐色 b小石・茶色粒子含む c灰所	1/5
1 4 5	SD-04	A変 D器面が覆れており調整等不明	a赤褐色 b白色粒子含む c灰所	1/2
1 4 6	SD-04	A変 C口縁部に契み目が施されている D器面が覆れている	a赤褐色 b白色・茶色粒子含む c灰所	1/5
1 4 7	SD-04	A変 D器面が覆れており調整等不明	a赤褐色 b赤褐色・白色・茶色粒子含む c灰所	1/4
1 4 8	SD-04	A変 D器面が覆れており調整等不明	a赤褐色 b赤褐色・白色・茶色粒子含む c灰所	1/2
1 4 9	SD-04	A変 C胴部に横状文 D器面が覆れている	a外面黒褐色、内面白褐色 b白色・茶色粒 子含む c灰所	1/4
1 5 0	SD-04	A変 D器面が覆れている(163と同一形状と思われる)	a外面黒褐色、内面白褐色 b小石・茶 色粒子含む c灰所	1/6
1 5 1	SD-04	A変 D器面が覆れており調整等不明	a赤褐色 b白色・茶色粒子含む c灰所	底部
1 5 2	SD-04	A変 C波状文	a外面黒褐色、内面白褐色 b赤褐色 c灰所	1/4
1 5 3	SD-04	A変	a黒褐色 b赤褐色 c灰所	1/4
1 5 4	SD-04	A変	a赤褐色 b赤色粒子含む c灰所	底部

155	SD-04	A白付雙 B白付	a赤褐色 b褐色・白色粒子含む c黒肝	
156	SD-04	A白付雙 B白付 D断面が荒れており調整等不明、外面に割れ目のハケ目	a赤褐色 b小石・白色粒子含む c黒肝	1/4
157	SD-04	A長形雙 D調整ヘラケズリ	a赤褐色 b白色粒子含む c黒肝	1/3
158	SD-04	A雙 B凹部部に溝取り D断面に強いハケ目	a赤褐色 b小石含む c黒肝	1/4
159	SD-04	A雙 C波状文 D断面荒れている	a白色 b小石含む c黒肝	1/4
160	SD-04	A雙 C波状文、断面に波状文 D断面が荒れている	a外周白色、内周赤褐色 b白色・茶色粒子含む c黒肝	1/4
161	SD-04	A重 CT字文 D断面荒れており調整等不明	a白色 b白色・茶色粒子含む c黒肝	
162	SD-04	A重	a茶褐色 b白色粒子含む c黒肝	1/6
163	SD-04	A雙 D断面荒れている	a外周茶褐色、内周灰色 b小石・白色粒子含む c黒肝	1/3
164	SD-04	A重 D断面荒れており調整等不明	a外周白色、内周茶褐色 b褐色・白色粒子含む c黒肝	底部
165	SD-04	A高坪 D調整に4ヶ所くらい通かし患	a赤褐色 b褐色・茶色粒子含む c黒肝	側部
166	SD-04	A高坪 D外面赤茶、内面不明	a茶褐色 b褐色・茶色粒子含む c黒肝	1/5
167	SD-04	A高坪 C内外面赤茶、D調整に刻み目	a茶褐色 b小石・白色粒子含む c黒肝	1/5
168	SD-04	A高坪 D調整に3ヶ所くらい通かし患	a茶褐色 b褐色・茶色粒子含む c黒肝	側部
169	SD-04	A高坪 D調整に3ヶ所くらい通かし患	a茶褐色 b褐色・茶色粒子含む c黒肝	側部
170	SD-04	A高坪 C内面赤茶 D調整に3ヶ所くらい通かし患	a赤褐色 b小石・白色粒子含む c黒肝	側部
171	SD-04	A高坪 D断面荒れている	a赤褐色 b白色粒子含む c黒肝	側部
172	SD-04	A高坪 D断面荒れている	a茶褐色 b褐色・白色粒子含む c黒肝	
173	SD-04	A高坪 D断面荒れている	a茶褐色 b褐色 c黒肝	1/2
174	SD-04	A高 C内外面赤茶	a茶褐色 b褐色・白色粒子含む c黒肝	1/6
175	SD-04	A高坪(特?) C断面荒れている	a茶褐色 b小石・白色粒子含む cやや不良	1/6
176	SD-04	A坪(側部) B高付付 D凹口調整、調整跡ヘラケズリ	a白色 c黒肝	1/2
177	SD-04	A高付 D調整に4ヶ所くらい通かし患	a茶褐色 b褐色含む c黒肝	
178	SD-04	A高付	a白色 b小石含む c黒肝	
179	SD-04	A高付 C調整跡、刻み目 D内面赤茶	a茶褐色 b白色粒子含む cやや不良	
180	SD-07	A高坪 D内外面赤茶	a茶褐色 b白色粒子含む c黒肝	1/4
181	SD-07	A高坪 D内面赤茶	a茶褐色 b白色粒子含む c黒肝	
182	SD-07	A高 D内外面赤茶	a茶褐色 b褐色・白色粒子含む c黒肝	1/8
183	SD-13	A雙 D断面荒れている	a茶褐色 b褐色・白色粒子含む c黒肝	1/2
184	SD-13	A高 D断面荒れている	a白色 b小石・白色・茶色粒子含む c黒肝	底部
185	SD-11	A坪 D凹口調整、調整跡赤茶切り	a白色 b褐色・白色粒子含む c黒肝	底部

186	SD-20	A環 Dロク口調整	a白褐色 b茶色粒子含む c黒肝	1/4
187	SD-20	A環 Dロク口調整	a白褐色 b茶色粒子含む c黒肝	1/4
188	SD-20	A環 Dロク口調整、底部回転糸切り	a赤褐色 b褐色含む c黒肝	底部
189	SD-21	A環(須藤) Dロク口調整	a黄灰色 b白色粒子含む c黒肝	1/4
190	SD-25	A環 Dロク口調整、内面黒色処理	a白褐色 b小石含む c黒肝	1/4
191	SD-29	A環 Dロク口調整	a赤褐色 b小石含む c中々不良	1/4
192	SD-29	A環(須藤) Dロク口調整、黒面が腐れている	a白灰色 b白色粒子含む c中々不良	1/4
193	SD-31	A環(須藤) Dロク口調整	a外周白灰色、内面一部赤褐色 b白色粒子含む c中々不良	1/4
194	SD-36	A台付費 B台付 D調整外周ハケラズ	a茶褐色 b砂粒・白色粒子含む c黒肝	
195	SD-36	A環 D外周斜状文、内面ヘラミガキ	a白褐色 b白色粒子含む c黒肝	1/5
196	SD-36	A環 D底部に黒け痕	a外周黒茶褐色、内面白褐色 b小石含む c黒肝	底部
197	SD-36	A環 D黒面が腐れており調整等不明	a褐色 b砂粒含む c黒肝	
198	SD-36	A高坪 B内外面赤帯	a褐色 b砂粒・茶色粒子含む c黒肝	1/2
199	SD-36	A環(須藤) Dロク口調整	a灰褐色 b茶色粒子含む c黒肝	1/5
200	SD-36	A環(須藤) B口輪部に一本の増線 Dロク口調整	a白灰色 b白色粒子含む c黒肝	1/2
201	SD-36	A環(須藤) Dロク口調整、調整外周に2本の増線、底部ヘラケズリ	a黄灰色 b白色粒子含む c黒肝	1/4
202	SD-36	A環(須藤) Dロク口調整、底部回転ヘラケズリ	a外周黒茶褐色、内面白褐色 b小石含む c黒肝	1/4
203	SD-36	A環(須藤) Dロク口調整、底部回転ヘラケズリ	a白灰色-褐色 b小石含む c不良	1/4
204	SD-36	A環(須藤) Dロク口調整	a黒灰色 b白色粒子含む c黒肝	1/4
205	SD-36	A環(須藤) Dロク口調整、底部ヘラケズリ	a黄灰色 b白色粒子含む c黒肝	1/2
206	SD-36	A環(須藤) Dロク口調整、底部ヘラケズリ	a赤灰色 b白色粒子含む c黒肝	1/3
207	SD-36	A環(須藤) Dロク口調整、底部ヘラケズリ	a外周黒灰色、内面赤灰色 b小石含む c黒肝	底部
208	SD-36	A環(須藤) Dロク口調整、底部ヘラケズリ	a白灰色 b白色粒子含む c黒肝	1/4
209	SD-36	A環(須藤) Dロク口調整、底部ヘラケズリ	a黄灰色 b白色粒子含む c黒肝	底部
210	SD-36	A環(須藤) Dロク口調整、回転糸切りの後ヘラケズリ	a黒灰色 b白色粒子含む c黒肝	1/2
211	SD-36	A環(須藤) B高台付 Dロク口調整、底部ヘラケズリ	a黒灰色 b白色粒子含む c黒肝	1/3
212	SD-36	A輪(山形) Dロク口調整	a白灰色	1/8
213	SD-36	A環(須藤) Dロク口調整、底部回転糸切り	a黒灰色 c不良	完形
214	SD-36	Aふた(須藤) Dロク口調整	a黄灰色 b白色粒子含む c黒肝	つまみ部
215	SD-36	Aふた(須藤) Dロク口調整	a外周黒赤灰色、内面赤灰色 b白色粒子含む c黒肝	つまみ部
216	SD-36	Aふた(須藤) Dロク口調整	a黒灰色 b白色粒子含む c黒肝	1/8
217	SD-51	A環 B口輪部に欠ける D内面ヘラミガキ	a白褐色 b砂粒粒子含む c黒肝	削片

2 1 8	SD-51	A変 C側に墨状文	a黒褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	1/8
2 1 9	SD-51	A変	a黒褐色 b白色粒子含む c良好	断片
2 2 0	SD-51	A変 C状文	a黒色 b白色粒子含む c良好	1/4
2 2 1	SD-51	A変 B1崩壊受口状 C状文 D外面ヘラミガキ	a外面黒褐色、外面赤褐色 b白色粒子含む c良好	1/4
2 2 2	SD-51	A変 B側に墨状文 D内外面赤彩	A黒褐色 b褐色含む c良好	1/4
2 2 3	SD-51	A変 BS字変 D	a黒褐色 b褐色含む c良好	断片
2 2 4	SD-51	A変 BS字変 D外外面への調整	a黒褐色 b褐色含む c良好	1/4
2 2 5	SD-51	A変 BS字変 D崩壊外面への調整	a黒褐色 b白色含む c良好	1/4
2 2 6	SD-51	A変 BS字変 C1崩壊に似た文 D崩壊外面への調整	a黒褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	1/4
2 2 7	SD-51	A変 BS字変 D崩壊外面への調整	a黒褐色 b褐色含む c良好	1/4
2 2 8	SD-51	A変 BS字変 D崩壊外面への調整	a黒褐色 b褐色含む c良好	1/8
2 2 9	SD-51	A変 B1崩壊端に面取り D断面が荒れており調整等不明	a茶褐色 b褐色含む c良好	1/4
2 3 0	SD-51	A変	a外面黒褐色、内面赤褐色 b白色粒子含む c良好	底面
2 3 1	SD-51	A変 B1崩壊端部 D断面が荒れており調整等不明	a茶褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	1/2
2 3 2	SD-51	A変 D断面が荒れており調整等不明	a白色 b白色・茶色粒子含む c良好	1/4
2 3 3	SD-51	A変 B1崩壊受口状となる D断面が荒れており調整等不明	a黒褐色 b白色・茶色粒子含む c良好	1/4
2 3 4	SD-51	A変 D外面赤彩	a褐色 b褐色含む c良好	1/2
2 3 5	SD-51	A変 D外面ヘラミガキ	a黒褐色 b褐色含む c良好	1/2
2 3 6	SD-51	NO. 235と同一		底面
2 3 7	SD-51	A変 C側にT字文 D断面が荒れており調整等不明	a茶褐色～白色 b褐色含む c良好	
2 3 8	SD-51	A変 C側にT字文 D外面ヘラミガキ	a茶褐色 b白色粒子含む c良好	1/2
2 3 9	SD-51	A変 C側にT字文 D外面ヘラミガキ	a茶褐色 b白色粒子含む c良好	1/4
2 4 0	SD-51	A変 D断面が荒れており調整等不明	a黒褐色 b白色粒子含む c良好	1/5
2 4 1	SD-51	A変 D断面が荒れており調整等不明	a茶褐色 b褐色含む c良好	2/3
2 4 2	SD-51	NO. 241・243と同一と思われる		断片
2 4 3	SD-51	NO. 241・242と同一と思われる		底面
2 4 4	SD-51	A変 D外面ヘラミガキ	a茶褐色 b褐色含む c良好	1/2
2 4 5	SD-51	A変 D断面が荒れており調整等不明	a茶褐色 b褐色含む c良好	底面
2 4 6	SD-51	A変 B1崩壊端部 D外面ヘラミガキ、ハケ目	a褐色 c良好	
2 4 7	SD-51	NO. 246・248と同一		
2 4 8	SD-51	NO. 246・247と同一		
2 4 9	SD-51	A変 B1崩壊中央に黒帯 D外面ヘラミガキ、赤彩	a茶褐色～黒褐色 b茶色粒子含む c良好	
2 5 0	SD-51	A NO. 249と同一と思われる B1崩壊計算盤玉状、黒帯 D外面ヘラミガキ	a茶褐色～黒褐色 b茶色粒子含む c良好	1/2

2 5 1	SD-51	A高坏 D内外面赤彩	a赤褐色 b赤褐色含む c黒灰	胴部
2 5 2	SD-51	A高坏 B胴部に4つの三角透かし窓 D内外面赤彩	a赤褐色 b赤褐色含む c黒灰	胴部
2 5 3	SD-51	A高坏 D内外面ヘラミガキ	a赤褐色 b灰白色-黒褐色 c赤褐色含む c黒灰	胴部
2 5 4	SD-51	A高坏 D外面赤彩	a赤褐色 b赤褐色・白色粒子含む c黒灰	1/4
2 5 5	SD-51	A高坏 D外面赤彩	a赤褐色 b白色粒子含む c黒灰	
2 5 6	SD-51	A高坏	a赤褐色 b赤褐色含む c黒灰	胴部
2 5 7	SD-51	A皿? D内外面赤彩	a赤褐色 b赤褐色含む c黒灰	1/4
2 5 8	SD-51	A高坏 D内外面赤彩	a赤褐色 b赤褐色含む c黒灰	1/4
2 5 9	SD-51	A鉢 D内外面赤彩	a赤褐色 b赤褐色含む c黒灰	底面
2 6 0	SD-51	A鉢 D外面ヘラミガキ	a白褐色 b石灰含む c黒灰	2/3
2 6 1	SD-51	A高坏 D内外面赤彩	a赤褐色 b赤褐色含む c黒灰	1/4
2 6 2	SD-51	A皿? D外面赤彩	a赤褐色 b赤褐色含む c黒灰	
2 6 3	SD-51	Aこしき D器面が荒れており調整等不明	a灰白色・赤褐色、内面赤褐色 b赤褐色・赤褐色含む c黒灰	底面
2 6 4	SD-51	A四耳壺(蓋付) Dロクロ調整	a赤褐色 b赤褐色含む c黒灰	1/4
2 6 5	SD-51	A杯 Dロクロ調整	a赤褐色 b赤褐色含む c黒灰	1/8
2 6 6	SD-51	A杯(別産) B高台付 Dロクロ調整、底面黒褐色ヘラミガキ	a赤褐色 b赤褐色含む c黒灰	1/4
2 6 7	SD-51	A杯 D内面黒色処理、底面ヘラミガキ、内面にクレーノ状のもの付着	a赤褐色 b赤褐色含む c黒灰	底面
2 6 8	SD-52	A杯 Dロクロ調整、内面黒色処理	a白褐色 b赤褐色含む c黒灰	4/5
2 6 9	SD-54	A壺 B胴部ヘラミガキ	a赤褐色 b赤褐色含む c黒灰	1/4
2 7 0	SD-55	A壺 B口部磨面取り D器面が荒れており調整等不明	a赤褐色 b赤褐色含む c黒灰	1/5

③ 土坑出土土器

2 7 1	SK-04	A高坏 D外面赤彩	a赤褐色 b赤褐色・赤褐色含む c黒灰	1/2
2 7 2	SK-22	A壺 B有段 D外面赤彩	a赤褐色 b赤褐色・白色粒子含む c黒灰	胴部
2 7 3	SK-30	A杯 Dロクロ調整、器面が荒れている	a白褐色 b赤褐色・赤褐色含む c黒灰	2/3
2 7 4	SK-36	A杯 Dロクロ調整、底面黒褐色剥り、器面が荒れている	a白褐色 b赤褐色・赤褐色含む c黒灰	完形
2 7 5	SK-36	A杯 Dロクロ調整、底面黒褐色剥り	a赤褐色 b赤褐色含む c黒灰	1/2
2 7 6	SK-36	A杯 Dロクロ調整、底面黒褐色剥り	a赤褐色 b赤褐色・赤褐色含む c黒灰	2/3
2 7 7	SK-36	A長頸壺 B高台付 Dロクロ調整、全体に黒色処理	a赤褐色 b赤褐色・黒褐色含む c黒灰	完形
2 7 8	SK-103	A杯(別産) Dロクロ調整	a赤褐色 b赤褐色含む c黒灰	1/5
2 7 9	SK-112	A高坏(ミニチュア) D手欠丸	a赤褐色 b赤褐色含む c黒灰	胴部
2 8 0	SK-115	A壺 B胴部の丸みが強い C4本の沈着にて直文	a赤褐色 b赤褐色・赤褐色含む c黒灰	1/3

281	SK-116	A底面塗 B側面が深い、着台付 Dロクロ調整	a黒灰色 b白色粒子含む c鉄研	完形
282	SK-162	A年(須藤) Dロクロ調整	a黒灰色 b白色粒子含む c不良	1/4
283	SK-163	A年(須藤) Dロクロ調整	a黒灰色 b白色粒子含む c鉄研	1/8
284	SK-168	A底面塗 D側面外面にヘラケズリ、内面ヘラケズ	a黒灰色 b白色粒子含む c鉄研	1/4
285	SK-169	A底面塗 D側面外面にヘラケズ	a黒灰色 b白色粒子含む c鉄研	1/8
286	SK-169	A底 D底面が荒れており調整等不明	a黒灰色 c鉄研	1/8
287	SK-175	A?(須藤) D底面に凹線ヘラケズリ	a黒灰色 b白色粒子含む c鉄研	1/4
288	SK-176	A底(須藤) B丸い着台付 Dロクロ調整、底面凹線未研り	a白灰色 b黒色 c鉄研	1/4
289	SK-176	A底面塗(須藤) B着台付 Dロクロ調整、底面凹線未研り	a黒灰色 b白色粒子含む c鉄研	
290	SK-179	A年(須藤) Dロクロ調整	a黒灰色 b白色粒子含む c鉄研	1/4
291	SK-180	A年(須藤) Dロクロ調整、底面ヘラケズリ	a黒灰色 b白色粒子含む c鉄研	1/5
292	SK-181	A底 D底面が荒れており調整等不明	a白灰色 b小石含む c鉄研	1/3

④ 遺構外出土土器

293		Aふた Dロクロ調整	a白灰色 b白色粒子含む c鉄研	つばみ器
294		Aふた Dロクロ調整	a白灰色 b白色粒子含む c鉄研	1/6
295		Aふた Dロクロ調整	a黒灰色 b白色粒子含む c鉄研	1/8
296		A(須藤) Dロクロ調整	a黒灰色 b鉄研	1/6
297		A年(須藤) Dロクロ調整、底面ヘラケズリ	a黒灰色 b白色粒子含む c鉄研	1/2
298		A年 Dロクロ調整、底面ヘラケズリ	a黒灰色 b白色粒子含む c鉄研	1/2
299		A年(須藤) Dロクロ調整、底面凹線ヘラケズリ	a黒灰色 b白色粒子含む c鉄研	底感
300		A年(須藤) Dロクロ調整、底面ヘラケズリ	a白灰色 b鉄研	2/3
301		A年(須藤) Dロクロ調整、底面凹線未研り	a白灰色 b白色粒子含む c鉄研	底感
302		A年(須藤) Dロクロ調整、底面ヘラケズリ	a黒灰色 b白色粒子含む c鉄研	1/5
303		A年(須藤) Dロクロ調整、底面凹線ヘラケズリ	a黒灰色 b白色粒子含む c鉄研	2/3
304		A年 Dロクロ調整	a白灰色 b白色粒子含む c鉄研	1/4
305		A年 Dロクロ調整、底面凹線未研り	a黒灰色 b白色粒子含む c鉄研	底感
306		A年 B着台付 D底面が荒れており調整等不明	a白灰色 b白色粒子含む c鉄研	2/3
307		A年 B着台付 D底面が荒れており調整等不明	a黒灰色 b白色粒子含む c鉄研	底感
308		A底	a黒色 b小石・茶色粒子含む c鉄研	1/6
309		A底(須藤) Dロクロ調整、外面叩き目	a黒灰色 b白色粒子含む c鉄研	1/8
310		A底 D底面が荒れており調整等不明、手づくね	a黒灰色 b白色粒子含む c鉄研	1/2
311		A底(須藤) Dロクロ調整、外面叩き目	a黒灰色 c鉄研	1/4
312		A底 B表状文、裏状文	a黒色 b赤・茶色粒子含む c鉄研	1/3

3 1 3		A変	a赤褐色 b赤粒含む c良好	底部
3 1 4		A変 B口縁内側 D部凹み深い、唇毛濃	a赤褐色 b白色・茶色粒を含む c良好	1/8
3 1 5		A変 B口縁部端に面取り	a茶褐色 b小石含む c良好	1/6
3 1 6		A変 D外歯ヘラケズリ	a褐色 b茶色粒を含む c良好	1/6
3 1 7		A長調整 B長削 D外歯ヘラケズリ	a茶褐色 b赤粒含む c良好	2/3
3 1 8		A変(須直) B唇部が直立 D外歯部が叩き目	a赤灰色 b白色粒を含む c良好	1/4
3 1 9		A短調整(須直) B唇部が鋭い Dロクロ調整、一部に黒粒	a灰白色 c良好	順片
3 2 0		A変?(須直) B唇部が鋭い Dロクロ調整、唇部がかかっている	a青灰色 c良好	1/3
3 2 1		A調整	a濃茶褐色 b赤粒含む c良好	つば
3 2 2		A長調整(須直) Dロクロ調整、一部に黒粒	a青灰色 c良好	唇部
3 2 3		A変(須直) B台付 Dロクロ調整、底部に未削りの段台部をつける、部分的に黒粒	a灰白色 c良好	底部
3 2 4		A平(須直) Dロクロ調整、底部ヘラケズリ	a青灰色 b褐色粒を含む c良好	1/4
3 2 5		A平(須直) B高台付 Dロクロ調整、底部ヘラケズリ	a青灰白色 b白色・黒色粒を含む c良好	1/4
3 2 6		A平(須直) B高台付、底部から口縁部へと直線的に立ち上がっている Dロクロ調整	a青灰色 b褐色粒を含む c良好	1/8
3 2 7		A平 Dロクロ調整、底部に未削り	a赤褐色 b赤粒含む c良好	底部
3 2 8		A平 B高台付 Dロクロ調整	a赤褐色 b赤粒含む c良好	底部
3 2 9		A平 B高台付 Dロクロ調整	a赤褐色 b赤粒含む c良好	底部
3 3 0		A平 B高台付、内外歯黒色処理 Dロクロ調整	a褐色(内部灰白色) b赤粒含む c良好	底部
3 3 1		A変? B台部	a赤褐色 b赤粒含む c良好	1/4
3 3 2		Aふと(須直) Dロクロ調整	a青灰色 b白色粒を含む c良好	1/8

⑤ 石器・その他

NO.	出土遺構名	名 称	石 材・材 質	特 徴
1	遺構外	石 鏃	黒耀石	
2	遺構外	石 鏃	黒耀石	
3	遺構外	石 鏃	チャート	
4	遺構外	石 鏃	黒耀石	
5	遺構外	石 鏃	チャート	
6	遺構外	石 鏃	黒耀石	
7	遺構外	石 鏃	黒耀石	
8	遺構外	石 鏃	黒耀石	
9	SB-01	石 鏃	泥岩	
10	SB-02	石 鏃	黒耀石	
11	SB-08-09	石 鏃	黒耀石	
12	SB-08-09	石 鏃	黒耀石	
13	SB-29	石 鏃	チャート	
14	SB-37	石 鏃	チャート	
15	SB-44	石 鏃	黒耀石	
16	SB-50	石 鏃	黒耀石	
17	SD-20	石 鏃	チャート	
18	SD-20	石 鏃	チャート	
19	遺構外	石 鏃	チャート	
20	SD-28	石 鏃	黒耀石	
21	SD-50	石 鏃	黒耀石	
22	SD-50	石 鏃	黒耀石	
23	SD-51	石 鏃	チャート	
24	遺構外	石 錐	黒耀石	
25	SB-46	石 錐	黒耀石	
26	SB-08-09	搔 器	泥岩	
27	SD-01	搔 器	黒耀石	
28	SD-36	搔 器	黒耀石	
29	SD-36	搔 器	黒耀石	
30	SK-163	搔 器	黒耀石	
31	遺構外	刃のある剥片	黒耀石	
32	SB-08-09	刃のある剥片	黒耀石	
33	SB-46	刃のある剥片	黒耀石	

34	SB-25	刃のある剥片	黒耀石	
35	SD-04	刃のある剥片	黒耀石	
36	SD-04	刃のある剥片	黒耀石	
37	SD-51	搔器	黒耀石	
38	SK-144	使用痕のある剥片	黒耀石	
39	SK-163	使用痕のある剥片	黒耀石	
40	SB-03-05	使用痕のある剥片	黒耀石	
41	SB-29	使用痕のある剥片	黒耀石	
42	SD-04	刃のある剥片	黒耀石	
43	遺構外	横刃型石器	泥岩	
44	SD-07	石包丁	珪質泥岩	形態は長方形である。両刃で 穴が一つ空いている。
45	SK-22	砥石	珪質泥岩	
46	SB-36	砥石	泥岩	
47	SD-04	石斧	粘板岩	
48	SD-36	石斧	泥岩	
49	遺構外	石斧	泥岩	
50	SB-44~46	石斧	泥岩	
51	SB-08~09	石斧	変質泥岩	
52	SB-08~09	石斧	珪質泥岩	
53	SB-19	石斧	珪質泥岩	
54	SD-01	石斧	泥岩	
55	SD-04	石斧	珪質泥岩	
56	SB-06~07	横刃型石器	珪質泥岩	
57	遺構外	石鍬	泥岩	
58	SD-53	石鍬	泥岩	
59	SB-48	石鍬	泥岩	
60	SB-01	磨石	珪岩	
61	SD-03	磨石	泥岩	
62	SB-08~09	叩き石	珪質泥岩	
63	SB-08~09	磨石	輝石安山岩	
64	SB-44	磨石	砂岩	
65	SK-171	磨石	砂岩	
66	SB-08~09	砥石	砂岩	
67	SB-08~09	磨石	砂岩	

68	SD-03	磨石	輝石安山岩	
69	SD-03	磨石	安山岩	
70	SB-08-09	凹石	変質泥岩	
71	SD-01	凹石	砂質泥岩	
72	SD-04	磨石	砂岩	
73	遺構外	石皿	(泥岩)	
74	SB-44	刀子	鉄	柄に木質部が残る
75	遺構外	羽口	土	
76	遺構外	紡水車	土	
77	遺構外	紡水車	土	
78	寸白様	古銭	銅	「寛永通宝」
79	寸白様	古銭	銅	「寛永通宝」
80	遺構外	古銭	銅	「寛永通宝」
81	SD-04	古銭	鉄	「寛永通宝」

遺跡名	住居跡名	図版番号
上平遺跡	1号住居跡	第100図(1~15)・第101図(16~28)
	2号住居跡	第101図(29~35)
金井裏遺跡	1号住居跡	第101図(36~39)・第102図(40~49)
	2号住居跡	第102図(50~61)
和手遺跡	4号住居跡	第103図(62~72)・第104図(73~85)
	7号住居跡	第105図(105~110)
	9号住居跡	第105図(100~104)
	11号住居跡	第104図(86~92)・第105図(93~99)

第四節 まとめ

〈弥生時代後期～古墳時代初頭〉

当該期の上小地方の編年は明確になっているとは言い難く、今後の精密な研究に期待されるところである。ここでは、大まかな土器の変遷を認識することにより弥生時代後期箱清水式期の宮の前遺跡の状況をまとめてみたい。

上小地方の箱清水式期は、①吉田式期の要素を残した段階の東部町城の前遺跡Y-3号住と同高呂添遺跡1号住があげられる。②箱清水式土器の確立段階として上田市岳の鼻遺跡21, 64号住・東部町東五町遺跡3号住・同西五町遺跡2号住などがあげられる。③甕、壺などの胴部の丸味が強いもの、甕の胴部の肩が張るものが出現する段階として上田市和手遺跡4, 7, 9, 11号住(第103・104・105図)23号住・同琵琶塚遺跡62号住・同大道下遺跡12, 20, 40号住・同岳の鼻遺跡26, 403, 410, 405, 420, 435号住などがあげられる。④甕などの胴部の球形化が進み、外来系の土器が共伴する段階として上田市和手遺跡10号住・同岳の鼻遺跡43, 402, 415, 430, 434号住・東部町石原田遺跡7, 13号住・同東五町遺跡24号住・同たたら堂遺跡4号住などがあげられる。弥生時代後期終末と考える。⑤甕の胴部が球形となる。器台が出現してくる段階として上田市金井裏遺跡1, 2号住(第101, 102図)・同上平遺跡1, 2号住(第100図)・同林之郷遺跡27号住・同琵琶塚遺跡15号住・同岳の鼻遺跡416号住・同西光坊遺跡8号住などをあげることができる。古墳時代初頭に位置付けられる。

宮の前遺跡の1号住は③の段階のものと思われる。18, 25, 46号住は④の段階と思われる。すなわち、弥生時代後期終末を中心とした集落であると思われる。このことは、清跡等からの出土遺物によっても示唆される。

宮の前遺跡は外来系土器の目立つ遺跡であるが、その中でも25号住は外来系の土器をセットの中心にした住居跡であり、特異な状況である。このことは、琵琶塚遺跡15号住、岳の鼻遺跡45, 415号住など他の遺跡についてもみることができる。この様に在地系土器を圧倒する住居跡が出現することから、外来系土器の状況を検証してみたい。

当該期の清跡としては1・4・51号清跡と続く河川跡があり、箱清水系の土器と共に外来系の土器が多く廃棄されており注目される。この河川跡を中心に見ていきたい。

東海系の土器として目立つのはS字甕である。赤塚次郎氏の分類(「廻間遺跡」1990)によると、226は口縁部に刺突文が施されている。A類に分類されよう。143・224・227は外面にヨコハケが施され、内面の頸部屈曲部にもハケ目が施されておりB類に分類されよう。223はC類と思われる。225・228はヨコハケが無くなっている段階でありD類に分類されよう。また、18号住の28はC類と思われる。くの字甕として231・232・233があげられる。261は赤彩されているがヒサゴ壺と思われる。177は器台である。

北陸系の土器としては甕・壺・高坏・器台・鉢などが確認された。甕には有段口縁で外面に擬凹線を施すもの(126・127)、有段口縁でヨコナデを施すもの(38・125)などがある。また、口縁部端を面取りするもの(39・141・147・158・229・315)もある。壺には広口壺(144)がある。高坏には小型高坏(253)と口縁部端が面取りされているもの(133)がある。その他、鉢(138)・装飾器台(179)や台付装飾壺(249・250)と思われる土器もある。249と250の台付装飾壺は同一個体と考えられるが249のみに赤彩が認められた。これらの土器のほとんどは、月影式期に属すると思われるが、141・144は法仏式期に逆上る可能性がある。

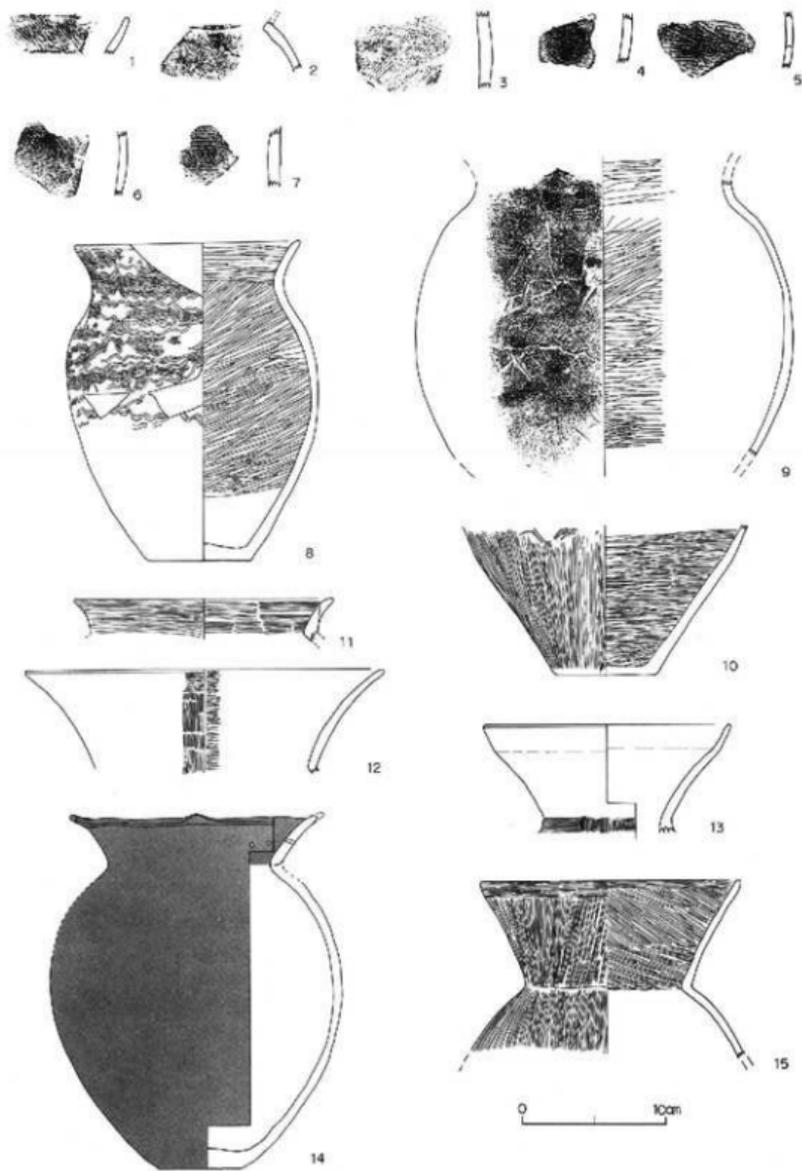
外来系の土器は、1, 4, 50号清跡などの河川跡からは在地の土器である箱清水式土器と混在して出土している。特に50号清跡では箱清水式土器とS字甕、北陸系の土器が集中して出土している。住居跡では、東海系の土器と北陸系のものとは住居跡内の土器のセットとしての位置に差があるようである。つまり、①箱清水式土器のセットの一部として東海系の土器を出土する住居跡と②北陸系土器を土器セットの中心にしており箱清水式土器などはその一部としている住居跡とに分けることができる。このことは上田市琵琶塚遺跡や同岳の鼻遺跡でも同様である。この差違は人の移動の質的な差によるものと考えても良いのではなかろうか。今後の詳細な分析と調査研究に期待したい。

<奈良時代～平安時代>

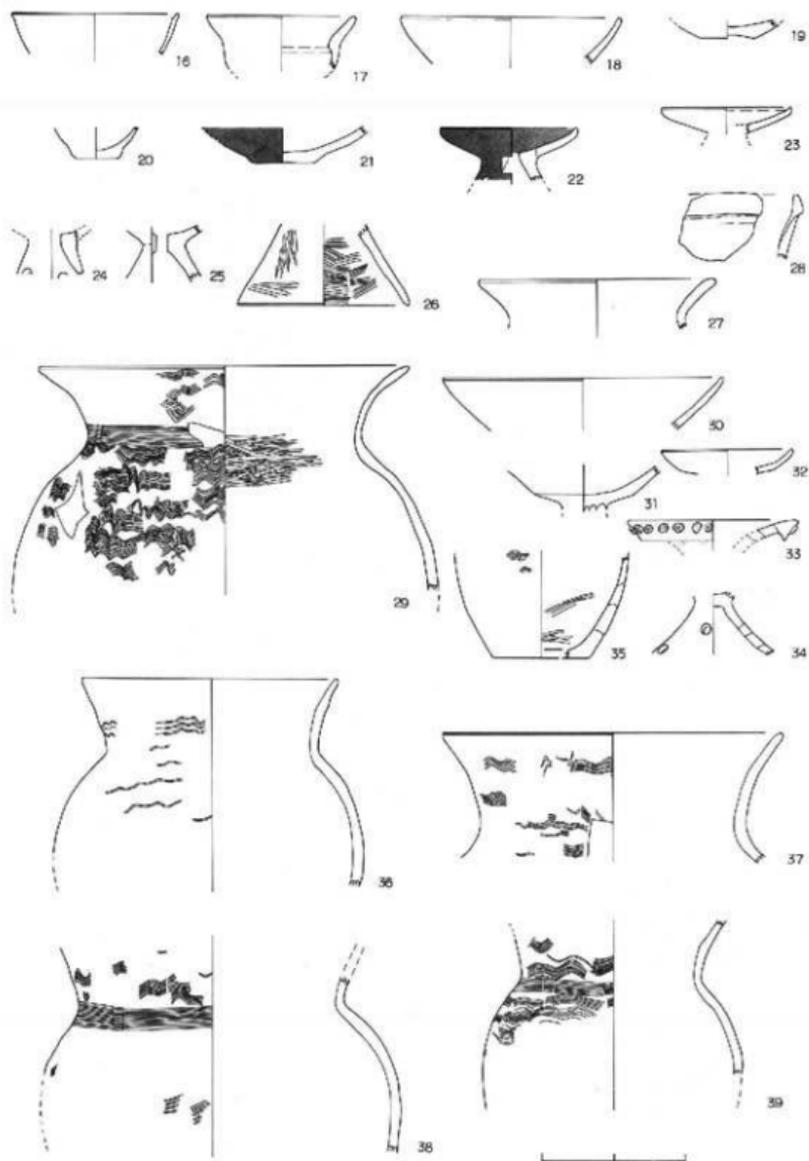
出土土器は、破片が多く詳細な検討には注意が必要であるが、概ね8世紀後半から10世紀前半までの土器が中心となっている。特に8世紀末から9世紀初頭にこの集落の最盛期があるようである。39・42・44号住の土器は8世紀末の奈良時代から平安時代にかけてのものと思われる。この時期の良好な土器セットとして、上田市民林之郷遺跡11号住・明神前遺跡第Ⅱ地点住居跡・高田遺跡・殿田遺跡などをあげることができる。28号住の土器は10世紀前半のものと思われる。これらのことから、信濃国分寺が建立されてからその機能が停止していった時期の集落と考えることができる。

竪穴住居跡は、奈良時代のは遺跡全体に分布しているが平安時代のは遺跡の東側に多い。掘立柱建物跡は、基本的には微高地に沿って東西方向か、横断するように南北方向に建っている。しかし、その方向性の違いから大まかに、19～22号掘立柱建物跡を中心としたものと54～56号掘立柱建物跡を中心としたものの二時期に分けることができると考える。このような掘立柱建物跡を中心とした集落は、一般的な農村集落と考えるより公的性格をもった集落と考えたい。

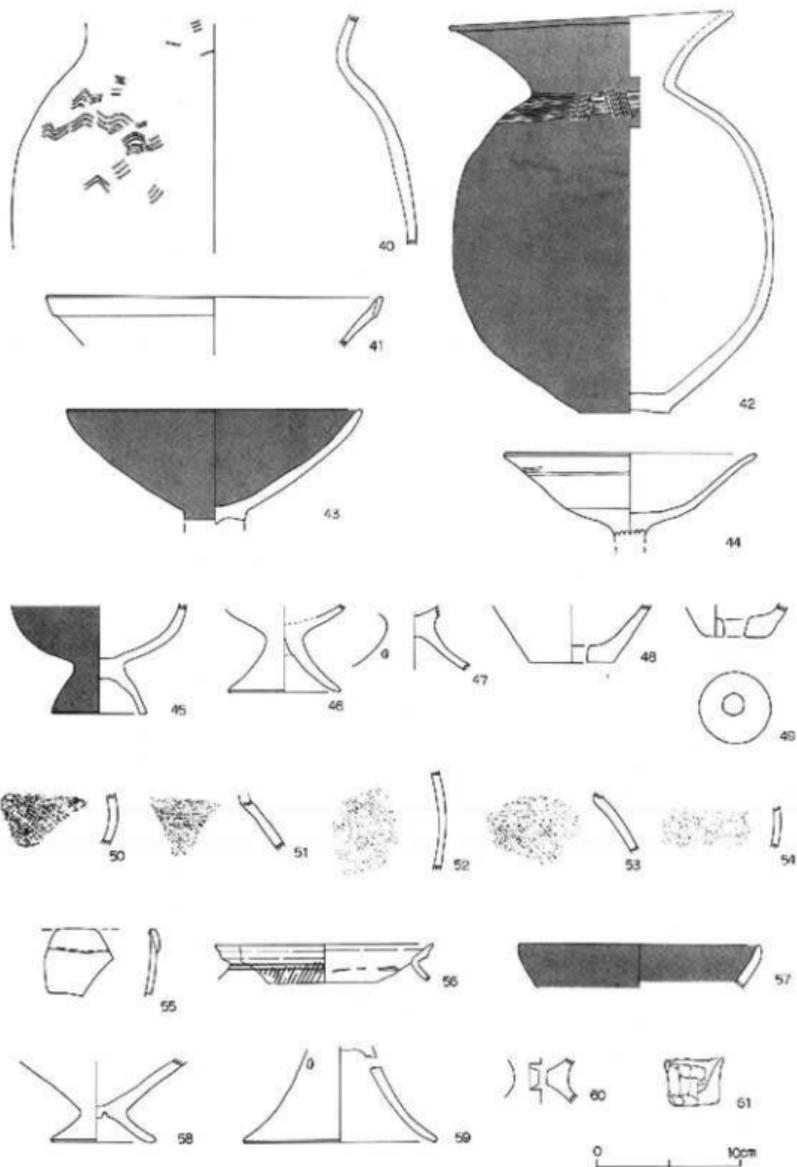
また、その由来が平安時代に逆上ることができる「すばこ様」の「すばこ」とは「寸白」(すばく・すばこ)と書く。これは、平安時代後期に書かれた「小右記」などでは桑虫などの寄生虫によって起こる病気であり、「栄花物語」などでは婦人病の意味として使われている。いずれにしても、病気の様相であることが推察される。



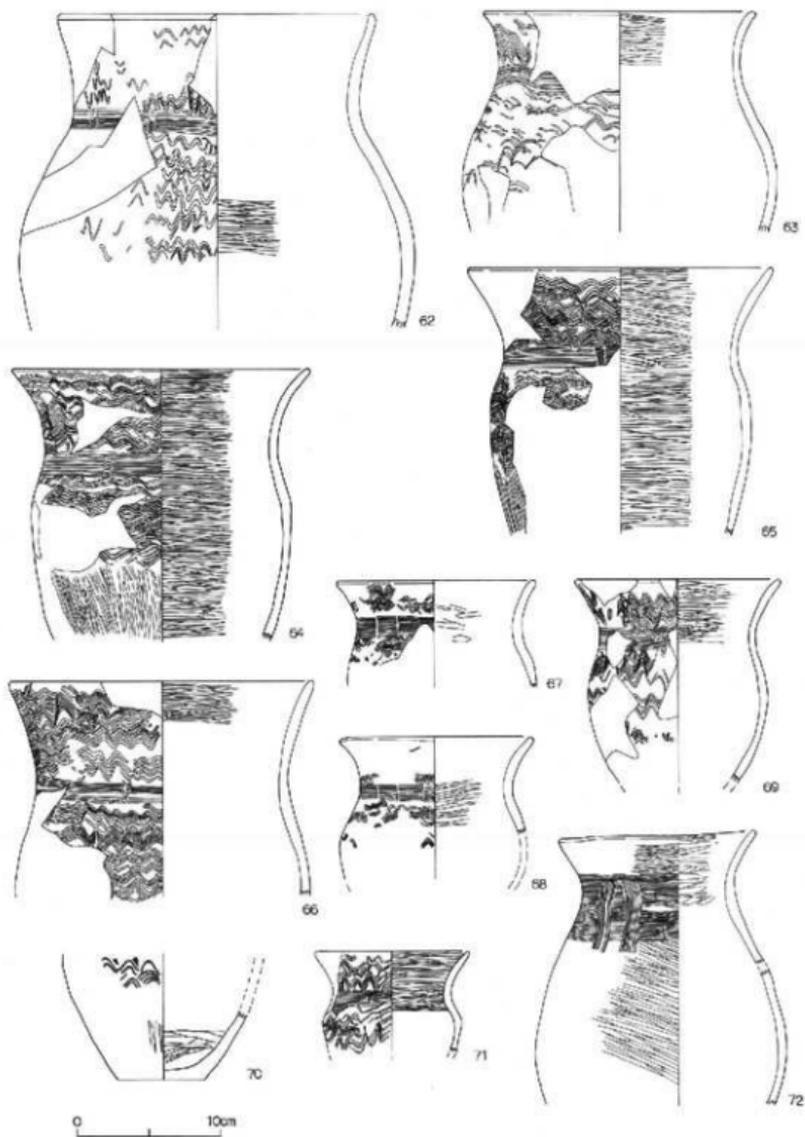
第100圖 上平遺跡出土土器



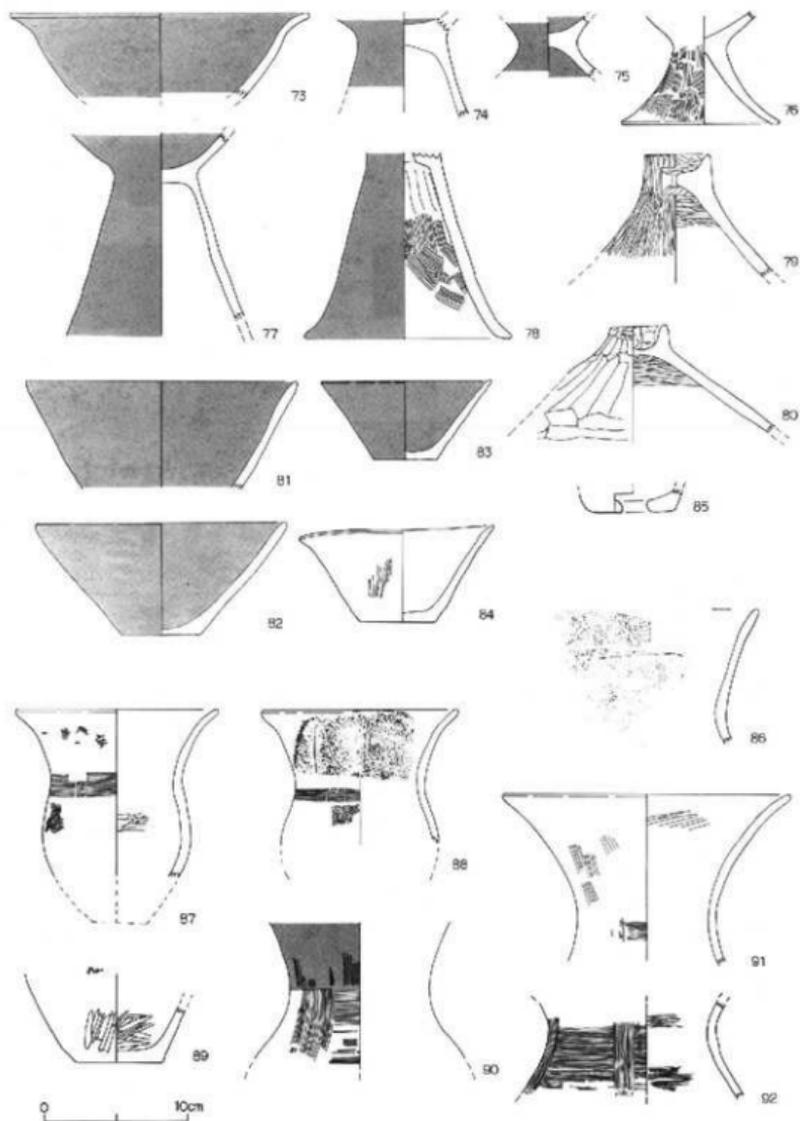
第101图 上平・金井裏遺跡出土土器



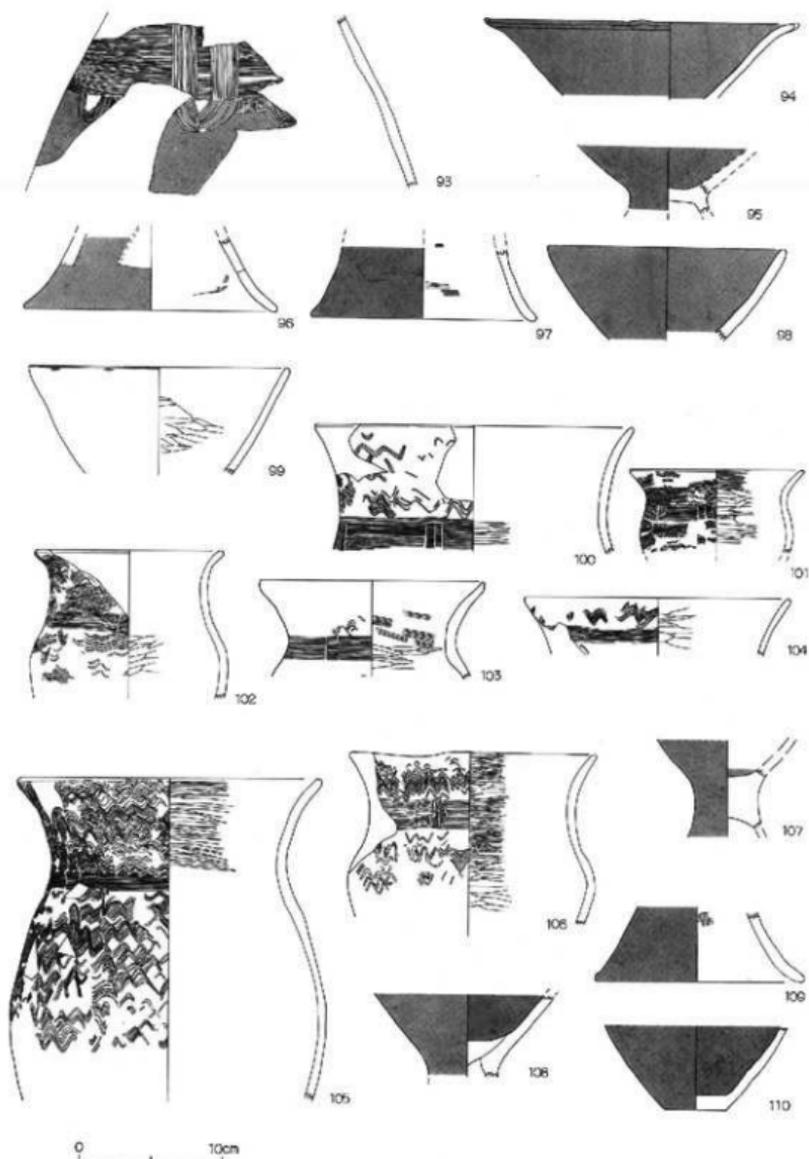
第102圖 金井裏遺跡出土土器



第103圖 和手遺跡出土土器



第104圖 和手遺跡出土土器



第105圖 和手遺跡出土土器

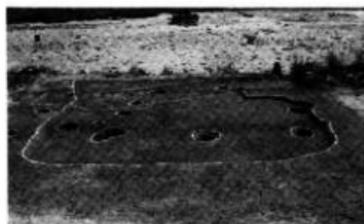
写 真 图 版



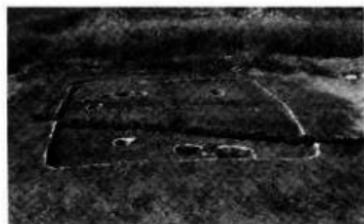
H4年度航空写真



H5年度航空写真



SB-17~18



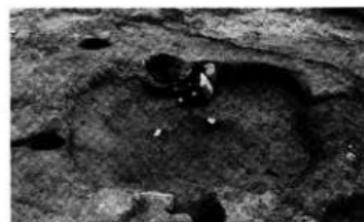
SB-25



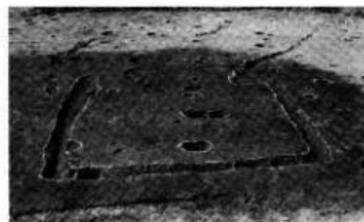
SB-29



SB-37



SB-39



SB-42



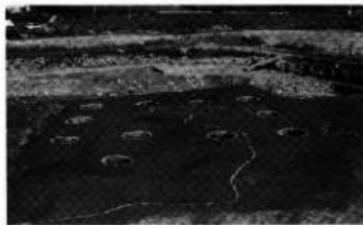
SB-44~46



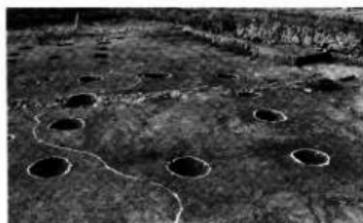
SB-44・カマド



SB-47



ST-19



ST-21



ST-22



ST-56



SD-36



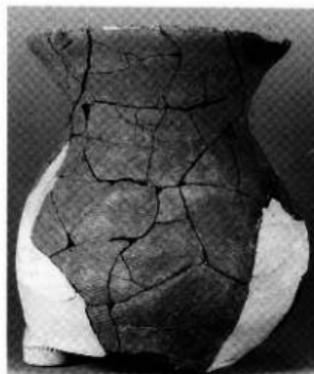
平成4年度・作業員の皆さん



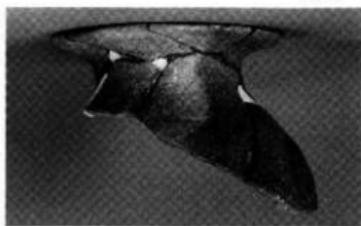
平成5年度・作業員の皆さん



No. 3



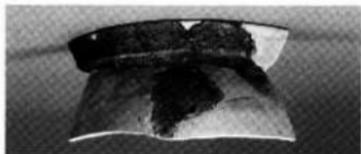
No.116



No.241



No. 45



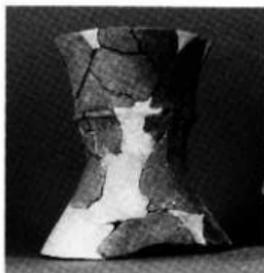
No.38



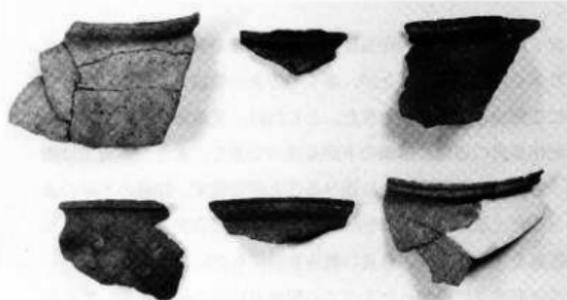
No. 28



No.179



No.249



No.233・226・224(後列) No.229,227,225(前列)



No.277



No.21



No.94



No.102



No.109



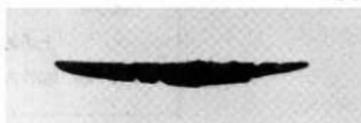
No.114



No.60



No.53



刀子

おわりに

本書が刊行されるまでは、約3年間の発掘調査と整理作業を費やすこととなった。その間、公私にわたり多くの困難に遭ったが、多くの方々の御協力、御理解、御支援をいただき、刊行にこぎつけることができた。とりわけ、夏の暑い日に発掘調査に従事してくださった作業員の皆様には頭の下がる思いである。また、本書では担当者の経験不足の為、言いたいことを十分に述べることができず、知識の不足の為に多くの間違いがあることと思われる。御容赦願いたい。次回のチャンスというものがあるのならこの経験を生かして、より良い報告を目指したい。

最後に、宮の前遺跡発掘調査に係わったすべての関係者に深い謝意を表して終わりとしたい。

上田市文化財調査報告書 第51集
宮の前遺跡発掘調査報告書

発行 平成7年3月24日
発行者 上田市教育委員会
上小地方事務所
印刷 南竹内印刷